徳山ダム水没地区

埋蔵文化財発掘調査報告書

「はいづめ遺跡」

—岐阜県揖斐郡藤橋村大字戸入—

平成元年３月

水資源開発公団
岐阜県教育委員会

序

昭和63年４月20日、徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査の鍬入れ式に臨みました。途中の村々は満開の桜の花につつまれていましたが、旧徳山村地内へ入ると、花の咲いている草木は一本もなく、奥山には雪も残っていて、長く雪にとざされた冬の名残りを感じました。おそらく、徳山に住んでみえた方々は、豊かな自然を享受できる春・夏の訪れを毎年きびしい寒さに耐えながら待っておられたことでしょう。また、家々が取り壊され、住む人のいなくなった集落をみるにつけ、新しい移住地に向けて故郷を後にされた村民の方々の胸中を思い、身も心もひきしまりました。

昭和61年４月、岐阜県は、水資源開発公団からの依頼を受け、徳山ダム水没地区の埋蔵文化財の発掘調査に着手しました。岐阜県文化財保護審議会委員の指導のもとに、水資源開発公団・藤橋村等の関係機関や地元研究者の協力を得て、県教育委員会の手で発掘調査を進めています。

このたび、昭和61・62両年度にわたって実施した「はいづめ遺跡」の調査結果がまとまり、刊行の運びとなりました。「はいづめ遺跡」は、縄文時代晩期の尖底土器をはじめとする土器や土器片約３万点、石刀・石冠・凹石などの石器類約５千点が出土し、住居跡も３基発見されており、今から約2500～2000年前に徳山の地に住んでいた先人の生活と文化を記録することができたと思います。

この報告書の刊行に当たり、発掘調査に協力いただいている関係機関や県民の方々に深く感謝を申し上げるとともに、本書が徳山地区のみならず東海地方の歴史の研究に大いに活用され、今後とも一層のご指導・ご協力を賜わることをお願いする次第です。

平成元年３月

岐阜県教育委員会

教育長　吉　田　　豊

例　　言

1　本書は、岐阜県揖斐郡藤橋村大字戸入字ハイツメに所在する「はいづめ遺跡」の調査報告書である。

2　「はいづめ遺跡」は、徳山ダム建設にともなう水没予定地内にある。このため、本遺跡の発掘調査は、水資源開発公団と岐阜県が委託契約を結び、岐阜県教育委員会が実施した。

3　発掘調査は、昭和61年４月１日から昭和63年３月31日までの２年間にわたって実施した。

4　調査団の構成は、次のようである。

団　　長	岐阜県教育委員会　教育長	吉田　豊
副 団 長	岐阜県教育委員会　指導部長	篠田幸雄（昭和61年度）
	岐阜県教育委員会　指導部長	野口義行（昭和62年度）
指導調査員	岐阜県文化財保護審議会委員　信州大学教授	大参義一
調 査 員	岐阜県教育委員会　文化課学芸主事	宮崎光雄
	岐阜県教育委員会　文化課学芸主事	宇野治幸
	岐阜県教育委員会　文化課学芸主事	小川敏雄
	岐阜県教育委員会　文化課教育主事	青木　久
補助調査員	信州大学人文学部比較文化論　大学院生	松本建速
	信州大学人文学部比較文化論　学　　生	藤田英博
事 務 局	岐阜県教育委員会　文化課長	澤田　確
	岐阜県教育委員会　文化課文化財第２係長	清水　進
	岐阜県教育委員会　文化課	文化課職員

5　遺物の整理・復元・実測図・拓影・写真撮影等は、岐阜県教育委員会文化課および信州大学人文学部比較文化論教室により実施した。

6　報告書の執筆は、大参義一氏の指導のもとに、第６章（遺物）・第７章（考察）は、信州大学人文学部比較文化論教室が担当し、その他は、岐阜県教育委員会文化課が担当した。

7　本発掘調査にあたって、旧徳山村・藤橋村・久瀬村・揖斐川町・揖斐県事務所・西濃教育事務所には、多大な協力を得た。また、地元の研究者、県内外の研究者諸氏には、調査および報告書執筆にあたって、ご指導・ご教示を得た。ここに謝意を表する次第である。

目　　次

序　文
例　言
第　1　章　発掘調査に至るまでの経過……1
第　2　章　遺跡付近の環境……2
第1節　自然的環境……2
第2節　歴史的環境……3
第　3　章　発掘調査の経過……6
第1節　昭和61年度発掘調査……6
第2節　昭和62年度発掘調査……8
第　4　章　基本的層序……10
第　5　章　遺　構……12
第1節　住居跡……12
第2節　土器棺墓……16
第3節　その他の遺構……26
第　6　章　遺　物……29
第1節　土　器……29
第2節　石　器……58
第　7　章　考　察……64

挿図目次

第1図　遺跡付近の地形図……2
第2図　旧徳山村の縄文時代遺跡……4
第3図　グリッド設定図……6
第4図　はいづめ遺跡層序模式図……10
第5図　13－R・Xセクション図……11
第6図　13－G・Hセクション図……11
第7図　遺構位置図……12
第8図　第1号住居跡実測図……13
第9図　第1号住居跡炉跡実測図……14
第10図　第2号住居跡炉跡実測図……14

第11図　第３号住居跡実測図……15
第12図　第３号住居跡炉跡実測図……16
第13図　第１号土器棺墓実測図……17
第14図　第２号土器棺墓実測図……17
第15図　第３号土器棺墓実測図……18
第16図　第４号土器棺墓実測図……19
第17図　第５号土器棺墓実測図……19
第18図　第６号土器棺墓実測図……20
第19図　第９号土器棺墓実測図……21
第20図　第10・11号土器棺墓実測図……22
第21図　第12号土器棺墓実測図……23
第22図　第13号土器棺墓実測図……23
第23図　第14号土器棺墓実測図……24
第24図　第15号土器棺墓実測図……25
第25図　第16号土器棺墓実測図……25
第26図　土壙墓実測図……26
第27図　石囲い遺構実測図……27
第28図　集石遺構実測図……28
第29図　縄文土器　第１群土器拓影……29
第30図　縄文土器　第２群土器拓影……30
第31図　縄文土器　第３群土器拓影……30
第32図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(1)……31
第33図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(2)……32
第34図　縄文土器　第４群土器第１類拓影(1)……34
第35図　縄文土器　第４群土器第１類拓影(2)……34
第36図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(3)……35
第37図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(4)……36
第38図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(5)……37
第39図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(6)……38
第40図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(7)……39
第41図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(8)……40
第42図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(9)……41
第43図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(10)……42
第44図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(11)……43
第45図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(12)……44

第46図　縄文土器　第４群土器第１類実測図(3)……45
第47図　縄文土器　第４群土器第２類実測図……46
第48図　縄文土器　第４群土器第２類拓影……47
第49図　縄文土器　第４群土器第３類拓影(1)……49
第50図　縄文土器　第４群土器第３類拓影(2)……50
第51図　縄文土器　第４群土器第３類拓影(3)……51
第52図　縄文土器　第４群土器第３類実測図(1)……52
第53図　縄文土器　第４群土器第３類実測図(2)……53
第54図　縄文土器　底部・注口実測図……54
第55図　弥生土器実測図……56
第56図　弥生土器　第１群土器拓影……57
第57図　弥生土器　第２群土器拓影……57
第58図　石鏃・石槍・異形部分磨製石鏃実測図……59
第59図　くさび型石器・掻器・削器・剥片石器・石錘実測図……60
第60図　打製石斧・磨製石斧実測図……61
第61図　石錘・石刀・石棒実測図……62
第62図　石冠実測図……63

付表目次

第１表　旧徳山村の縄文時代遺跡一覧表……5
第２表　昭和62年度はいづめ遺跡作業行程表……9
第３表　出土土器　調整手法……66
第４表　石器一覧表……68

図版目次

図版　1　昭和61年度発掘調査……79
（1:はいづめ遺跡全景，2:第１号土器棺墓，3:第２号土器棺墓，4・5:集石遺構）
図版　2　昭和62年度調査区全景……81
（1：南地区全景，2：北地区全景）
図版　3　発掘作業風景・第１号～２号住居跡……83
（1～3：発掘作業風景，4～6：第１号住居跡，7～9：第２号住居跡）

図版　4　第３号住居跡・その他の遺構・遺物出土状態…… 85
（１・２：第３号住居跡炉跡，３・４：土壙墓，５・６：石囲い遺構，７～10：遺物出土状態）
図版　5　土器棺墓出土状態　1…… 87
（１：第３号土器棺墓，２～４：第４号土器棺墓，５：第５号土器棺墓，６・７：第６号土器棺墓）
図版　6　土器棺墓出土状態　2…… 89
（１：第７号土器棺墓，２：第８号土器棺墓，３・４：第９号土器棺墓，５：第10・11号土器棺墓，６：第10号土器棺墓，７：第11号土器棺墓）
図版　7　土器棺墓出土状態　3…… 91
（１・２：第12号土器棺墓，３：第13号土器棺墓，４：第14・15・16号土器棺墓，５：第14号土器棺墓，６：第15号土器棺墓，７・８：第16号土器棺墓）
図版　8　土器棺　1…… 93
（１：第１号土器棺，２・３：第２号土器棺，４・５：第４号土器棺，６：第５号土器棺，７：第７号土器棺，８：第９号土器棺）
図版　9　土器棺　2…… 95
（１：第９号土器棺，２・３：第10号土器棺，４・５：第12号土器棺，６：第13号土器棺，７：第14号土器棺）
図版　10　土器棺　3・その他の土器…… 97
（１・２：第15号土器棺，３・４：第16号土器棺，５～９：その他の土器）
図版　11　石器類　1…… 99
（１：石鏃，２：石匙・スクレーパー類・異形部分磨製石器，３：石刀・石棒）
図版　12　石器類　2……101
（１・２：打製石斧，３・４：磨製石斧）
図版　13　石器類　3……103
（１：石錘，２：凹石・磨石・敲石類，３：石冠，４：薄片石器）
図版　14　土器類　1……105
（１：縄文土器　第４群第１類土器凸帯，２：縄文土器　第４群第１類土器壺，３：縄文土器　第４群第２類土器，４：縄文土器　第４群第３類土器，Ⅰ類）
図版　15　土器類　2……107
（１・２：縄文土器　第４群第３類土器，Ⅱ類，３：縄文土器　第４群第３類土器，Ⅲ・Ⅳ類，４：縄文土器　第４群第３類土器，Ⅴ類）
図版　16　土器類　3……109
（１：縄文土器　第４群第３類土器，Ⅵ類，２：縄文土器　注口土器，３：弥生土器　第１群土器，４：弥生土器　第２群土器）

第１章　発掘調査に至るまでの経過

徳山ダムの建設は、昭和32年電源開発株式会社が、発電を主目的に建設計画を発表した。その後、伊勢湾台風をはじめとして、相つぐ下流域の大出水により昭和41年度からは、建設省が引き継いで調査をおこなってきた。昭和48年３月木曽川水系の水資源開発基本計画の変更により、水資源開発公団が事業を実施することになった。

ダムは、流水の正常な機能の維持、水道用水及び工業用水の供給、並びに発電を目的として建設される多目的ダムで、ロックフィル形式である。貯水容量は、６億6000万㎥にのぼり、堤高は161ｍである。このダムの建設により、洪水満水位水没線は、海抜401ｍとなり、旧徳山村のほぼ全戸が水没・離村することになった。当然埋蔵文化財のほとんども、湖底に沈むことになる。

このために、昭和58年10月12日に水資源開発公団徳山ダム建設所長より、遺跡の分布調査の依頼があった。これを受けて、昭和59年10月２日から11月17日にかけて、文化庁の昭和59年度国庫補助事業として分布調査を実施した。昭和60年３月には、この調査にもとづき、『揖斐川上流域徳山ダム・杉原ダム水没地区埋蔵文化財分布調査報告書』を発刊する。

さらに、昭和60年５月９日、水資源開発公団徳山ダム建設所において、徳山ダム水没地内遺跡発掘調査計画のための打ち合せを行う。昭和60年夏から秋にかけて、発掘調査計画策定のために、岐阜県文化財保護審議会委員（信州大学教授）の大参義一氏の指導のもとに、数回の現地調査を実施する。

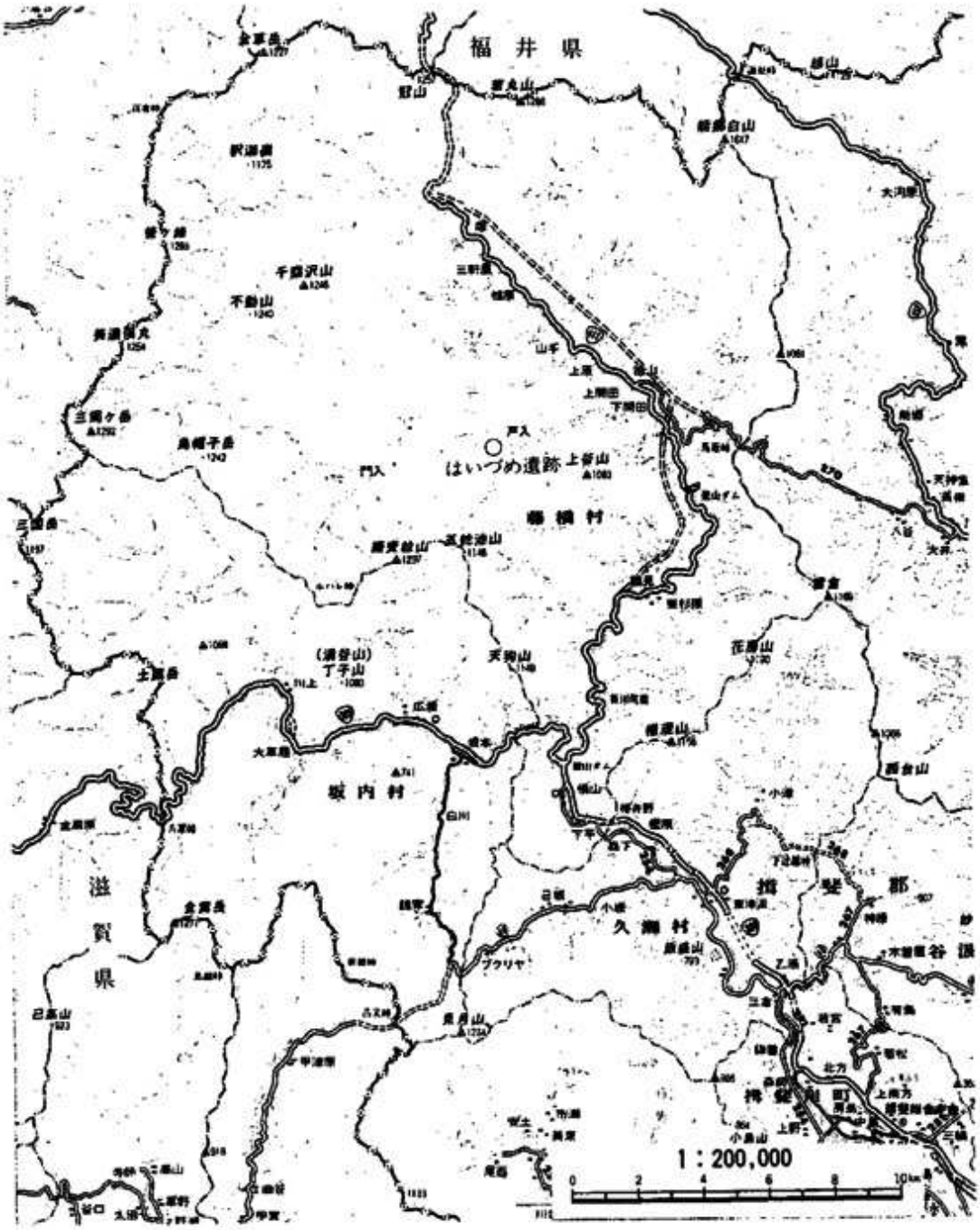
以上の調査結果にもとづき昭和61年３月17日に、徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査計画書を水資源開発公団に提出した。

昭和61年４月７日、水資源開発公団から岐阜県に対して、昭和61年度発掘調査の委託契約締結の依頼があり、これを受託した。昭和61年度発掘調査は、はいづめ遺跡2007㎡のうち600㎡に限定して調査を実施した。徳山ダム水没地内の発掘調査は、昭和61年度から平成９年度までの長期にわたる発掘調査である。このため、昭和61年度の発掘調査は、協定書締結のための資料を得る意味も合せ持っていた（協定書締結のための試行的発掘調査）。

昭和62年３月27日、計画書の一部手直しを行い、水資源開発公団と岐阜県の間で「徳山ダム建設事業に伴う水没地区埋蔵文化財発掘調査に関する協定」を締結した。昭和62年度の調査は、この協定書をもとに昭和61年度に引き続き、はいづめ遺跡1407㎡・小の原遺跡1500㎡合計2907㎡の発掘調査を受託した。しかし、調査の過程で、はいづめ遺跡の範囲が、当初の発掘予定面積（1407㎡）よりも、さらに拡大（1952㎡）することが判明した。このため、はいづめ遺跡は、昭和61年度、62年度合わせて2,552㎡を発掘調査した。

第2章　遺跡付近の環境

第1節　自然環境



第1図　遺跡付近の地形

位置と地形　本遺跡の存在する旧徳山村は、揖斐川の最上流部にあり、福井県・滋賀県（間に坂内村をはさむ）の県境に位置する。四囲を1200m前後の山地にかこまれており、いわゆる越美山地に属する山地帯である。

この山地帯の北西から南東方向、断層線にそって揖斐川が貫流し、さらに揖斐川に注ぐ大小の支流が深い谷をつくっている。そして、これらの河川が蛇行した部分に狭少な河岸段丘が、山地にへばりつくようなかたちで形成されている。

徳山の人々の生活の場は、これら狭少な河岸段丘上にあるが、大きく分けて、揖斐川本流の東谷と支流西谷川の西谷に分けられる。東谷には上流から塚・櫨原・山手・本郷・上開田、西谷には門入・戸入の各集落がある。そして、各集落をつなぐように交通路が開け、美濃から越前へ、また美濃から近江へと抜けることができる。

地　質　旧徳山村を構成する地質は大部分が古生層であるが、能郷白山・若丸山付近には花崗閃緑岩、安山岩の岩層がみられる。はいづめ遺跡のある戸入地域の主体をなす岩層は、偽礫を含有している砂質粘板岩で、チャート・輝緑凝灰岩・石灰岩等の薄層を挟有している。

気候と植生　旧徳山村は、越美山地に属し、多分に裏日本的要素が強く、冬期の積雪は非常に多くなっている。しかし、夏期の降水量も多く東海型気候の要素もあり、北陸型と東海型気候の漸移的性格をもっているとみられる。植生の面でも裏日本型気候の影響を強く受けている。針葉樹が貧化しており、落葉広葉樹が大部分を占めている。

徳山の自然林を面として分けてみると、三つに分けることができる。北部および西部の県境の山地帯を中心としてブナ林が広がり、南東部はミズナラ林で、その間にブナとミズナラの混交林がある。

遺跡のある戸入付近では、山麓に植林された杉林を除いては常緑喬木は、ほとんどみられない。常緑灌木ではイヌツゲ・シャクナゲ・クロガネモチなどが所々にみられる。これに対して落葉樹は、川岸・山麓一帯に数多くみられる。落葉喬木では川岸近くにケヤキ・ケンポナシ・オニグルミ・アカシデ・イヌシデ・サワグルミ・トチノキなどが、山麓にはケヤキ・トチノキ・ミズナラ・ブナ・ホオノキなどがみられる。

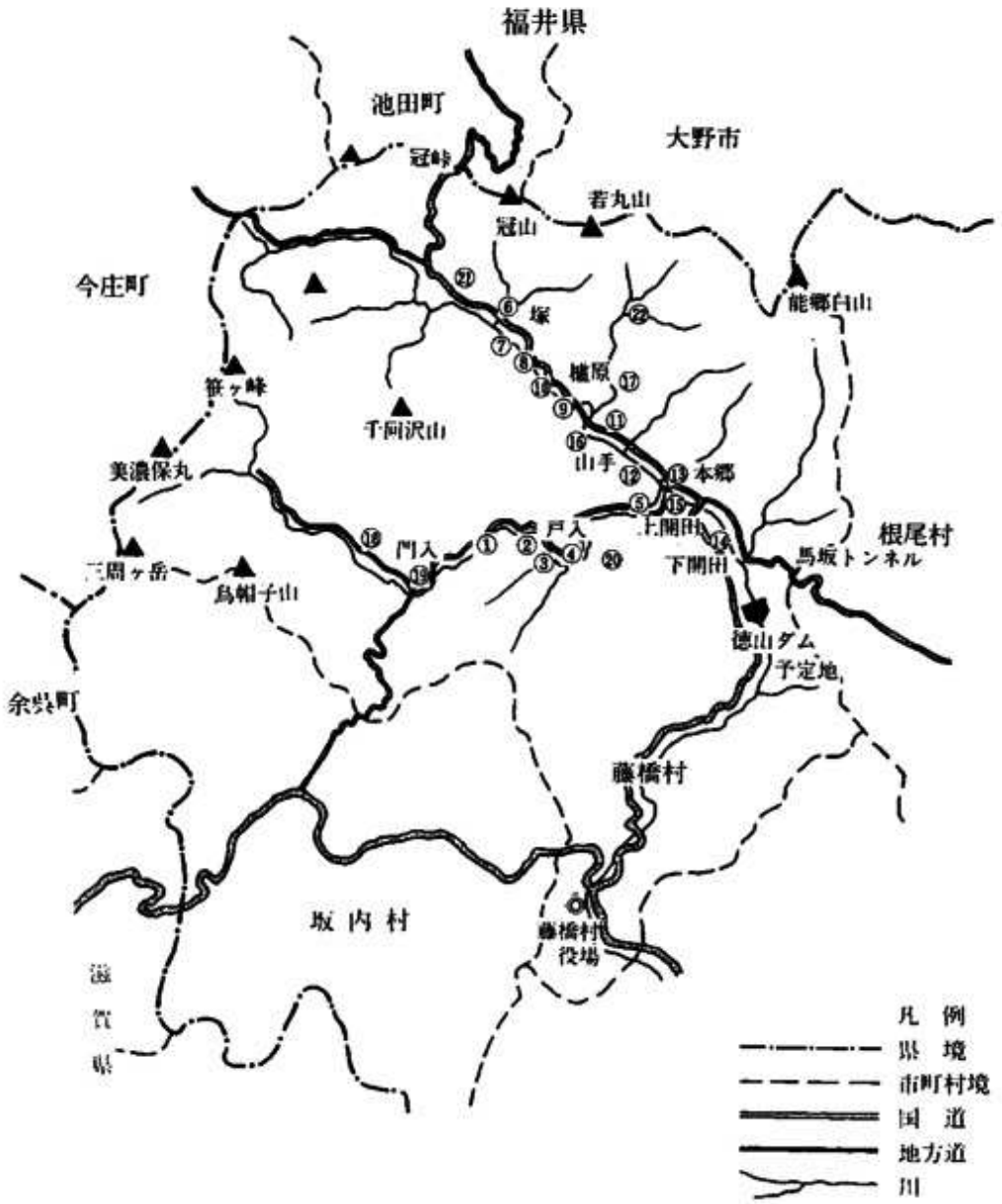
第2節　歴史的環境

はいづめ遺跡は、揖斐郡藤橋村大字戸入字ハイツメ（旧徳山村・昭和62年3月31日廃村）に所在する。

徳山ダム建設に伴って廃村となった旧徳山村には、本遺跡を含め現在約27か所の遺跡が知られている。旧徳山村の遺跡は、すでに大正年間に小川栄一氏によって調査され報告されている。第二次大戦後も小川氏の調査によって報告されたが、5か所の遺跡しか知られていなかった。

その後、小澤一弘氏らによって塚奥山遺跡（宮ケ原遺跡）の遺物の紹介がなされただけであった。ダム建設の話が本格化した頃から、根尾弥七氏ら地元の研究者達は、村内を踏査し、多くの成果を発表された。岐阜県教育委員会は、先達の成果を踏まえ、徳山ダム建設に伴う埋蔵文化財の分布調査を実施し報告した。

旧徳山村では、旧石器時代の遺跡は発見されていない。塚奥山（宮ケ原）遺跡や小の原遺跡など5遺跡で、ナイフ型石器に類似する石器が採集され、旧石器時代遺跡の可能性が報告されている。しかし、現在のところ明確な遺物が発見されていないため、旧徳山村に旧石器時代か



第2図　旧徳山村の縄文時代遺跡

ら人が住んでいたとは言えない。旧徳山村に人間が生活し始めたのは縄文時代に入ってからである。縄文時代の遺跡は22か所（第１表、第２図）発見されている。

縄文時代草創期の遺跡は、昭和63年度の発掘調査で有舌尖頭器を検出した小の原遺跡１か所だけである。小の原遺跡の出土遺物は現在整理中のため、この時期の土器の有無など詳細は報告書を待ちたい。

早期になると、徳山の各地に遺跡が点在してくる。揖斐川本流域の上原（あげはら）遺跡・塚奥山遺跡などや支流の西谷川流域の小の原遺跡などである。はいづめ遺跡でもこの時期の押型文土器の破片が出土しているが、小破片であり磨滅しているので、小の原遺跡からの流れ込みとも考えられるが不明である。

前期では、本流域の小屋どこ遺跡を中心に櫨原村平遺跡・上原（あげはら）遺跡などで土器片が出土している。西谷川流域では小の原遺跡が中心で、はいづめ遺跡でも土器の小破片が出土している。

中期になると、西谷川流域では戸入村平遺跡で少しまとまって出土しているだけであるが、本流域では、塚奥山遺跡を中心に小屋どこ遺跡・塚遺跡・櫨原村平遺跡・上原（あげはら）遺跡など多く分布するようになる。塚奥山遺跡など大集落が営まれていた可能性が大きい。

後期では、戸入村平遺跡や塚遺跡・櫨原村平遺跡を中心に展開するが、中期に比べて遺跡数は減少傾向にある。

晩期になると、西谷川流域のはいづめ遺跡や戸入村平遺跡が中心で、本流域では櫨原村平遺跡など小規模になる傾向である。

弥生時代の遺跡はますます少なくなり、現在のところはいづめ遺跡１か所だけである。はいづめ遺跡では、前期の遠賀川系土器の他は中期のものが若干出土しているにすぎない。この時期以降、奈良時代頃の須恵器が出土する磯谷口遺跡までの間の遺跡は、現在のところ見つかっていない。

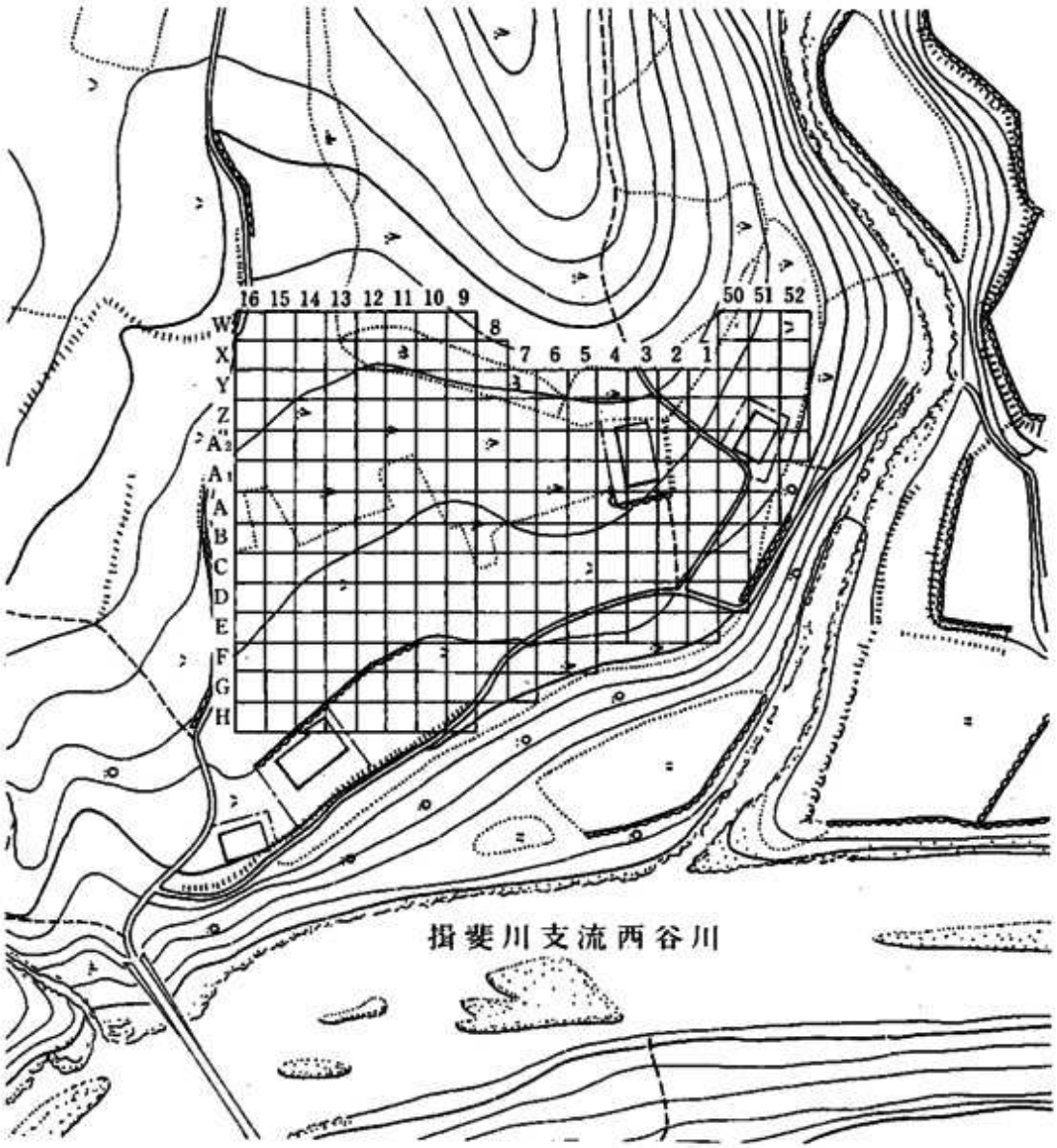
	遺跡名	旧石器	縄文時代						弥生	備考
			草	早	前	中	後	晩		
1	いんべ									縄文土器小片少し。石器多数。
2	小の原	?	△	○	●					有舌尖頭器検出。旧石器は検出できず。　S62・63発掘調査
3	はいづめ			△	○	△	△	●	○	S61・62発掘調査
4	戸入村平					○	●	○		S63・H1発掘調査中
5	遠分									石器少し
6	塚奥山	?		△		●	○	△		（宮ヶ原遺跡）
7	塚					○	●			（塚村平遺跡）
8	長吉									石器少し
9	櫨原村平	?			△	○	●	○		
10	櫨原神向									石器・打斧・スクレーパー少し
11	尾先			△	△					石器のみ
12	上原（あげはら）	?		△	△	○	△	△		
13	本郷									石器。
14	下洞田村平									石器・石棒・打斧・土器
15	上洞田村平									石器・石棒・打斧・スクレーパー
16	山手宮前					○				
17	いじま									縄文土器細片少し
18	しょうじょ									石器・打斧・石匙・スクレーパー
19	戸入村平									石器少し
20	上原（うえはら）									縄文土器小片少し。石器石器少し
21	石橋					△				縄文土器少し。石棒・石棒・石匙
22	小屋どこ	?		△	○	●	△	△		

第１表　旧徳山村の縄文時代遺跡一覧

第3章　発掘調査の経過

第1節　昭和61年度発掘調査

本年度の現地での発掘は、6月26日の鍬入れ式をもって開始し、8月21日に終了した。発掘調査面積は600㎡である。本年度の発掘が小規模であったのは、昭和62年度以降、協定を締結するための基礎資料を集める側面を持っていたからである。



第3図　グリッド設定図

発掘前の状況　はいづめ遺跡は、南北150m、東西70mの河岸段丘上にある。この河岸段丘は、背後の山地からの土砂の流入と堆積が著しく、全体として西側から東側（揖斐川支流西谷川）にゆるやかな傾斜をもっている。また、西側にある小丘に続く中央部がやや高くなっており、南側及び北側にもゆるやかな傾斜をもっている。このため、傾斜地は石垣等により、いくつかの平坦面に区切られている。特に、南東側は住宅があったため、石垣により大きく傾斜面が切断されている。

これら傾斜地は主に畑地として利用されているが、西側一帯は杉林および竹林となっている。遺物の散布は、中央部東端の一部に限られているが、分布の範囲はさらに拡大するとみられる。

グリッドの設定　グリッドの設定は、昭和59年度分布調査と現状を勘案して、西側の杉林・竹林より東側、北側の小径より南側を遺跡の範囲として実施した。

グリッドは、地形と磁北がほぼ合致するとみなし、磁北に合せて基線を設定した。グリッドの単位は、一辺を4mとし、座標北から南へ1～17、西から東へA～Iと順次番号を付した。

発掘調査経過　第1週（61.6.26～61.6.28）　グリッドの設定および地形測量を実施する。

第2週（61.6.30～61.7.4）　掘削を開始する。本年度の発掘は、600㎡に限定されたために、南北2～8列、東西A～G列の範囲で実施することとした。

まず、土層および遺跡の広がりを確認することに重点を置き、5列およびB列をトレンチ状に掘り進める。この結果、土層は基本的に第Ⅰ層（表土・耕作土）、第Ⅱ層（褐色土）、第Ⅲ層（黒色土）の3層に分かれることが確認された。B列では3－B区、4－B区は第Ⅰ層の堆積のみで、第Ⅱ層・第Ⅲ層はほとんど認められなかった。第Ⅰ層の下部は直接黄色砂礫層となる。この部分は西側の小丘に続く尾根状の部分に当り、第Ⅱ層・第Ⅲ層の堆積がなかったか、あるいは流出したものと考えられる。

第3週・第4週（7.7～7.18）　第3週より順次平面掘りに移行した。雨が多く作業ができたのは4日間だけであった。

前週より掘削を続行していた5－D区より、甕の大形破片が出土した。遠賀川系の甕とみられる。掘り方等は明確ではないが、土器棺の可能性もある。

6－A区の表土下20cmより石列が現われる。10cm～20cm大の川原石を使用し、2段に積まれていた。石列の底は表土下約45cm、石列の間に近世の甕破片がはさまれていた。おそらく、近世以降の土留めの石垣とみられる。このことからみて表土下45cmまでの褐色土層は攪乱されているとみられる。

第5週（7.21～7.25）　前半雨にたたられる。6－A区、5－A区で、黒色土が半円状にあらわれる。また、6－A区では北壁黒色土中に、ややまとまった形で縄文晩期土器が出土する。住居跡の可能性もあり、さらに西側に掘削を進める必要が生じる。A列の西側は、山際で杉林・竹林となっていたために当初は遺跡の範囲とは考えていなかった。このために、杉・竹を伐採

し、新たにA1・A2列を設定し、掘削を進める。

第6週（7.28～8.1）　今週は、6－A区北西隅の黒色土層を追求するために、新たに設定したA1列、A2列の掘削を進める。この結果6－A区、5－A区の黒色土層は、A1、A2列全面に広がっていることが分った。おそらく、この黒色土層は、第Ⅱ層の下部に堆積したもので、6－A区、5－A区にあらわれた半円状の黒色土は、その先端部と思われる。したがって、住居跡の可能性はうすくなった。また、6－A区北壁の縄文晩期土器は、土器棺と考るべきであろう。

第7週（8.4～8.8）　5－A1区、表土より約50cmの部分（第Ⅱ層中）より川原石が集中的に出土する。大きいものは長径約50cm、短径約25cmである。性格・時期の確認のため実測の後、石を取り除く。1－B区より条痕系の土器に混じって、縄文のある土器片が数片出土する。この土器片の一つには、表面に縄文、裏面に爪形文のものがある。これら一連の土器片は縄文前期のものと考えられる。絶対量は縄文晩期に比べると非常に少ない。しかし、今後、北西部分に遺構が存在する可能性もあり、調査の必要があろう。

第8週～第9週（8.11～8.21）　前週までに崖際の6列より西側は、第Ⅱ層第Ⅲ層がほとんど流出し、遺物・遺構の検出はむつかしいことが判明した。このため、昭和62年度の調査を考慮に入れて、7列・8列の崖際のE列・F列を中心に調査を実施した。この部分は他地域と異なり、表土より地山までの地層が厚く、1.7～1.2mあった。遺物は、表土下20～50cm前後から最も多く出土し、下層ほど出土量は少なかった。特に、中間部分では黄褐色土が不規則に貫入し、この部分から遺物はほとんど出土していない。また、この付近の黒色土層中には、大小の礫を多数含み、A1列・A2列の黒色土層とは明らかに異なる。

第8週で本年度の発掘調査をほぼ終り、第9週以後埋もどしを実施した。

第2節　昭和62年度　発掘調査

昭和61年度の調査は、前述のごとく遺跡の中央部の畑地を600㎡実施した。昭和62年度は、前年度の調査区の北側と南側地区を1952㎡調査した。両年度の調査面積は合計2552㎡である。

南地区は、山側から谷側つまり西から東へ下がる傾斜地で、13－W区と13－H区との比高差は約7mである。中央部より谷側は畑地であるが、山側は杉の植林地であったため、直径30～50cm程の切り株が散在していた。北地区は比較的傾斜はゆるやかである。前年度の排土置場であったため、埋め戻しの残土が占めているグリッドもある。中央部には細い山道が通っている。

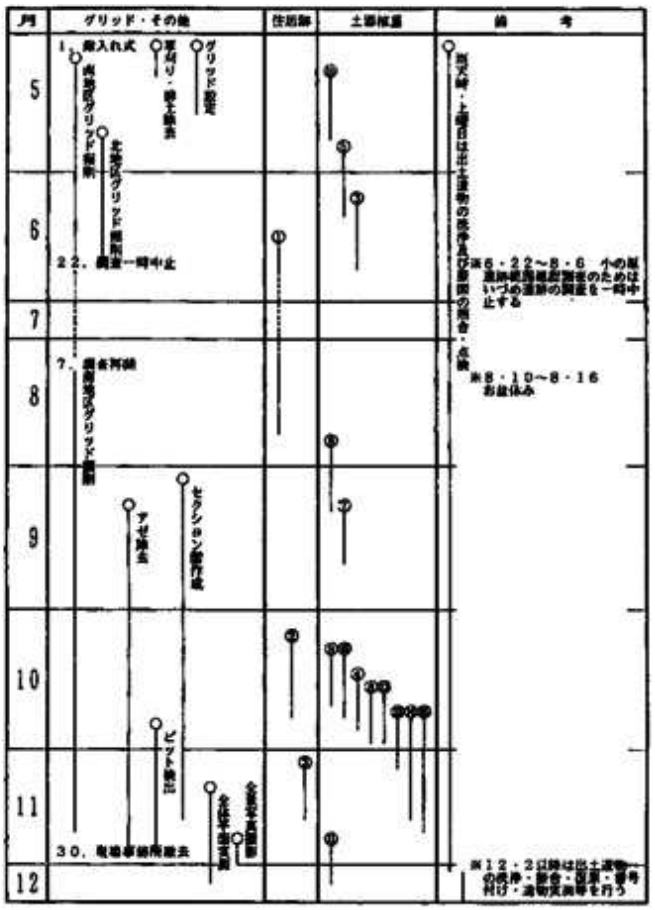
グリッドは、前年度同様、4m四方を一単位とし、磁北方向に設定した。グリッド番号は、前年度に続き、南側へ7～17、北側へ50～52、西側へA1・A2・Z～W、東側へF～Iと設

定した。

昭和62年度は、調査対象面積が広いため、遺跡の範囲確認の意味から、13列からＢ列・Ｚ列へとトレンチ状に掘削し調査を始めた。この結果、遺跡の範囲が広がり、当初予定面積の1408㎡が1952㎡に拡大した。

昭和62年度の調査は、５月１日の鍬入れ式をもって開始した。現地調査は、雨天や土・日曜日などの休日や小の原遺跡の調査期間を除いて、のべ90日間実施し、11月30日に一応終了し、現場事務所の撤去を行った。全体測量が完了していなかったため、12月１日も測量を行った。雨天時や土曜日および12月２日以降は、出土遺物の洗浄・接合・復元・実測など室内での整理作業を行った。

発掘調査行程や遺構の検出日程については、発掘調査日誌や記録にもとづいて作成した第２表をもって略記とする。



第２表　昭和62年度はいづめ遺跡作業行程表

第4章　基本的層序

はいづめ遺跡は、全体に西から東に傾斜しており、常に流出と堆積とを繰り返している。また、耕作地・宅地として利用されていたために、人為的にも土砂が移動している。このため、非常に複雑な層位を示している。

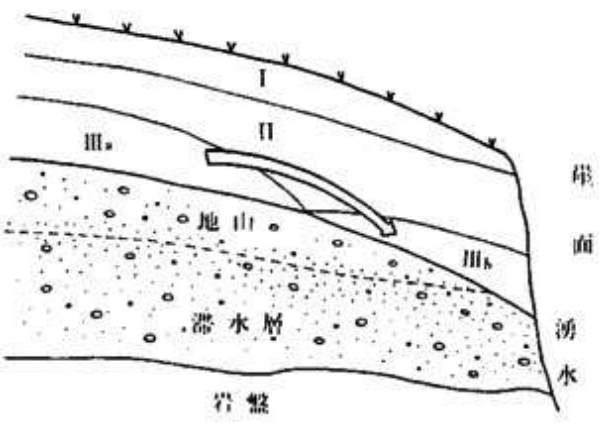
はいづめ遺跡の層位を巨視的にみた場合、岩盤・黄色砂礫層・沖積世堆積層となっている。本遺跡でいわゆる地山と呼ばれるのは黄色砂礫層で、角礫・亜角礫・砂利・砂などによりなりたっている。本遺跡に隣接した小の原遺跡が円礫等により構成されているのと対照的である。これは、小の原遺跡が西谷川本流の堆積物によるのに対して、はいづめ遺跡が南と北にある小沢の押し出しにより形成されたことを意味するのであろう。

黄色砂礫層（地山）の上部は、第4図のように基本的に3つの層位に分けることができる。上部から第Ⅰ層（表土・耕作土）・第Ⅱ層（褐色土層）・第Ⅲ層（黒色土層）の3層である。

第Ⅰ層　表土および耕作土等がこれにあたる、はいづめ遺跡のある河岸段丘は、ほとんどが畑地として利用されていた。この層は、2～3㎝の礫が多数含まれており、粘質度は極めて小さい。また、この河岸段丘は、平坦面を造成するために人為的に土砂が動かされ、場所により土質・厚さなどが大きく異なる。

第Ⅱ層　第Ⅰ層のすぐ下の土層で、大小の礫を含む遺物包含層である。第Ⅰ層と色調はよく似ているが、第Ⅰ層よりもしまりがよくやや粘質である。大小の角礫・亜角礫を含むことから、上部からの移動による堆積を考えるべきであろう。

第Ⅲａ層　黒色土層をａとｂに分けた。第Ⅲａ層は遺跡西側、傾斜上部にある黒色土層である。比較的きめは細かく、しまりもよい。礫も2～3㎝の小礫をわずかに含むのみである。遺物も大破片が多く、8－Z区の第4号土器棺墓などはこの土層を掘り込んでいた。おそらく第Ⅲａ層は、移動の少ない安定した土層であったとみられる。しかし、この層は遺跡全体には残っておらず、西側小丘の山影を中心として残存しているにすぎない。大部分は上部からの流水により、流されてしまったのであろう。



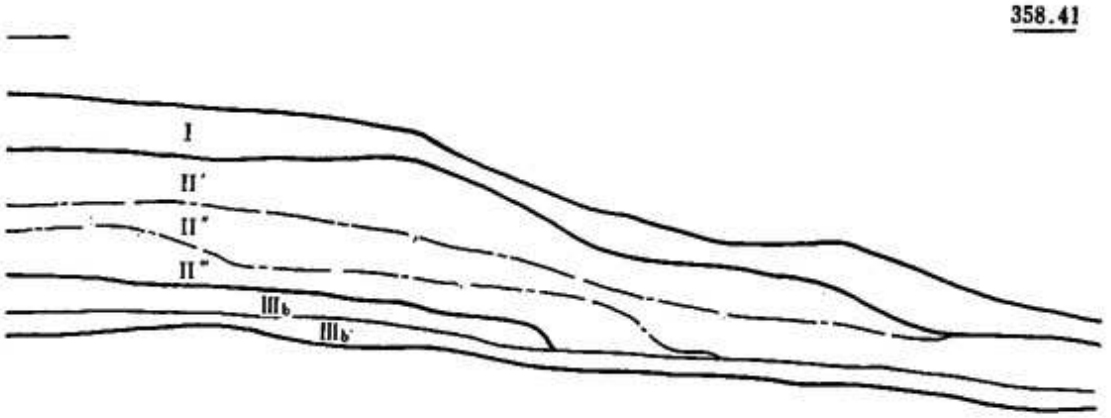
第4図　はいづめ遺跡層序模式図

第Ⅲｂ層　遺跡東側（川側）、すなわち傾斜下部に広がる土層である。大小の礫を多数含み、しまりも悪い。また、

多量の土器破片を含むが、下部は破片の量が極端に少なくなる。おそらく、2層に分かれるものと思われるが、はっきりとした土層の境は不明である。

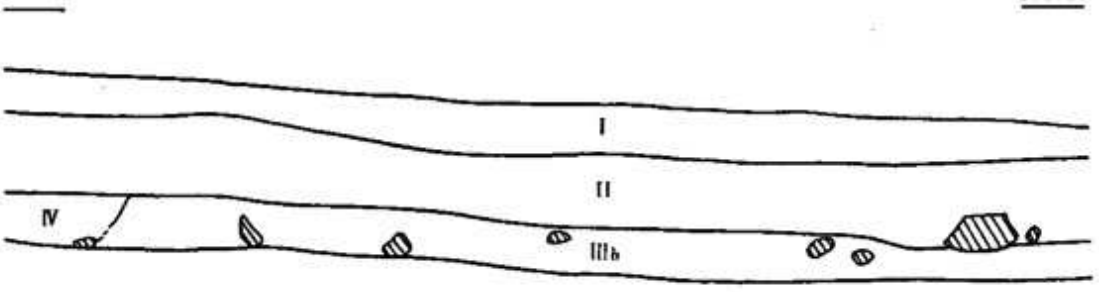
このことから、第Ⅲb層は、第Ⅲa層の二次堆積と考えられ、次のような順序で形成されたと考えられる。すなわち、縄文晩期の生活面が形成される以前に、西側（傾斜上部）にある黒色土層（第Ⅲa層）が削られて、東側の低い部分（傾斜下部）に堆積した。したがって、この段階での第Ⅲb層には、縄文晩期の遺物は、ほとんど含まれていない。やがて、この上に縄文晩期の生活面が形成される。その後、再び上部からの流水等により、縄文晩期の生活面および黒色土層が削られ、東側の低い部分に堆積する。この段階で堆積した黒色土層第Ⅲb層は、縄文晩期の生活面を削りとっているため、多数の土器片を含むことになる。

以上のように考えてみると第Ⅲa層と第Ⅲb層の関連、および第Ⅲb層の上部と下部の関係が理解しやすいのではないだろうか。



第5図　13－R・X　北壁セクション図

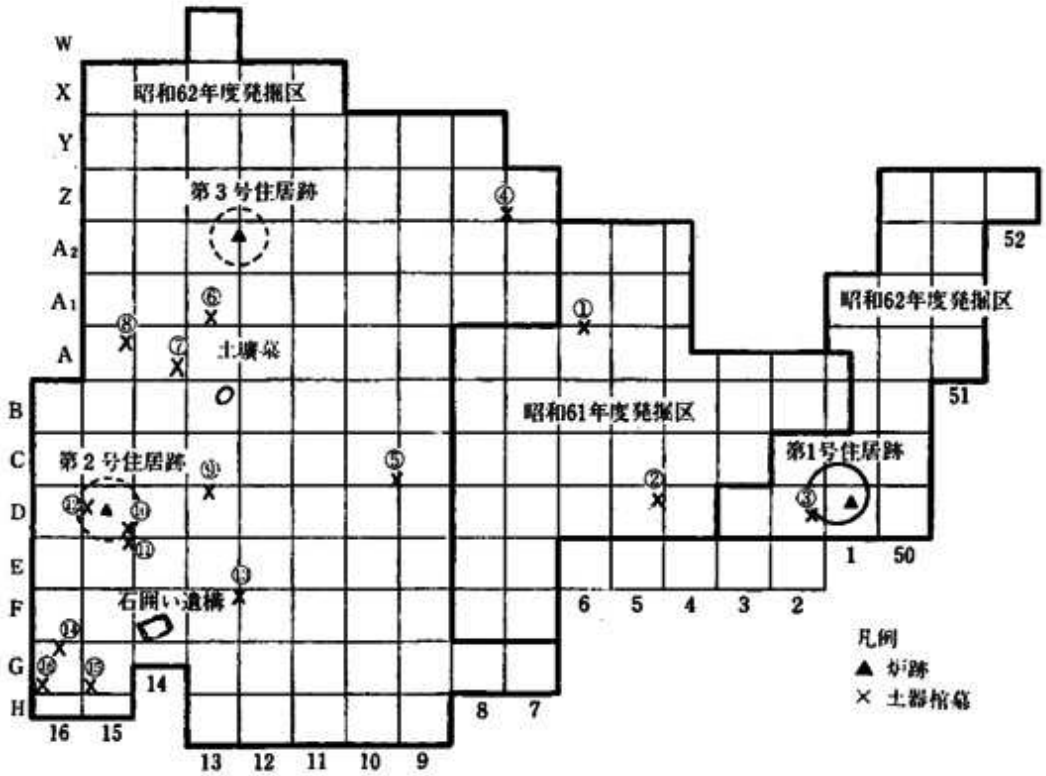
I　表土・耕作土
II　褐色土層　II'　径1～2cmの礫を含む　II"　径1～2cmの礫を含む（II'より明色）　II"'　場所により径5～6cmの礫を含む
IIIa　黒色土層　IIIb　黒色土層（大小の礫を含む）　IV　Pit 内褐色土



第6図　13－G・H　北壁セクション図

第5章　遺　　構

はいづめ遺跡で検出された遺構は、住居跡3基・土器棺墓16基・土壙墓1基・石囲い遺構1基・集石遺構1基である。



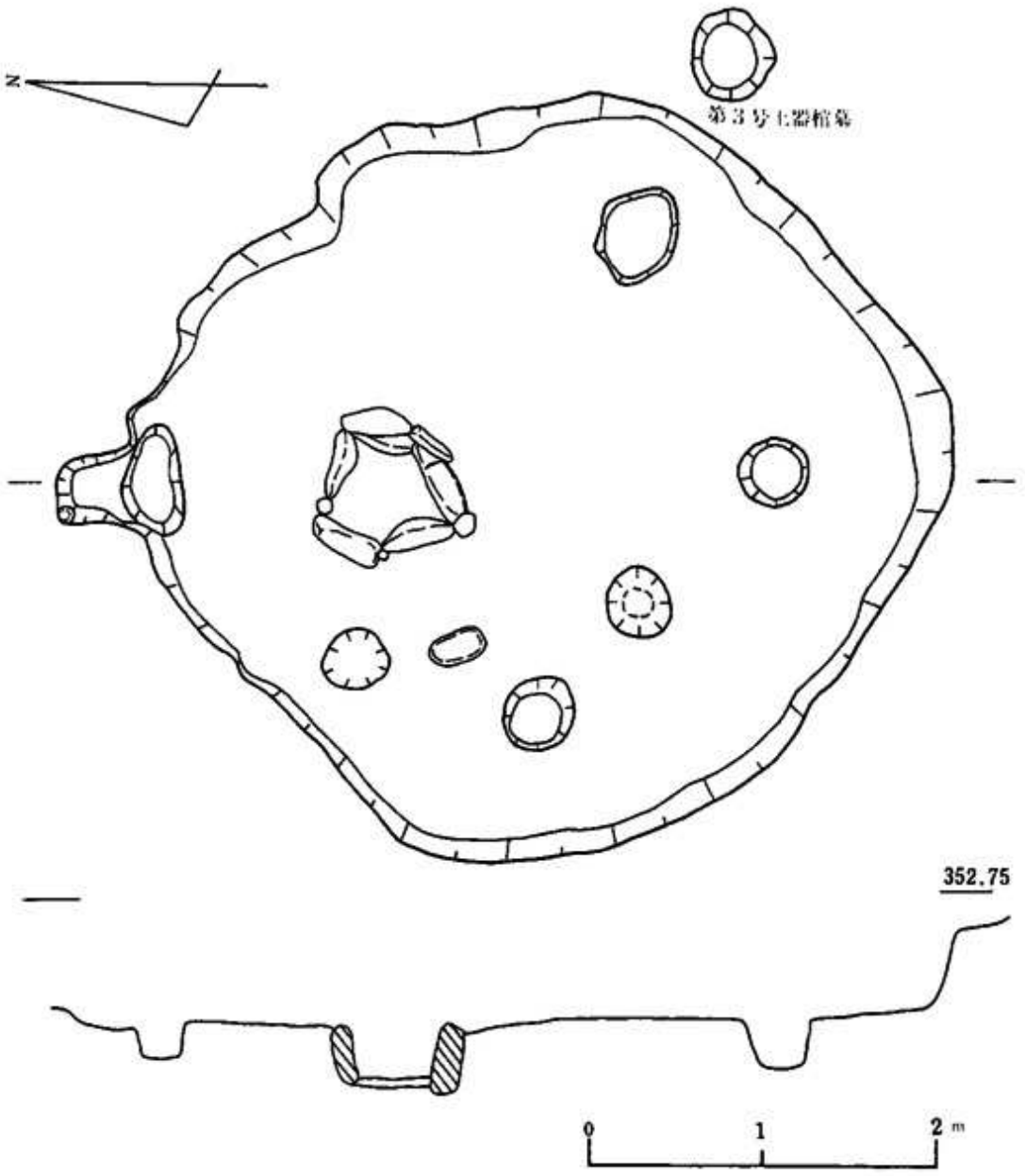
第7図　遺構位置図

第1節　住　居　跡

住居跡は合計3基検出された。いずれも、昭和62年度発掘調査で検出されたものである。このうち、規模・形式等を知り得るのは第1号住居跡1基のみである。

第1号住居跡（第8図、第9図）

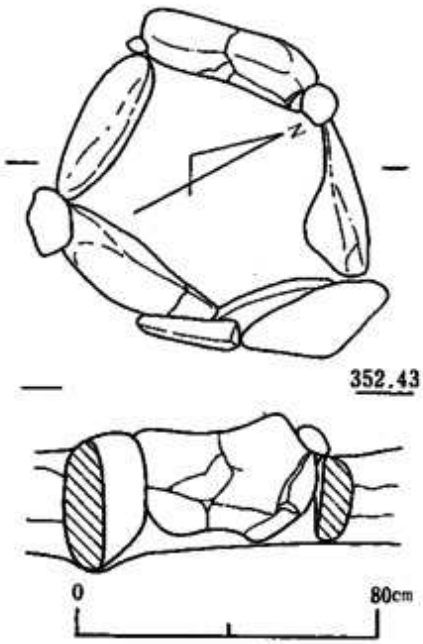
発掘調査区域北東隅（1－D・1－C・2－D・2－C区）にある。南西から北東に流れる傾斜地にあり、住居跡の上を小径が通っていた。このため覆土が、ほとんどみられない部分（北東側）もある。住居跡は第Ⅲ層から掘り込まれていると思われるが、表土から地山までが



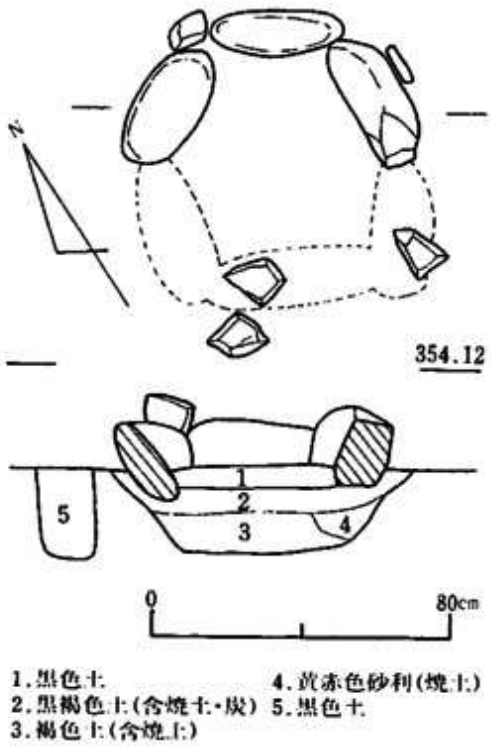
第8図 第1号住居跡実測図

浅く、明確ではない。南から西にかけての壁際には、地山の黄色砂礫層と茶褐色土層の混り合ったものが床面直上に流れ込んでいた。住居跡内埋土の主体は、2次堆積の黒色土である。しかし、埋土中にはほとんど遺物がみられず、わずかに条痕のある土器の細片が含まれていたにすぎない。また、遺物は床面からも採集できなかった。

住居跡は、円形プランを持つ竪穴式住居跡で、直径420cmである。竪穴は南西側が高く約44cmで、北東側はほとんど削り取られてなくなっていた。中央部に5個の扁平な川原石を組んだ



第9図　第1号住居跡炉跡実測図



第10図　第2号住居跡炉跡実測図

炉跡を持つ。炉跡は、ややゆがんだ五角形で、長径約70cm、短径約50cmのしっかりしたものである。深さは約30cmで、底には焼土が残っていた。なお炉跡埋土中に凹石が1点残っていたが、その他の遺物は見当らなかった。

住居跡床面から6個のピットを検出した。しかし、これらのピットは、深さ、埋土等にも差があり、規則性が認めにくい。柱穴とすべきかどうか問題がある。

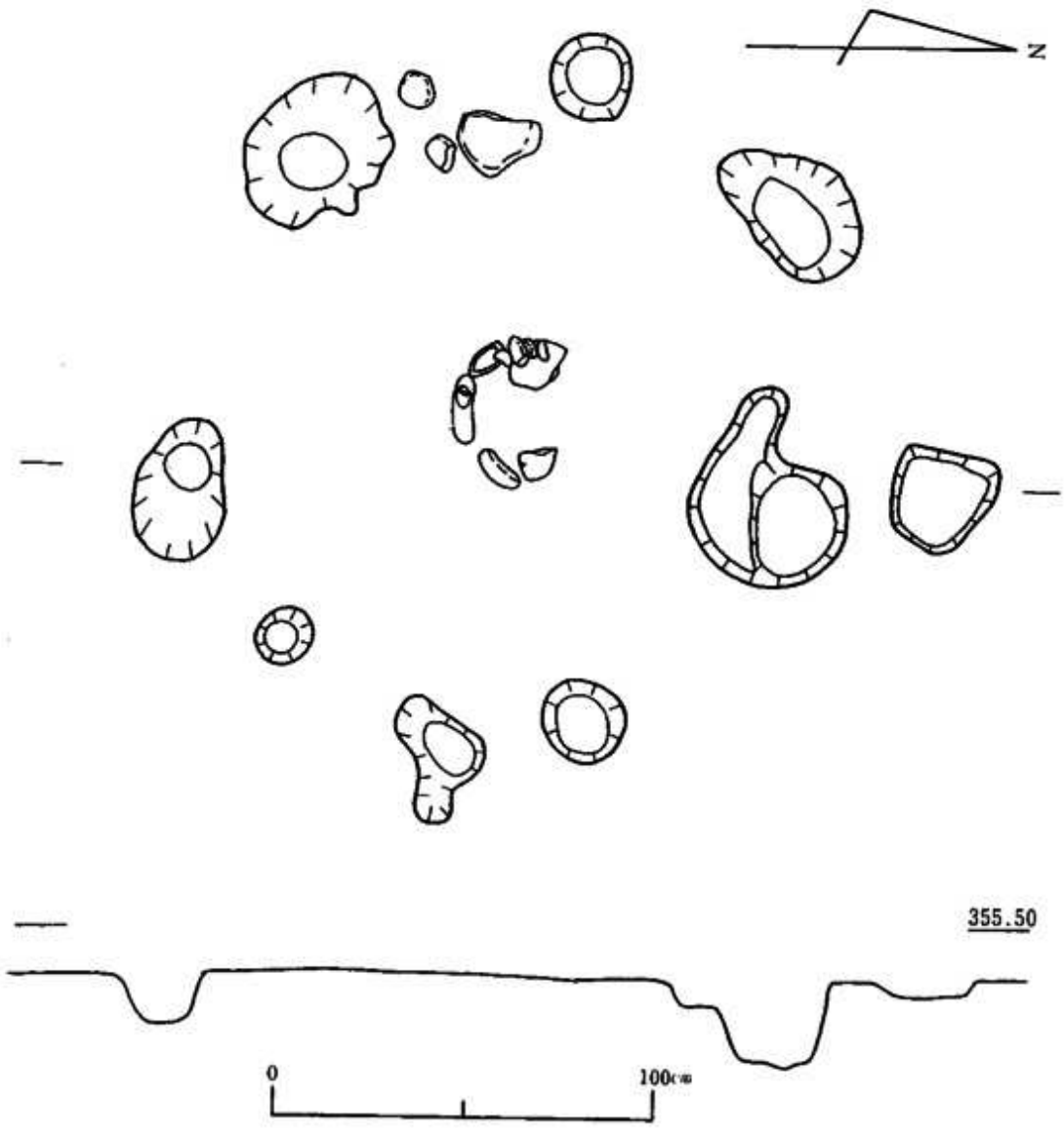
また、住居跡の外側、東壁より約20cmのところに甕が1個体埋っていた。甕は口縁部を欠くが、胴部に条痕、底部に近い部分に削りのある典型的な縄文晩期末のものである。口縁部を欠くために、はっきりしたことは言えないが、口縁に突帯のつく下り松式期のものであろう。ただ、上部に小径が通り、土層が薄く、攪乱されていたために、住居跡との関連は不明である。

第2号住居跡（第10図）

発掘調査区域南端にある。15－D区のほぼ中央に半壊の炉跡が検出されたことにより、住居跡の存在が確認された。南西から東北に流れる傾斜地にあり、炉跡の北東側は上部からの流水により流されたとみられ残存しない。炉跡は径約50cmで、6個の川原石で構成されていたとみられるが、現存するのは3個のみである。炉跡の深さは約15cmで、底には焼土と炭化物が7cmの厚さで残っていた。炉跡を構成する石の基底部は、地山より約7cm下で、上面は約20cm上の

ところにある。住居跡は黒色土層（第Ⅲ層）の上部より掘り込まれていたとみられるが、床面は完全に流されてしまっている。また、住居跡に伴なう柱穴等も確認できなかった。

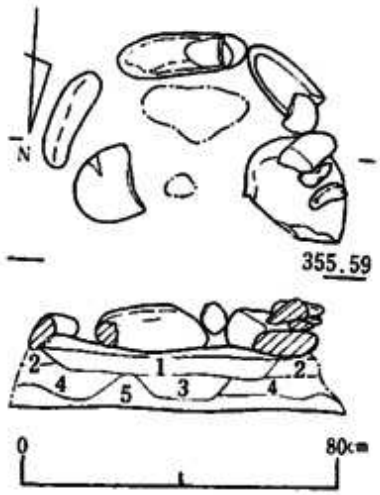
なお、炉跡の周辺には3基の土器棺墓と土器溜り1カ所があるが、住居跡と直接の関係はないとみられる。また、先後関係については、床面が流されているためにつかみにくい。しかし、土器棺の上面が、住居跡の想定床面より上にあるものがあり、住居跡を破棄した後に、土器棺墓を作ったとみるのが妥当であろう。



第11図 第3号炉跡付近実測図

第3号住居跡（第11図・第12図）

発掘調査区域南西（13－A2・12－A2・13－Z・12－Z区）にある。これも炉跡と柱穴の存在により確認されたものである。炉跡は、北側がすでに失なわれていたが、南側は残存する。川原石を円形に並べたもので、第2号住居跡と同型式のものである。径は約50cmで、深さは約12cmである。底部には炭・焼土等が残っていた。遺物は、炉跡埋土中より条痕系の土器の残欠が数片検出された。



1.黒色土(含炭・焼土)　4.褐色土
2.黒色土　5.赤褐色土
3.黒褐色土(含炭・焼土)

第12図　第3号炉跡実測図

発掘調査では掘り込みがはっきりせず、床面の追求はできなかった。しかし、13列のセクションをみると、褐色土層の下部からわずかに落ち込みがみられ、床面は地山より15～16cm上にあったと考えられる。住居跡の壁は確認されていないが、セクション面をみると10cm前後であったと推定される。

また、炉跡を中心として、ほぼ円形に等間隔で8個のピットが検出された。いずれも地山から30cm以上あり、しっかりしたものである。柱穴とみるべきであろう。この柱穴群と13列のセクションを重ね合せてみると、住居跡は直径約520cmの竪穴式住居跡と推定される。

なお、住居跡の時期を特定する遺物は、炉跡内から出土した縄文晩期の条痕系土器の細片のみである。

第2節　土　器　棺　墓

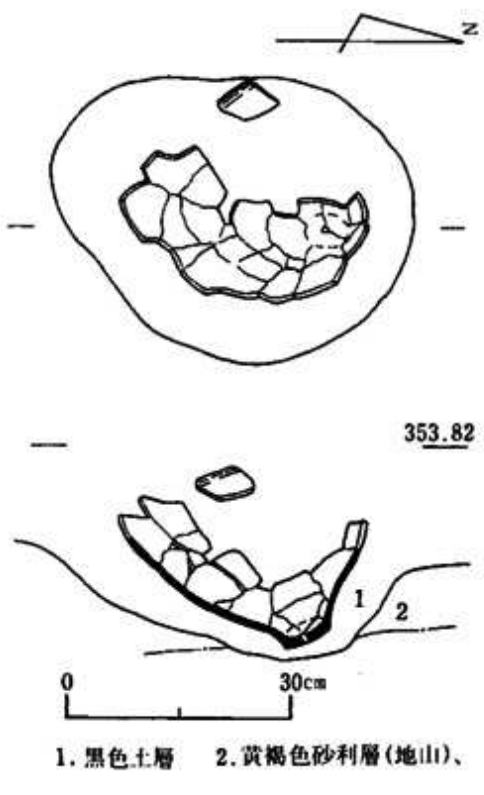
第1号土器棺墓（第13図・第44図102）

6－A区、西側小丘の山裾に位置する。

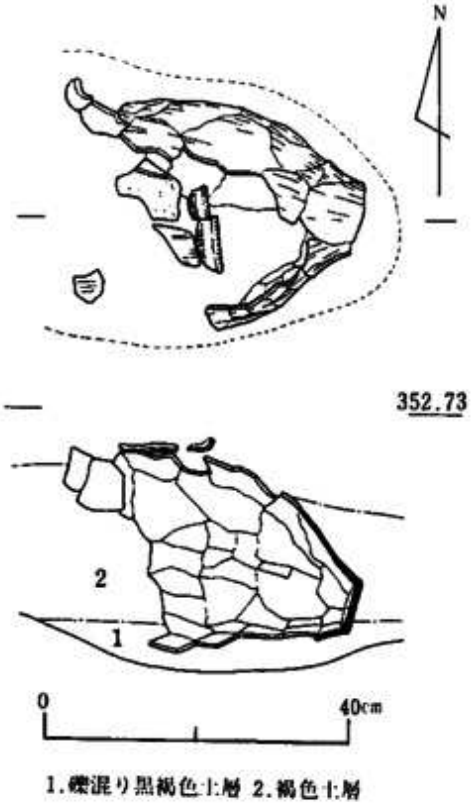
本土器棺墓は、深鉢を斜め方向に埋設したもので、南側に傾いている。土器棺底部は、地山（砂利層）を径23cm、深さ5cm掘り込んで据えられていた。覆土は、口縁部分が褐色土層（第Ⅱ層）、胴部が黒色土層（第Ⅲa層）である。しかし、明確な掘り方は確認できなかった。

土器棺内部は、褐色土および黒色土により充填されていたが、骨片などは検出できなかった。また、焼土・炭化物などは未確認である。

土器は、深鉢であるが、口縁部は欠損している。口縁直下には、横位の貝殻条痕がある。貝殻条痕の下部には、素文の凸帯があり、その下はケズリとなっている（第44図102）。底部は平底で、穿孔がある。縄文時代晩期の下り松式期と考えられる。



第13図 第1号土器棺墓実測図



第14図 第2号土器棺墓実測図

第2号土器棺墓 （第14図，第55図281,274）

6－D区に位置する。第Ⅱ層中で、他の土器片とともに、その存在が確認された。

土器棺には、2個体の大・小の甕が用いられているが、小形の甕は口縁部の一部のみである。大形のものは横位に置かれ、口縁部を西南西に向けている。小形の甕の出土状態からみて、おそらく合口土器棺形式であろう。

土器棺下部は、地山を浅く掘りくぼめた中に置かれていたが、掘り方は判然としない。覆土は、土器棺下部が礫混じり黒褐色土層、上部が褐色土層（第Ⅱ層）となっている。焼土・炭化物などは、確認していない。

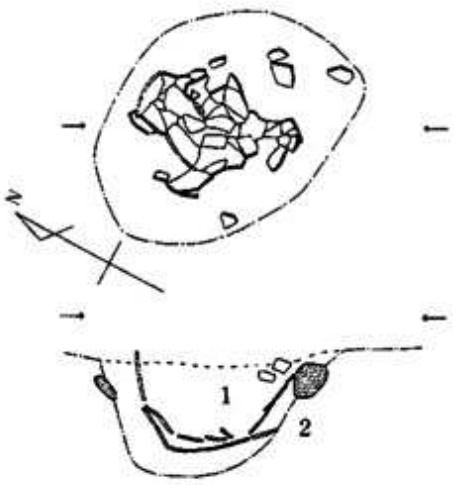
土器棺内部は、褐色土層により充塡されていたが、骨片などは検出できなかった。

土器は、大・小とも甕である（第55図274,281）。口縁は、L字形に外反し、刻目が施されている。口縁直下には、半截竹管による横位に4条の沈線がめぐらされている。沈線の下部は、木製ヘラ（板状）により整形されている。遠賀川系の甕の特徴をよく示しており、弥生時代前期のものと考えられる。

第3号土器棺墓（第15図，第42図94）

2－D区の中央やや北よりに位置し、第1号住居跡の南に近接する。

本土器棺墓は、第1号住居跡検出中に2－D区を通る山道の真下約10cmから検出した。口縁部はすべて欠損しており、道か畑の攪乱により削平されて欠損したと考えられる。土器の大部分は、地山（第3層・黄色砂礫土）に掘り込まれている。また、底部の状況や掘り方からみて、やや斜め上方に傾けられて置かれている。



第15図　第3号土器棺墓実測図

土器棺内は第2層と同じ暗褐色土で、土器上部の第1層（表土）は、褐色土に地山の黄色砂礫土が少し混じったものである。土器棺内からは、骨片など遺物は何も検出できなかった。土器棺の出土状況や破片から単独棺と考えられる。第1号住居跡と本土器棺墓との関係は不明である。

土器は甕で、器面に条痕文が施されている。また、二次焼成痕がありその内外に炭化物が付着している。縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。

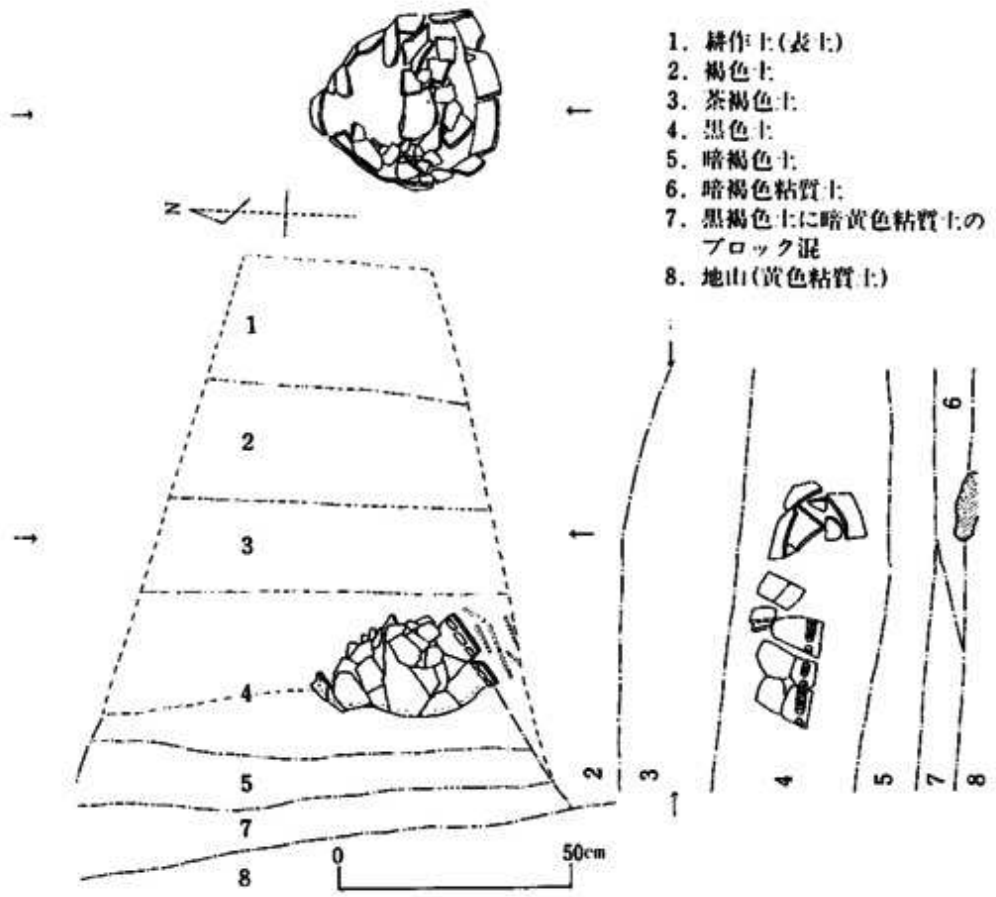
第4号土器棺墓（第16図，第39図83，第40図88）

8－Z区の北東隅に位置する。8－Z区の北アゼはずし作業中8－A2杭近くで検出した。

8－Z区周辺は、本遺跡のなかでも黒色土（第4層）が厚く形成されている地域である。この土層中にある本土器棺墓の掘り方は検出できなかった。土器棺は横位で、主軸方向はS－9°－Eを示す。底部は穿孔されている（第39図83）。口縁部付近から別個体の土器片のまとまりを検出した。これらは、8－Z区掘削中アゼに食い込んだ土器片として確認していたが、本土器棺墓の存在を想定していなかったため、セクション図作成時に取り上げた。その後アゼはずし作業中、これらの土器片の出土地点の少し奥（北側）から本土器棺を検出したのである。そこで、これらは本土器棺の蓋の役割を果たしたものと推測する。したがって、本土器棺墓は、大形の土器破片を蓋とした合口土器棺と考えられる。この蓋の部分の土器片は、接合しても口縁部から胴部にかけて3分の1しかない（第40図88）。

土器棺内覆土は、第4層と同じ黒色土であるが、覆土の中央部から茶褐色土の土塊を検出した。これが何かは不明である。骨片と思われるごく少量の細片を検出した。

土器は、いずれも甕で、口縁部に押し引き凸帯をもち、器面には炭化物が付着している。縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。



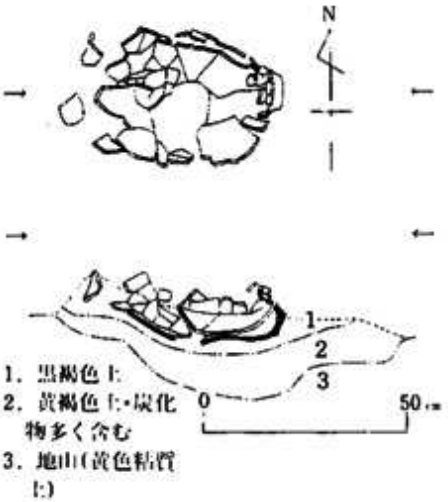
第16図 第4号土器棺墓実測図

第5号土器棺墓（第17図，第42図95）

10－C区の北東隅で、北アゼそばに位置する。第2層（黒褐色土）掘削中に検出した。

土器棺は横位で、主軸方向はE－0°－Nを示す。底部の穿孔はない。単独棺と考えられる。第2層中では掘り方は検出できなかった。土器棺の下から地山（第3層・黄色粘質土）を掘り込んだ約80cm四方の方形の土壙を検出したが、土壙内覆土は炭化物を多く含む黄褐色土である。

本土器棺墓との関係はないと思われる。土器棺内は、第2層と同じ黒褐色土である。内部か



第17図 第5号土器棺墓実測図

らは遺物は何も検出できなかった。

土器（第42図95）は、口縁部に素文の凸帯、肩部に押し引き凸帯をもつ甕である。器面には炭化物が付着している。縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。

第6号土器棺墓（第18図）

13－A1区のほぼ中央部に位置する。第2層（暗褐色土）掘削中に検出した。

本土器棺墓は、第2層に掘り込まれているが、土器棺内外は、第2層の暗褐色土にわずかに地山の黄色粘質土が混じっているだけで、第2層と明瞭な差は認められなかったので、掘り方は検出できなかった。若干第3層（地山）にそれらしい凹みを認めるだけである。いずれの土器も小破片であるが、北側の土器の下部は比較的残存度が良かった。南側の土器の残りは悪い。南側土器の口縁部上部の一部の残存によって、合口土器棺と確認できた。

第18図　第6号土器棺墓実測図

土器棺は横位で、主軸方向はN－17°－Wを示す。底部はいずれも検出できず、最初から欠損していたものと考えられる。この土器棺内から遺物は何も検出できなかった。

いずれの土器も甕と考えられる。器面に炭化物が付着している。粗製土器の小破片のため接合・復元ができず、時期は不明であるが、縄文時代晩期に想定できる。

第7号・8号土器棺墓（第39図84）

第7号土器棺墓は、14－A区の北アゼそばに位置する。

第2層（暗褐色土）から検出したが、掘り方は検出できなかった。土器棺は横位で、主軸方向はE－26°－Sを示す。底部は穿孔されていない。単独棺と考えられる。土器上部は、小破片が多くほとんど崩れているが、下部は小破片ながら比較的まとまっている。土器上部と下部の間の覆土は薄く、第2層と同じ暗褐色土である。骨片と思われる細片を1点検出した。

土器（第39図84）は甕で、底部は剝離のため尖底になるか尖底状丸底になるかは不明である。口縁端部に貝殻の押し引きが施され、口縁部に穿孔が認められる。器面に炭化物が付着している。縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。

第8号土器棺墓は、15－A区の北アゼそばに位置する。第7号土器棺墓と同様第2層から検

出した。掘り方は検出できなかった。第7号土器棺墓より土器の破片のまとまりは小さい。この上に扁平な川原石が置かれていた。土器片の上部と下部の間の覆土は薄く、骨片と思われる細片を1点検出した。

土器は小破片であり、口縁部と底部を欠損していて接合・復元ができなかったため、器種器形は不明である。器面に炭化物の付着が認められる。縄文時代晩期に想定できる。

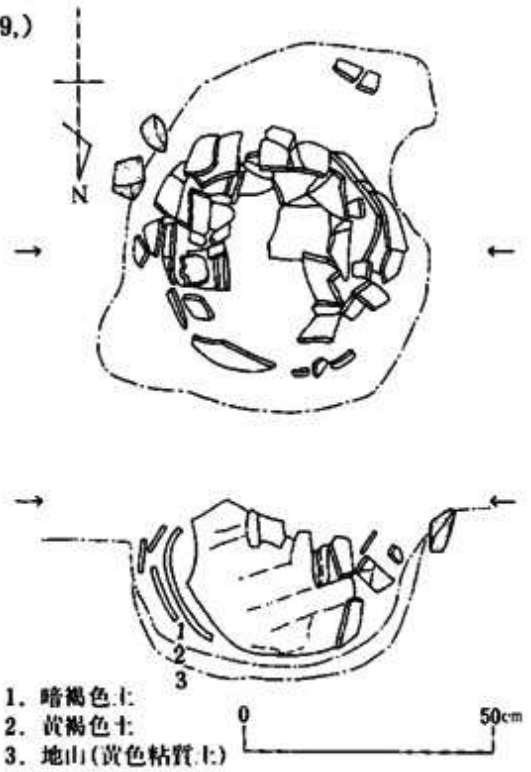
第9号土器棺墓（第19図，第45図110,第33図41,39,）

13－D区の西アゼそばに位置する。第2層（暗褐色土）掘削中に検出した。

本土器棺墓は、口縁部を上にして、第3層の地山（黄色粘質土）を掘り込んでつくられている。第2層では掘り方は検出できなかった。

土器棺は、3個体の土器を組み合せてつくられている。いずれも胴下部から底部にかけて欠損している。土器内は、第2層の暗褐色土に地山の黄色粘質土や亜角礫（φ10～80㎜）が混じっている。土器内から遺物は何も検出できなかった。

土器は、最外側が壷で、内側の2個体は深鉢である。壷（第45図110）は、口縁部・底部とも欠損している。中間の深鉢（第33図41）は、器面に補修孔が3組認められ、底部は欠損している。最内部の深鉢（第32図38）は、底部が欠損している。いずれも器面には炭化物が付着している。三者とも縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。



第19図　第9号土器棺墓実測図

第10号・11号土器棺墓（第20図，第38図82，第37図73，第36図61，第43図99）

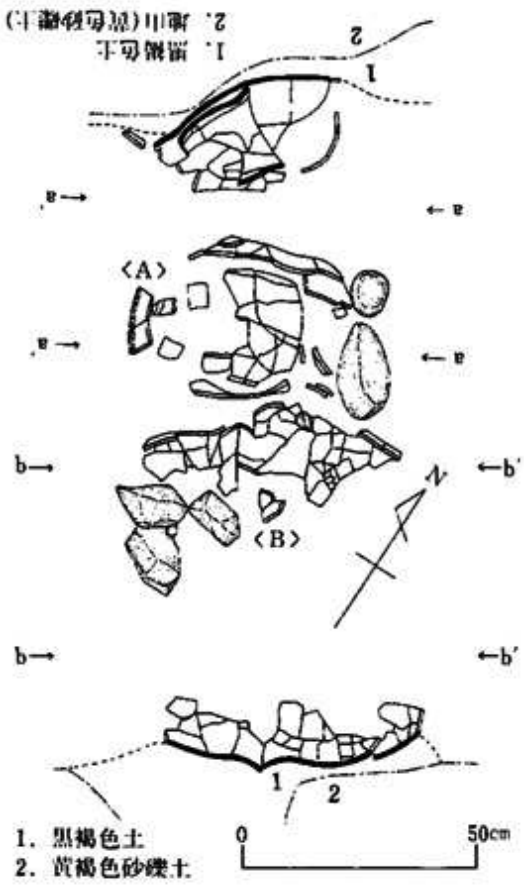
14－E区の南アゼ際で、第2号住居跡の炉跡の北東約4ｍに位置する。第10号（A）・11号（B）土器棺墓とも第2層（黒褐色土）から検出した。

第10号土器棺墓（A）は、2個体の土器からなる合口土器棺墓である。やや斜めの横位で、主軸方向はN－59°－Eを示す。掘り方は検出できなかった。土器棺内は、第2層と同じ黒褐色土で、遺物は何も検出できなかった。

土器は大小の甕からなる。内側の甕（第37図73）は胴部下部から底部にかけて欠損している。外側の甕（第38図82）の底部も欠損している。いずれも器面に炭化物が付着している。縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。

第11号土器棺墓（B）も、2個体の土器からなる合口土器棺墓である。土器は横位で、主軸方向はN－57°－Eを示す。掘り方は検出できなかった。土器棺内は、第2層と同じ黒褐色土で、遺物は何も検出できなかった。土器棺の下から第3層の地山（黄色砂礫土）を掘り込んだピットを検出したが、覆土は第2層と同じ黒褐色土である。本土器棺墓に伴うピットとは思われない。

2個の土器は、口縁が接している。いずれの土器も上部や下部の東半部は欠損している。底部はどちらも欠損している。いずれの土器も甕で、口縁にヘラによる押し引き凸帯をもつ。器面に炭化物が付着している。縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。



第20図　第10号、11号土器棺墓実測図

第10号土器棺墓（A）と第11号土器棺墓（B）の先後関係は、発掘時の所見によれば、（B）が古く、（A）をつくった際（B）の一部を削平していると思われる。また、土器の特徴を比べても、（B）のほうが古い様相を示していると思われる。

第12号土器棺墓（第21図，第38図75，第45図108）

15－E区に位置する。第2号住居跡の炉跡から約2m南にある。炉跡周辺には、大小の土壙やピットが地山を掘り込んで多数存在する。

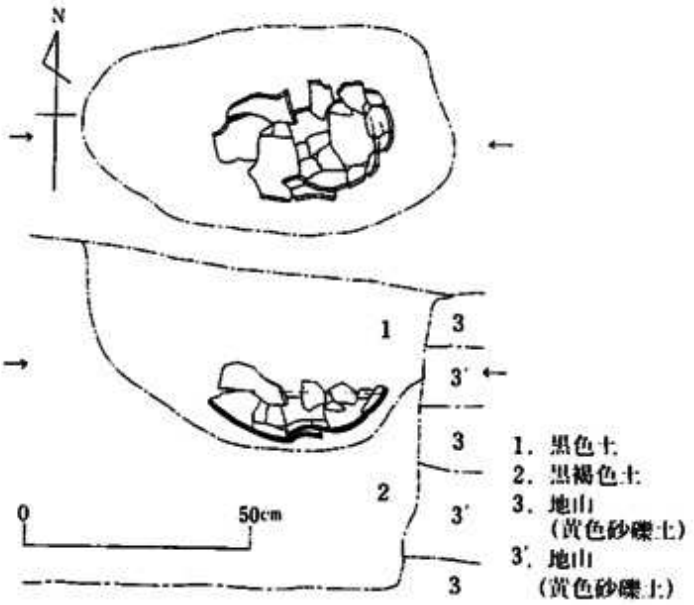
土器棺は、これらの土壙の一つから検出した。この土壙は、長径約70cm短径約50cmの楕円形で深さは約80cmある。本土器棺は、この土壙の東端約20cmの深さから検出した。

土壙内は、礫混じりの黒色土層で充填されているが、土器棺付近には礫が少なく黒褐色となっている。掘り方は判然としないが、この土壙と土器棺墓とは、直接関係がないと考えられる。

土器棺は、甕と壷を組み合せた合口形式のもの、付近から炭化物や骨の細片を多数検出した。いずれも横位に埋設され、主軸はE－0°－N方向を示す。

西側の土器は甕で、底部は欠損している。口縁端部は、面取りがあり、貝殻腹縁による刻目がある。頸部は貝殻による横位の条痕が施されている。肩部から胴部にかけては粗いケズリとなっている。

東側の土器は丸底をもつ壷である。粗製で器壁は薄い。やや外反して直立する口頸部は無文で、肩部から胴部にかけては斜め方向の粗い条痕がつく。縄文時代晩期の下り松式期に想定できる。



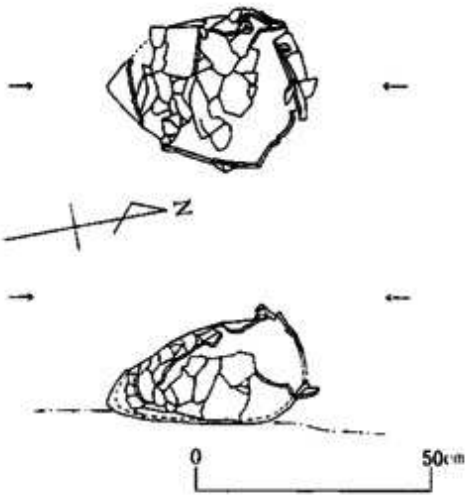
第21図　第12号土器棺墓実測図

第13号土器棺墓（第22図，第36図60）

12－E・12－F区との中間に位置し、13－F杭のすぐそばにある。

本土器棺墓は、第2層（黒褐色土）掘削中に検出したが、掘り方は検出できなかった。土器棺の下から第3層の地山（黄色砂質土）を掘り込んだ径約110cm、深さ約130cmの土壙を検出したが、この覆土は黒褐色土に地山の黄色砂質土が少し混じったもので、土器棺内部や周囲のものと異なる。土器棺内は、第2層と同じ黒褐色土で、中から骨片と思われる細片を数点検出した。土器棺は横位で、主軸方向はN－10°－Wを示す。単独棺である。

土器は、粗製で非常にもろく、小破片に割れているが、接合・復元の結果、器形は甕で、口縁部に押し引き凸帯をもつ。底部は尖底である。底部の穿孔はない。器面に二次焼成痕があり、炭



第22図　第13号土器棺墓実測図

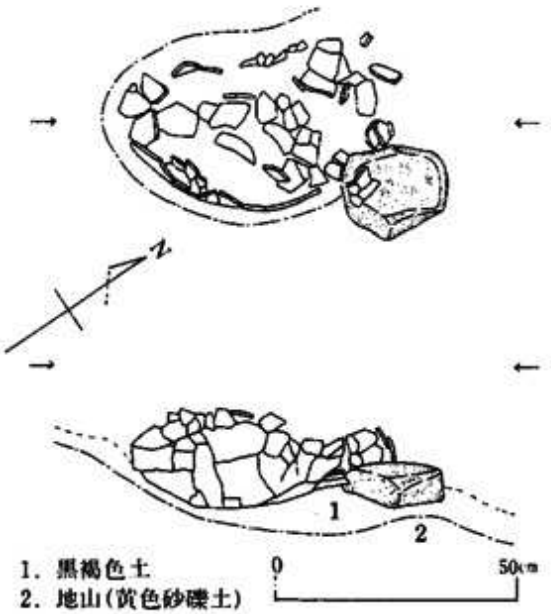
化物が付着している。時期は、縄文時代晩期五貫森式期から下り松式期に想定できる。

第14号土器棺墓（第23図，第37図74）

16－G区に位置する。本遺跡の南東隅で、3基の土器棺墓がまとまって検出された。本土器棺墓はその一つで、2個体の甕により構成されていたと見られるが、そのうちの一つは口縁部と胴部の残欠のみである。

いずれの甕も横位に埋設されており、主軸はN－35°－E方向である。残存する甕の口縁付近には、径20cm・厚さ約4cmの扁平な川原石が置かれていた。

土器棺下部は、地山の黄色砂礫層を長径約70cm・短径約40cm・深さ約15cmの楕円形に掘り込んで埋置されていた。土器棺上部はすでに削り取られており、掘り方は判然としない。おそらく、黒色土層上面から掘り込まれていたと思われる。



第23図　第14号土器棺墓実測図

土器はゆるやかな肩をもつ丸底の甕である。器壁は薄く、口縁端部には細かく浅い圧痕が見られる。口頸部は、平滑な無文帯であるが、肩部付近は斜方向、胴部は縦方向の条痕による調整が認められる。

他方の甕は残欠のみであるが、ほぼ同じ形式をもつものである。

第15号土器棺墓（第24図，第43図100・101）

15－H区に位置する。南東隅土器棺墓群の一つである。

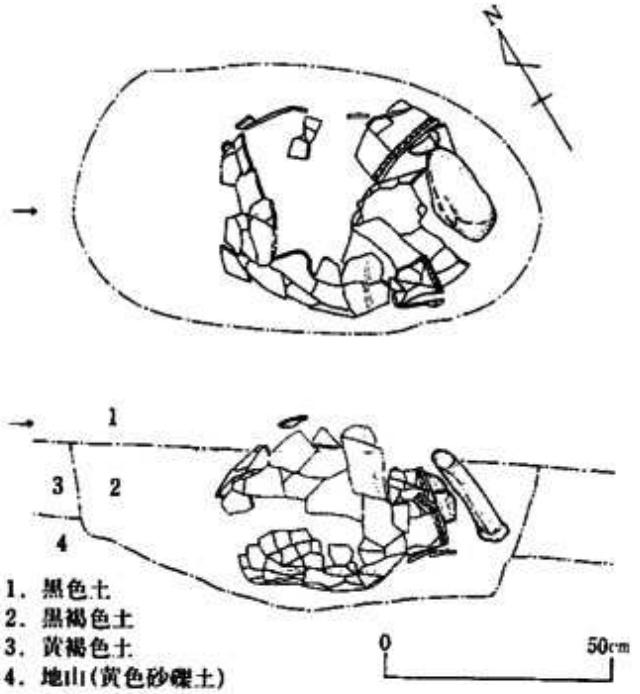
2個体の大小の甕を使用したものである。いずれも底部を欠いているが、特に小形の甕は、口縁から胴部にかけての一部のみである。いずれも横位に埋設されており、主軸はS－58°－E方向を示す。口縁付近には第14号土器棺墓と同様に長径20cm・厚さ4cmの扁平な川原石が置かれていた。

土壙は、長径90cm、短径57cm、深さ約40cmの楕円形のものである。明確ではないが、礫混じり黒色土層上面より掘り込まれていたと見られる。土壙下部は地山を約15cm掘り込んでいた。

2個体の土器のうち大形のものは、口縁部径39cm、高さは推定53cmである。口縁部に大きな押圧凸帯がある。頸部は平滑に仕上げられ、肩部には櫛状工具による雑な沈線が、横位につけ

られている。胴部から底部にかけては、ケズリにより仕上げられている。

他の一つは、前述のものよりやや小形で、口縁部の径は約29cmである。口縁部には押圧凸帯があり肩が張っている。頸部は無文帯となっているが肩部から胴部にかけては斜方向の条痕がある。また、内面には横位の条痕が残されている。



第24図 第15号土器棺墓実測図

第16号土器棺墓（第25図，第37図69,第38図78）

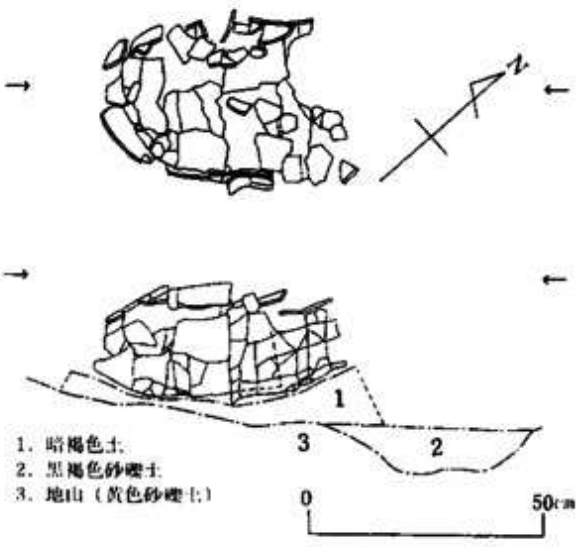
16－H区に位置する。南東隅土器棺墓群の一つである。

2個体の甕により構成されている合口形式の土器棺墓である。横位に埋設されており、主軸はN－42°－E方向を示す。

この土器棺墓は黒色土層中にある（地山を掘り込んでいない）。掘り方は検出できなかったが、覆土は、上部が褐色土層、下部が黒色土層となっている。

南側の土器は、丸底の甕である。薄手でもろい。口縁先端は尖っており、細かく浅い圧痕が認められる。口縁部から頸部にかけては斜方向の雑な条痕がある。

北側の土器は底部を欠くが、南側の甕と同形式のもので口縁端部は薄く尖っている。頸部は平滑に仕上げられているが、肩部から胴部には縦方向の条痕がある。



第25図 第16号土器棺墓実測図

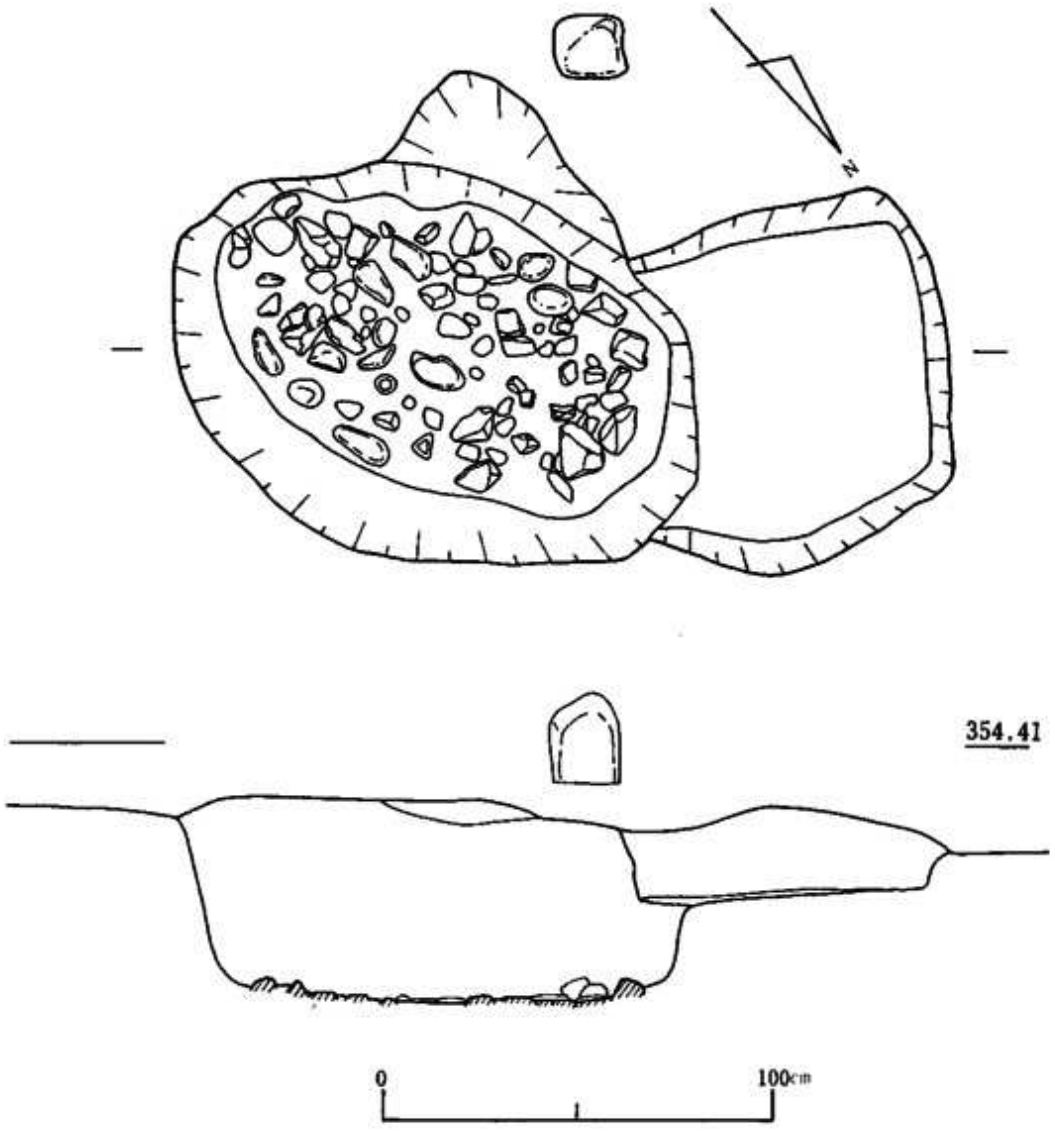
南東隅土器棺墓群の土器は、縄文時代晩期のものであるが、いずれも本遺跡の土器のなかでは、新しい要素をもつものである。

第3節　その他の遺構

土壙墓（第26図）

昭和62年度発掘調査により検出された。発掘調査区域の南側ほぼ中央（13－B区）にある。楕円形のプランを持つもので、長径約140cm・短径約100cmである。長軸は、ほぼ南東－北西の方向を示す。地山を約50cm掘り下げ、底面には拳大の石を敷きつめている。これらの石の中には、磨石・敲石等もある。

13－B区付近は、表土から地山までが約20cm～30cmと浅く、黒色土層を欠いている。したがっ



第26図　土壙墓実測図

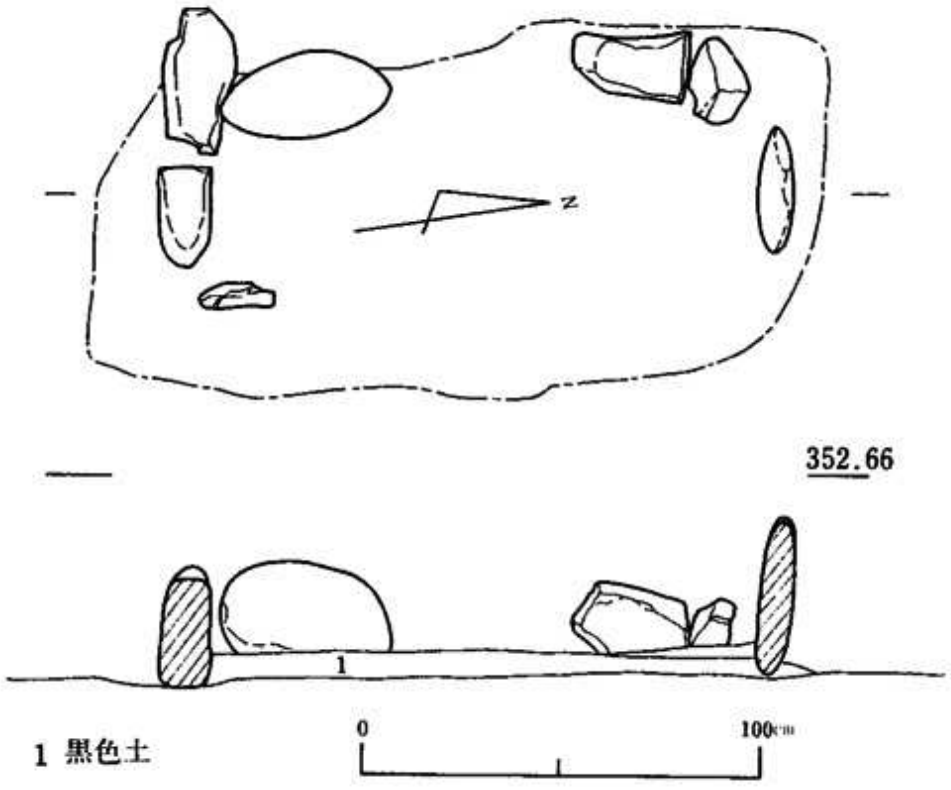
て、掘り込みがどの層からかは、明確でないが、第Ⅱ層下部からと思われる。土壙内の埋土は、上から黒褐色土・褐色土・礫混り黒色土・黒色土に分けられるが、これらの土層が複雑にからみ合っている。

土壙覆土上面には、焼土が点々とみられ、一部は土壙内にずり落ちている。土壙覆土南西側上面には、精製浅鉢（第53図242）が底部を上にして伏せた状態で置かれていた。また、この焼土の下部は、きめの細かな灰黒色土で、土壙の上面全体がきめの細かい粘質土でおおわれていた可能性もある。

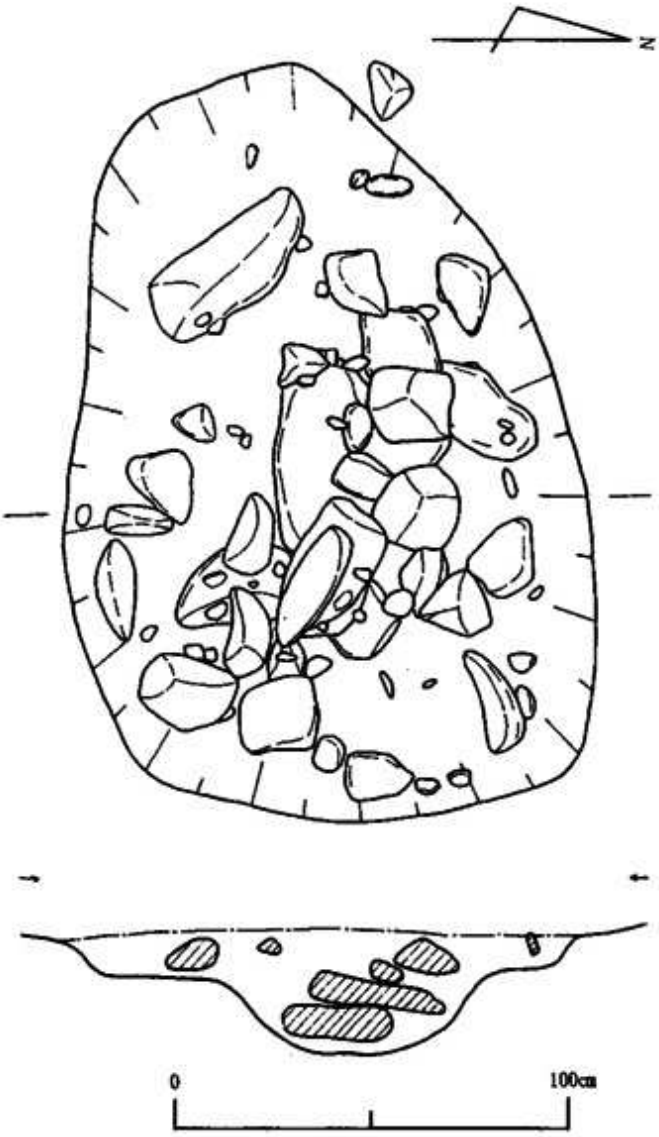
さらに、浅鉢のあった付近には、一辺約20cmの方形で、高さ約43cmの川原石が立てられていた。この立石が何を意味するか定かではないが、焼土・浅鉢の存在から考えて、何らかの祭祀が行われた可能性もある。また、土壙内埋土の中からは、磨製石斧が1点発見された。出土地点は土壙のほぼ中央で、褐色土層からである。他に、埋土中より骨の細片が出ており、この土壙を土壙墓と考えてまず間違いないであろう。

石囲い遺構（第27図）

昭和62年度発掘調査で検出された。発掘調査区域の南側（14－G区）にある。扁平な川原石



第27図 石囲い遺構実測図



第28図　集石遺構実測図

を長方形に組合せたものと思われる。しかし、石組のほとんどは抜きとられたり、流されてしまっていた。このため、層位等について不明確な点が多い。

遺構は地山をわずかに（2～3cm）掘り込んで構築されている。掘り込みは長辺約180cm・短辺約90cmのややゆがんだ長方形である。石組の川原石の基底部は、掘り込み内部の地山の上に据えられていた。川原石の抜き取り痕などは、確認されていない。

残された石組により遺構の規模を推定すると、長さ136cm・幅38cm・深さ約40cmであったと思われる。底部には、わずかに厚さ5～6cmの黒色土があったのみで、敷石等の施設は確認されなかった。また、遺構に伴う明確な遺物等も発見されていない。なお遺構の長軸は、ほぼ南北を示す。

集石遺構（第28図）

昭和61年度の発掘調査で確認された。西側小丘の山裾（5－A2区）にある。長径190cm・短径135cmの楕円形の掘り込みのなかに、大小の川原石を乱雑に投げ入れた状態を示す。この遺構は第Ⅱ層下部から掘り込まれていた。深さは約35cmで、最下部には直径約30cm・厚さ約9cmの扁平な川原石が置かれ、遺構直上の土層中からは、遠賀川系甕破片・縄文晩期末条痕系土器片・弥生前期土器片が出土しているが、遺構に直接関連する遺物は確認されていない。

第6章 遺　　物

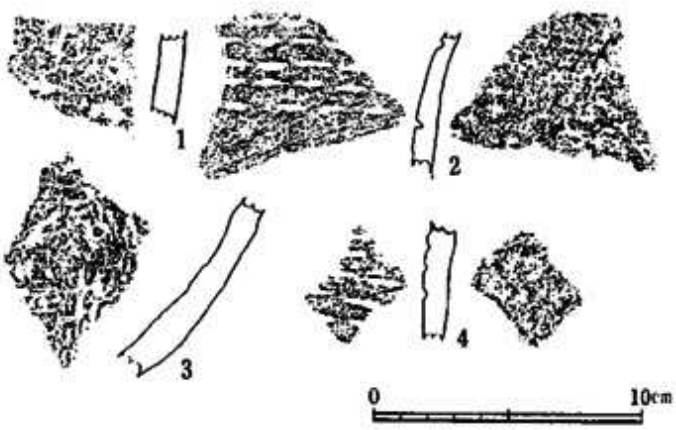
第1節 土　　器

はいづめ遺跡からは縄文時代早期～晩期・弥生時代前期後半～中期後半の土器がコンテナにして50箱程度出土した。その大半が縄文時代晩期の土器で占められ、県内のこの時期の発掘資料が少ない現段階では、まとまった好資料ということができる。ただ、全部の時期の資料が一つの遺物包含層から出土したために明確な時期差は抽出できなかった。なお、古墳時代以降の土器も少量だが出土している。縄文土器は四群、弥生土器は二群に分けて説明する。

縄文土器

第1群土器（第29図1～4）

押型文土器。図示した4点ですべてである。磨耗が激しく拓影では文様の見分けがつかず、肉眼でやっと観察しえる程度である。1・2・4は山形文を施している。3は底部に近い破片で山形文と楕円文の両方が認められる。2・4の内面にはヘラの連続刺突がある。いずれも胎土に繊維が混入している。



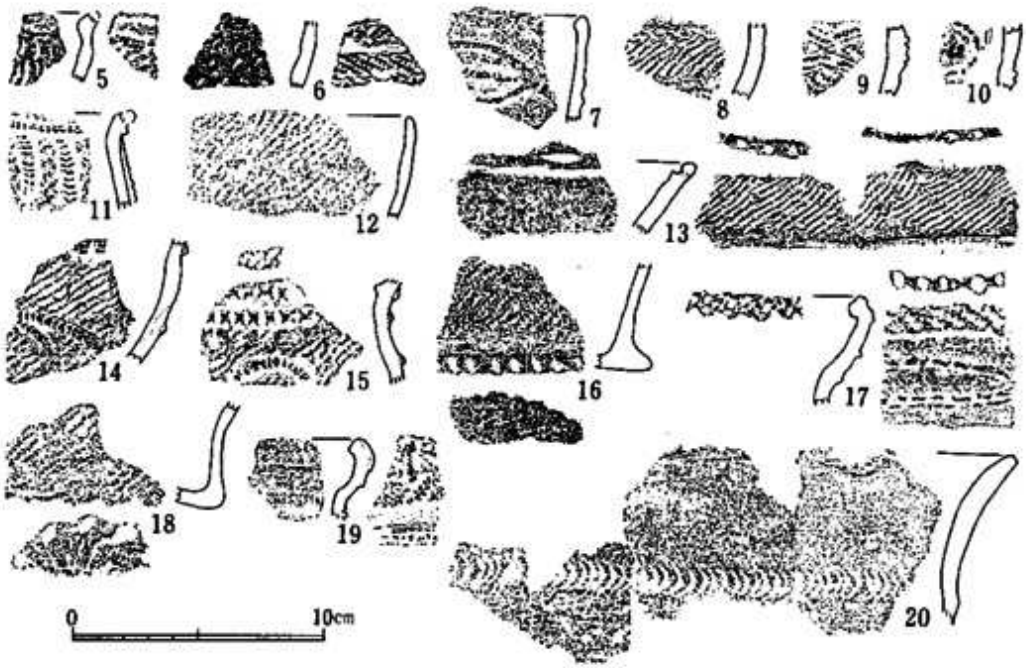
第29図　縄文土器　第1群土器拓影

第2群土器（第30図5～20）

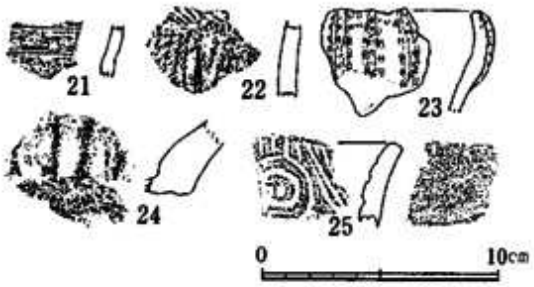
大部分は前期後半の土器で、諸磯式系、北白川下層式系の土器で占められる。5・6は表に縄文、内面に爪形文を施文する。諸磯式系の土器には7・8・10・11・14・15・17が相当し、北白川下層式系の土器には16・18・20が相当する。16・18の底部にはヘラの刻みがあり、北白川下層式の典型的な例である。20は器壁が厚く、胎土も他の土器と違うようである。

第3群土器（第31図21～25）

中期・後期の土器。21～24が中期で、25が後期。21は半截竹管で横位に沈線をひき、22は上半で斜位、下半で縦位に縄文を施している。23は細い隆帯の上とその両側をヘラで刺突してい



第30図　縄文土器　第2群土器拓影



第31図　縄文土器　第3群土器拓影

る。24は曽利式の底部である。25は後期の唯一の例で、沈線で口縁部内面に文様を描いている。

第4群土器

晩期後半の土器。多量に出土しているが、ほとんどが遺物包含層から出土したもので、遺構に伴う土器は土器棺と土器溜まりの土器のみである。そのため、本群の土器には西之山式・五貫森式・下り松式・桜王式の標式的要素をもつものが存在するが、それぞれの型式に分離できないので一括して第4群土器として処理し、仮にその中を次の三類に分けて記述する。

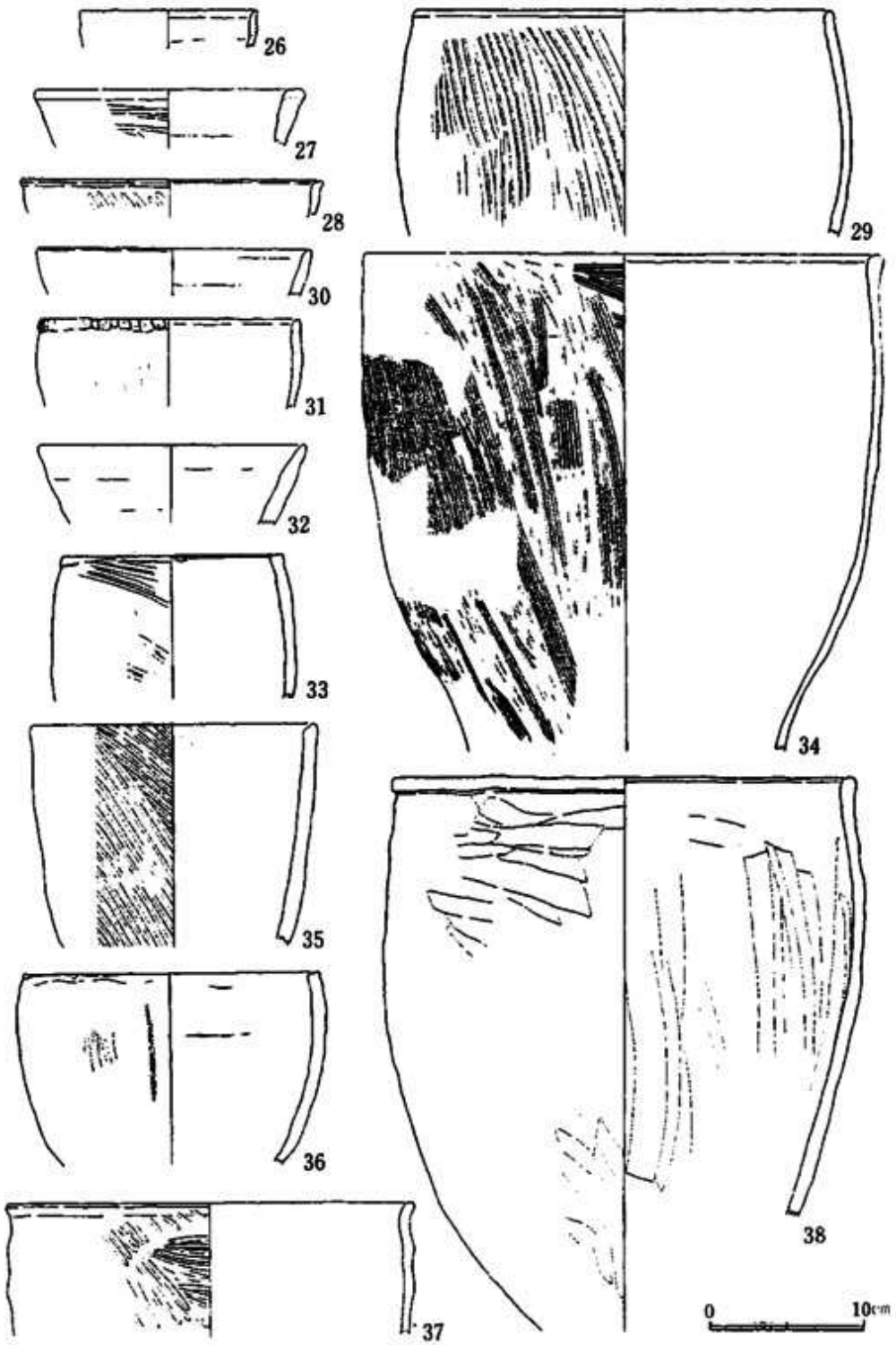
第1類土器　粗製土器

第2類土器　無文精製土器

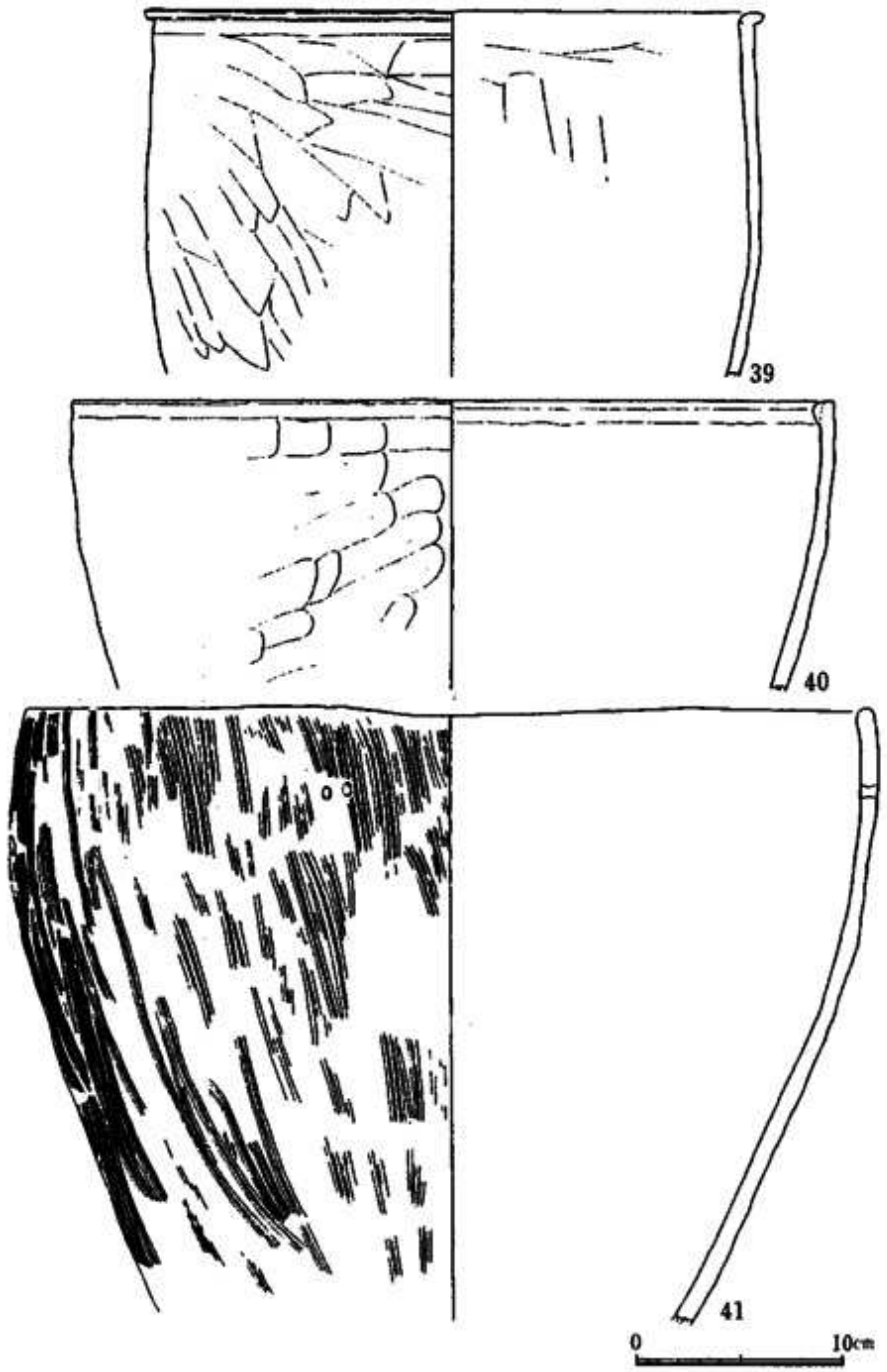
第3類土器　有文精製土器

第1類土器　粗製土器

ナデ、ケズリ、貝殻条痕等による荒々しい調整をしたもので、三類のなかで最も出土量が多



第32図 縄文土器 第4群土器第1類実測図(1)



第33図　縄文土器　第4群土器第1類実測図(2)

い。凸帯のあるものも同様の調整が施されたものは、本類に含めた。

（1）深鉢

第1類土器の主な構成要素だが、甕よりも量は少ない。

A類（第32図26～30・32～38、第33図39～41、第34図44・46・47）

凸帯のつかないもの。口縁端部の面取り手法が一般化している（27～29・33・36）が、凹面をなすものは少ない。粘土が口縁端部からはみだすものもある（38・39）。大型品と小型品の別があるようである。貝殻条痕、ナデ、ケズリ等で整形され、その方向は単純に左上から右下に斜走するものと口縁部付近は横位、それ以下では左上から右下に斜走するものとの二種がある。第9号土器棺の41は二個一組の穿孔が計三組あり、ちょうど穿孔の間で土器が割れているので、補修孔であろう。44・47は口縁端部にヘラの刻みが認められる。46は細密条痕を残す唯一の例である。浮線網状文土器だけではなくて粗製土器においても、中部山岳地方との交流の一端を知ることができる。

B類（第32図31、第34図45・48～50）

A類に凸帯がつくもの。凸帯の形態は様々で細分化できる可能性はあるが、少数のため、ここでは細分しなかった。45は断面が三角形の素文の凸帯がつく。48・49は同一個体でD字状のヘラの押し引きのある二条の凸帯がつく。凸帯の間は何かの工具による強いナデのために沈線状になっている。深鉢の二条凸帯は畿内の晩期の土器に顕著で本例もこれとは無関係ではないだろう。50は貝殻の押し引きのある扁平な凸帯がつく例で、甕の可能性もあるが、凸帯以下の貝殻条痕が縦走することから深鉢に分類した。

その他（第34図42・43・51）

42・43・51は全形がわからない。42は胴部に渦巻状の沈線を施し、43は棒束状工具で整形している。51は半截竹管による条痕を残す例で樫王式であろう。

（2）甕

肩部に段があり、肩部より上では貝殻・ナデ、下ではケズリによる調整を行う。肩部以下のケズリ調整の方向は、深鉢の調整方向と同じである。出土量は最も多い。

A類

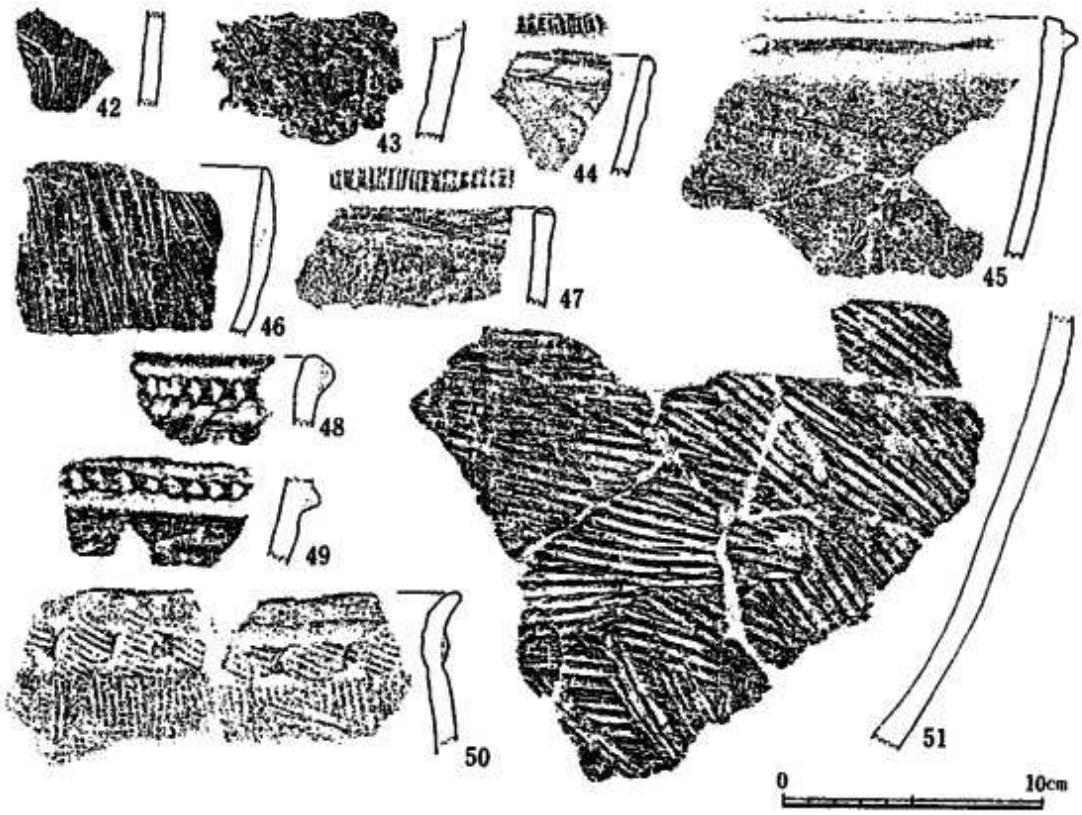
口縁部直下に押し引きのある断面半円形の凸帯がつくもの。押し引きの形状によって二種に細分される。

A-a類（第35図52・53・55・57・58、第36図59・60）

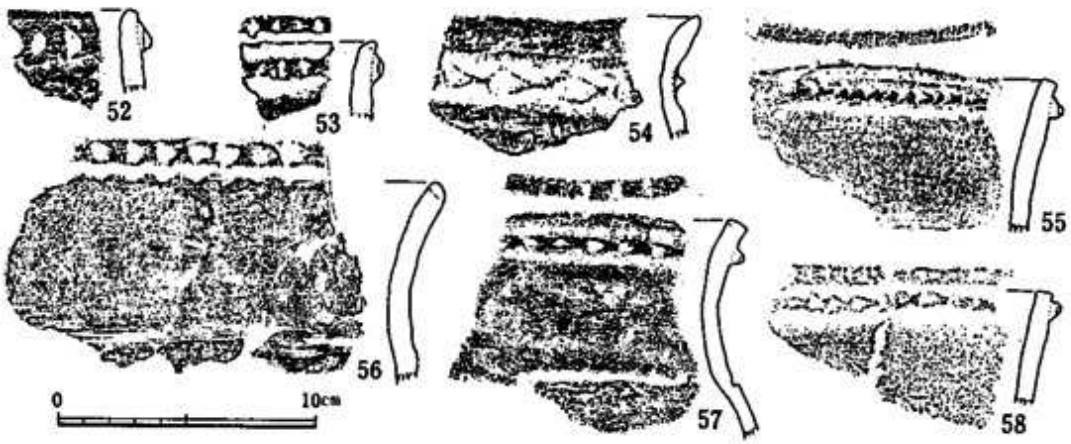
押し引きの形状がD字状をなすもの。押し引きはヘラで施されるものがほとんどである。口縁端部の押し引きや内面の沈線も認められる（55・57～59）。第13号土器棺の60は肩部の段が非常に不明瞭であり、口縁部は五貫森式的であるが、肩部以下は下り松式的である。肩部までわかる例が少なく、59は明確に肩部の段があり、典型的な五貫森式の例としてあげられる。

A-b類（第36図61、第43図99）

押し引きの形状がO字状を呈するもの。第11号土器棺の61・99が代表例である。61では肩



第34図　縄文土器　第4群土器第1類拓影(1)



第35図　縄文土器　第4群土器第1類拓影(2)

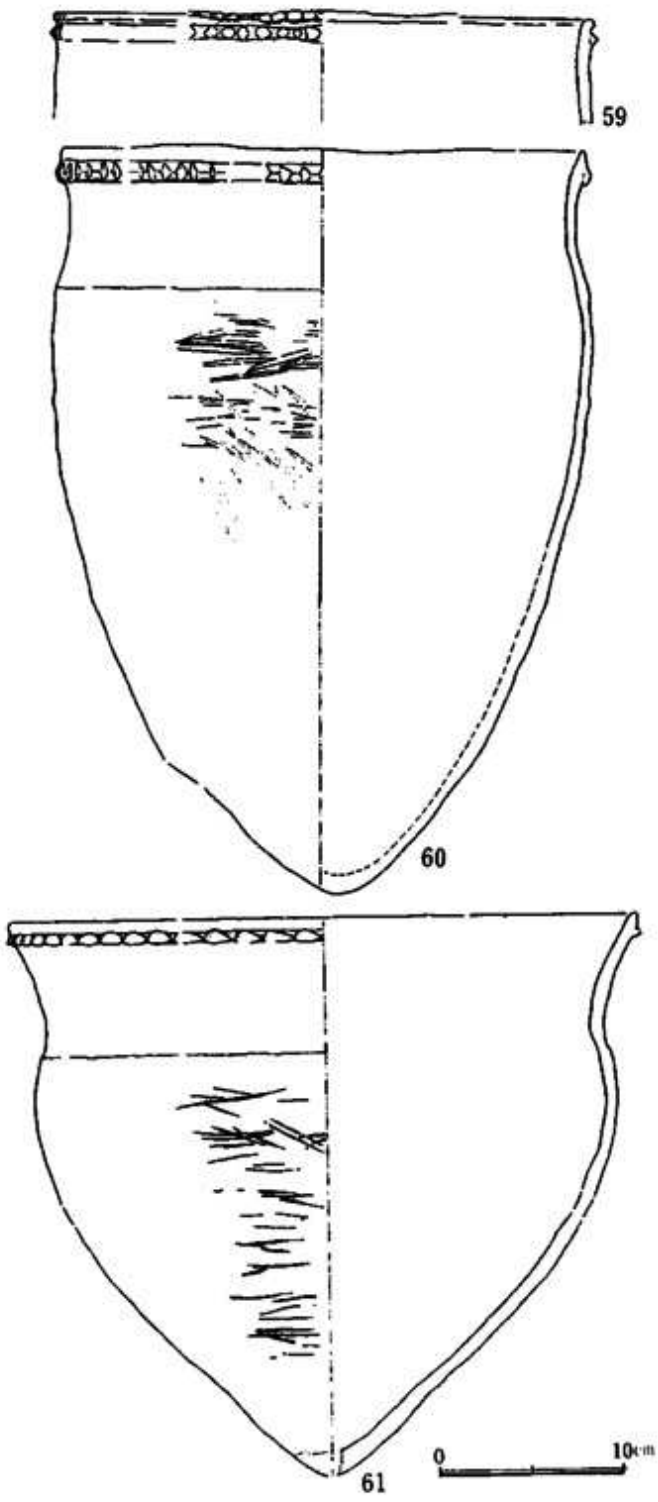
部の段が比較的明瞭だが、99では不明瞭である。99は押し引きの真ん中でヘラを止めており、D字状の押し引き文の作出を意識している。61・99は五貫森式の退化の過程を示している。

B類

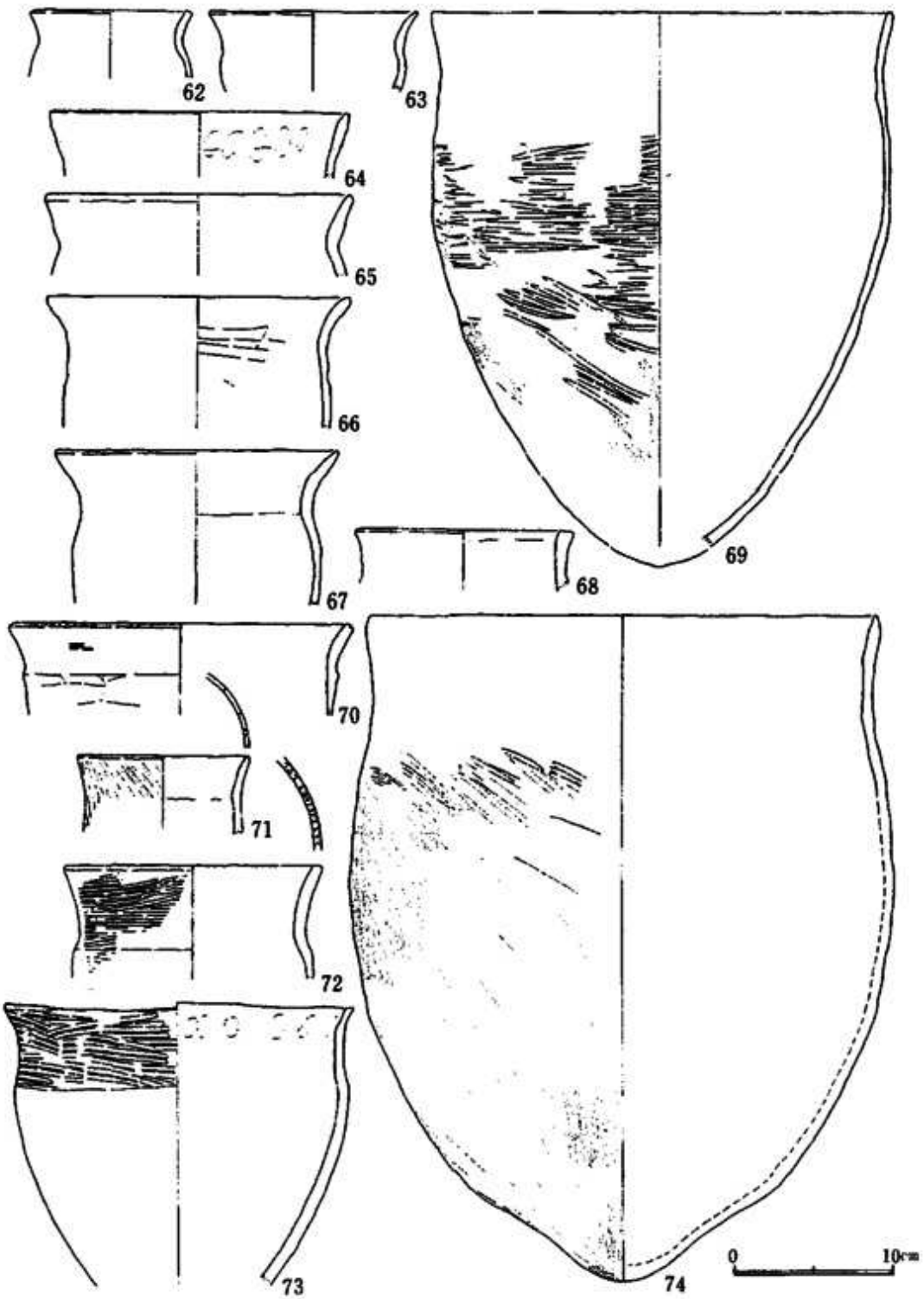
口縁端部からややはなれてO字状の押し引きのある凸帯がつくもの。押し引きは貝殻で施されることが多い。二種に分類した。

B-a類（第35図54、第39図83、第40図85～88、第43図96・97）

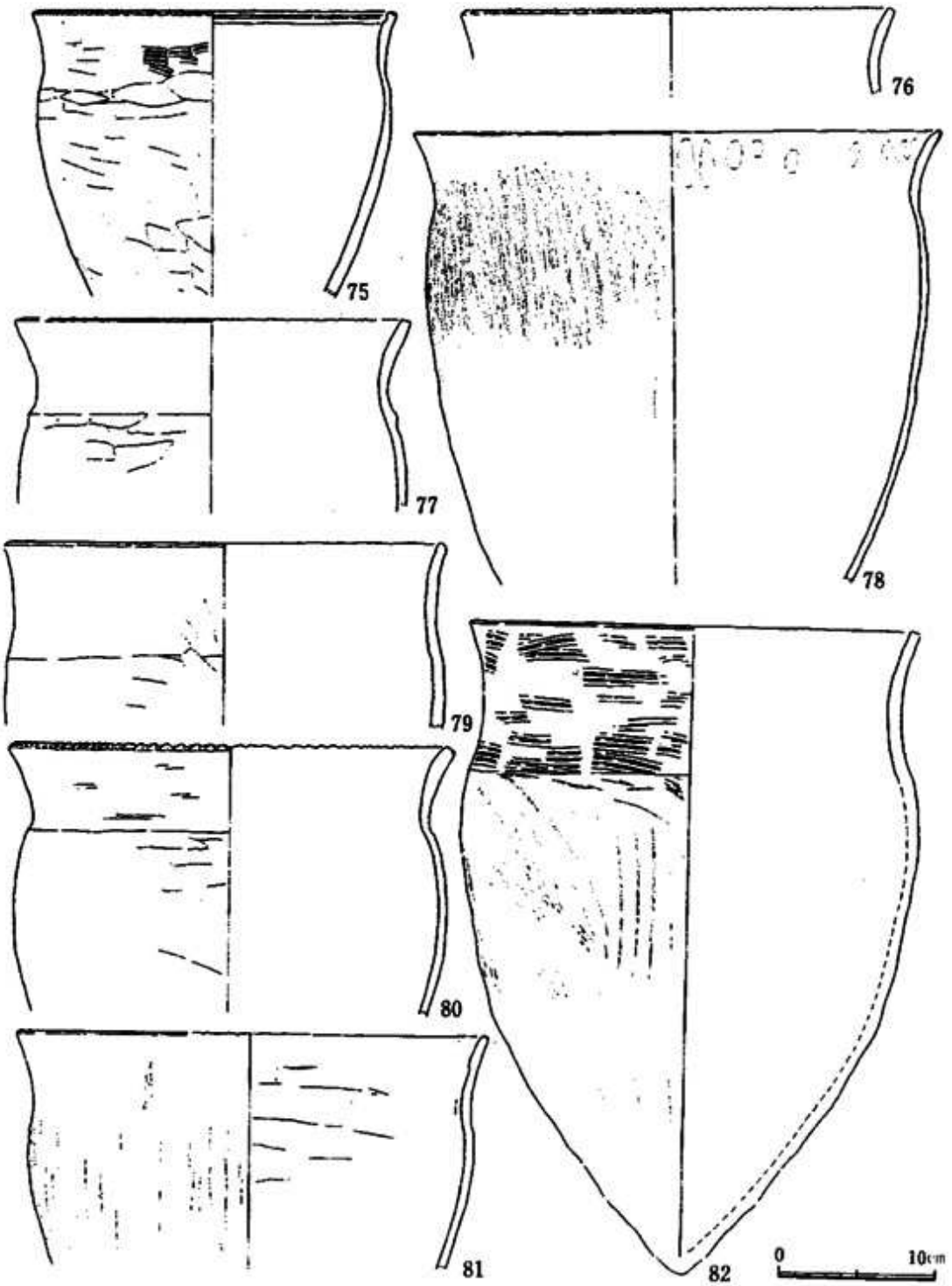
口縁端部を折り返さないもの。押し引きの間隔が長くなる傾向が認められ、押し引きの方向が横位ではなくて、斜位になるもの（83・86）もある。凸帯の断面は扁平なものが多い（86・88・96）。86や、51－Z区土器溜まり出土の87、第4号土器棺の83・88は口縁部が内傾し、肩部径のほうが口縁部径よりも若干大きい。そのせいか肩部の屈曲も退化している。新しい様相と理解したい。54は指で押し引きを施した数少ない例である。凸帯の位置は口縁端部からかなり離れ、凸帯の形状は痕跡的である。この特徴をもつものはすべて指で押し引きをしており、押し引き凸帯の最終段階に位置するものかもしれない。



第36図 縄文土器 第4群土器第1類実測図(3)



第37図　縄文土器　第4群土器第1類実測図(4)



第38図 縄文土器 第4群土器第1類実測図(5)

B-b類（第40図89）

口縁端部を外側へ折り返したもので、その端部を丸く整形することが多い。51－Z区土器溜まりから出土した89は口縁端部に平坦面ができており、折り返し手法の先駆をなすものといえる。凸帯は断面三角形を呈し、押し引きの間隔は大きい。また、B-a類と同様、口縁部が内傾する。

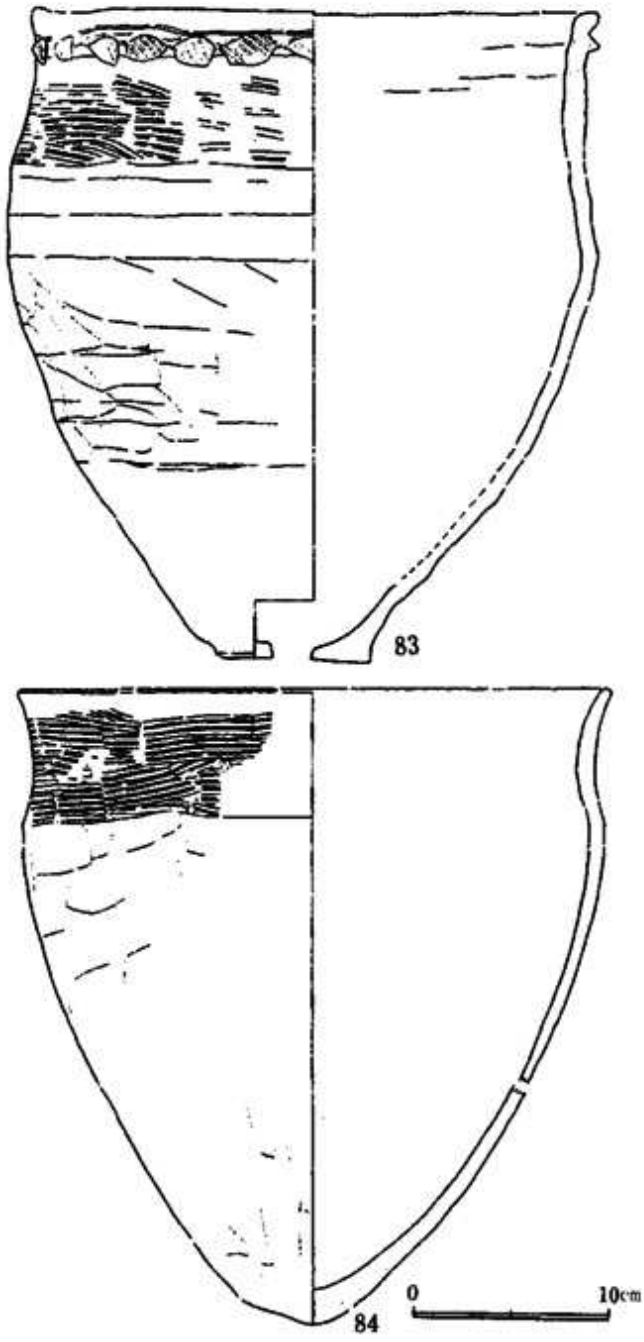
B類の凸帯の位置が下がることについては折り返し手法の出現と不可分の関係にある。

C類

最も数が多く、文様・器形も単純な器種である。素文で器壁が比較的厚く、口縁端部が平坦面をなす。

C-a類（第37図73、第38図79・82）

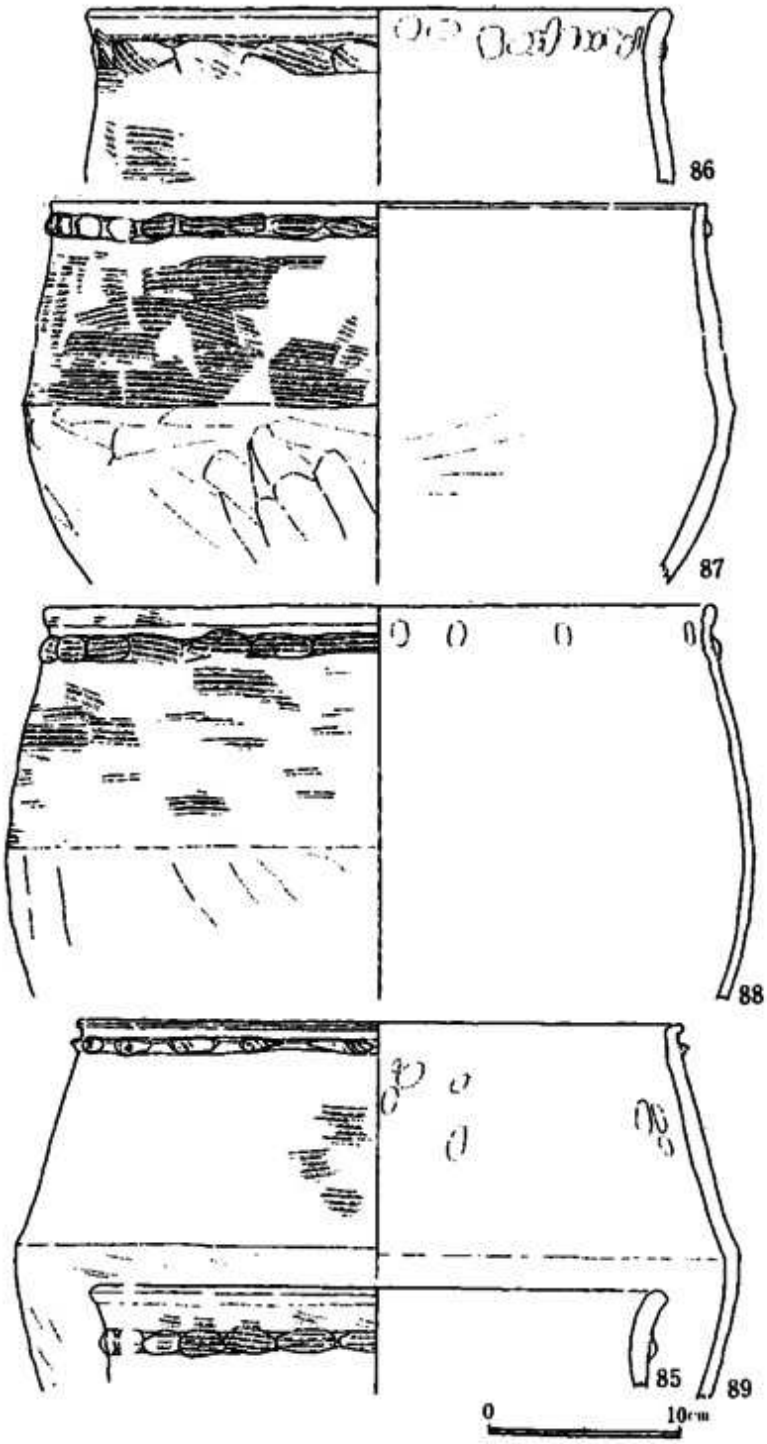
口縁端部に押し引きを施さないもの。13－C区土器溜まり出土の79と第10号土器棺の82は肩部の段が退化し、後者の胴部にはケズリ調整のかわりにヘラ状工具の条痕を残しており、新しい要素の一つといえる。第10号土器棺の73はC-a類の典型である。



第39図　縄文土器　第4群土器第1類実測図(6)

C-b類（第35図56、第37図70～72、第38図75・76・80、第39図84）

C-a類に類似するものであるが、口縁端部に押し引きや内面に沈線をもち、西之山式・五貫森式の色彩の濃いもの。肩部の屈曲が明確なもの（70・77・80）とそうでないもの（75）



第40図 縄文土器 第4群土器第1類実測図(7)

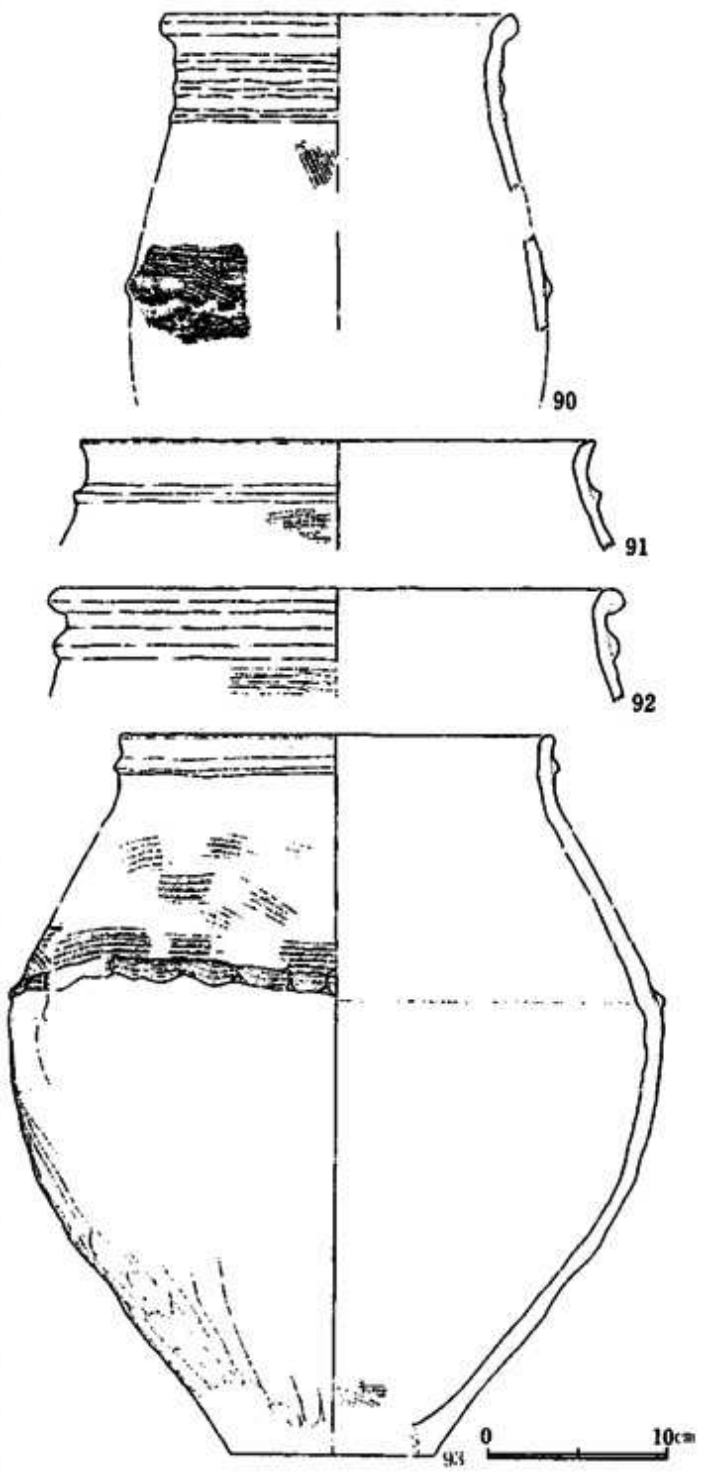
があり、第12号土器棺の75の口縁部は西之山式的だが、肩部は退化している。56は口縁端部に指の押圧が施され、肩部に沈線が認められる。第7号土器棺の84は口縁部に穿孔があり、同一個体と思われる他の破片にも穿孔が認められ、少なくとも三個以上の孔が穿れていたことになる。

D類

器壁が非常に薄く、口縁端部を尖り気味にした例が多い。肩部の段はきわめて不明瞭になり、口縁部と胴部以下の調整方法に違いが認められるのみである。荒いミガキ状の調整を施すことが多く、D類の指標の一つとしてあげられる。二種に細分したが、大きな差は存在しない。両種とも出土量ではC-a類につぐ。

D-a類（第37図74）

口縁端部に押し引きが認められないもの。74は第14号土器棺で肩部が張り、形態は壷にちかい。



第41図　縄文土器　第4群土器第1類実測図(8)

D-b類 （第37図69、第38図78・81）

口縁端部に押し引きがあるもの。押し引きは胴部の調整と同様、ヘラに限られる。69・78は第16号土器棺で、69は調整が荒く、条痕仕上げのようになっており、78は肩部以下に縦位の荒いミガキ状の調整を施している。81は15－D区土器溜まりから出土したものである。

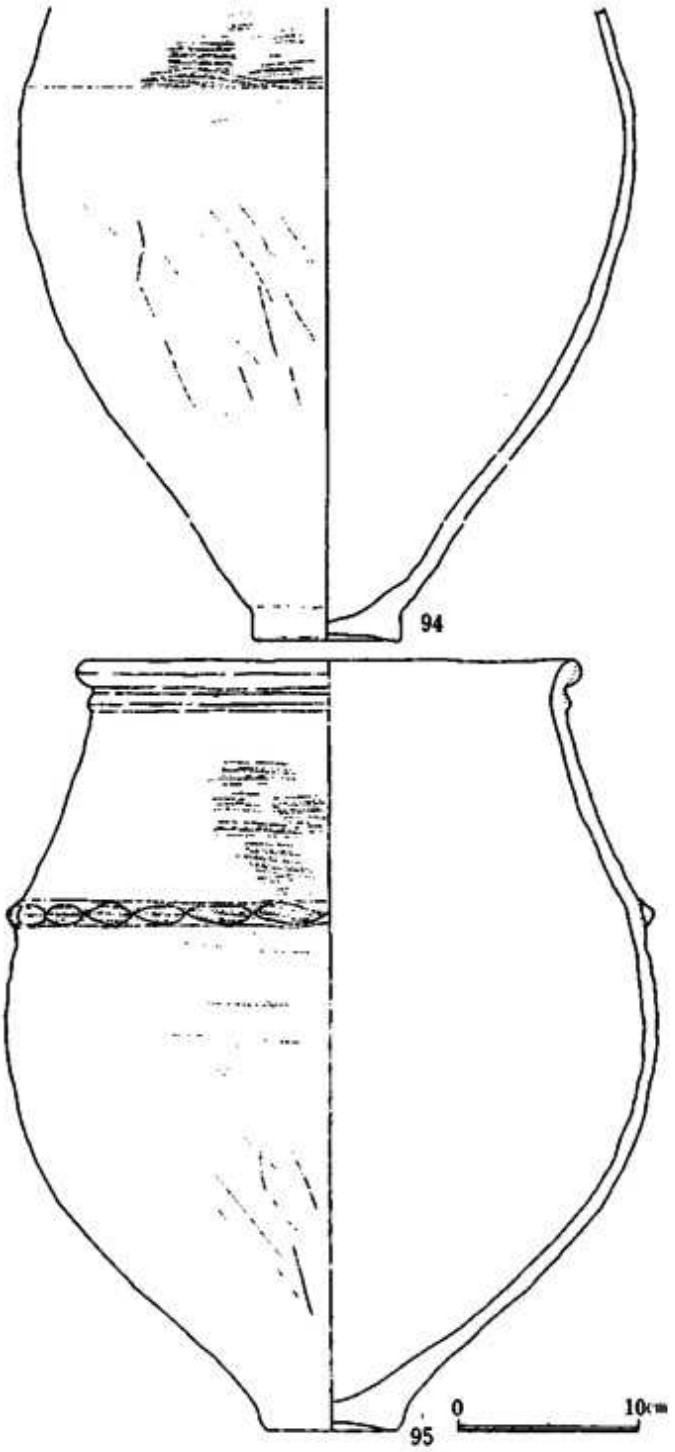
E類

素文の凸帯をもつもの。口縁端部の折り返し手法の有無で二種に分類した。量はB類とほぼ同じでD類よりも少ない。

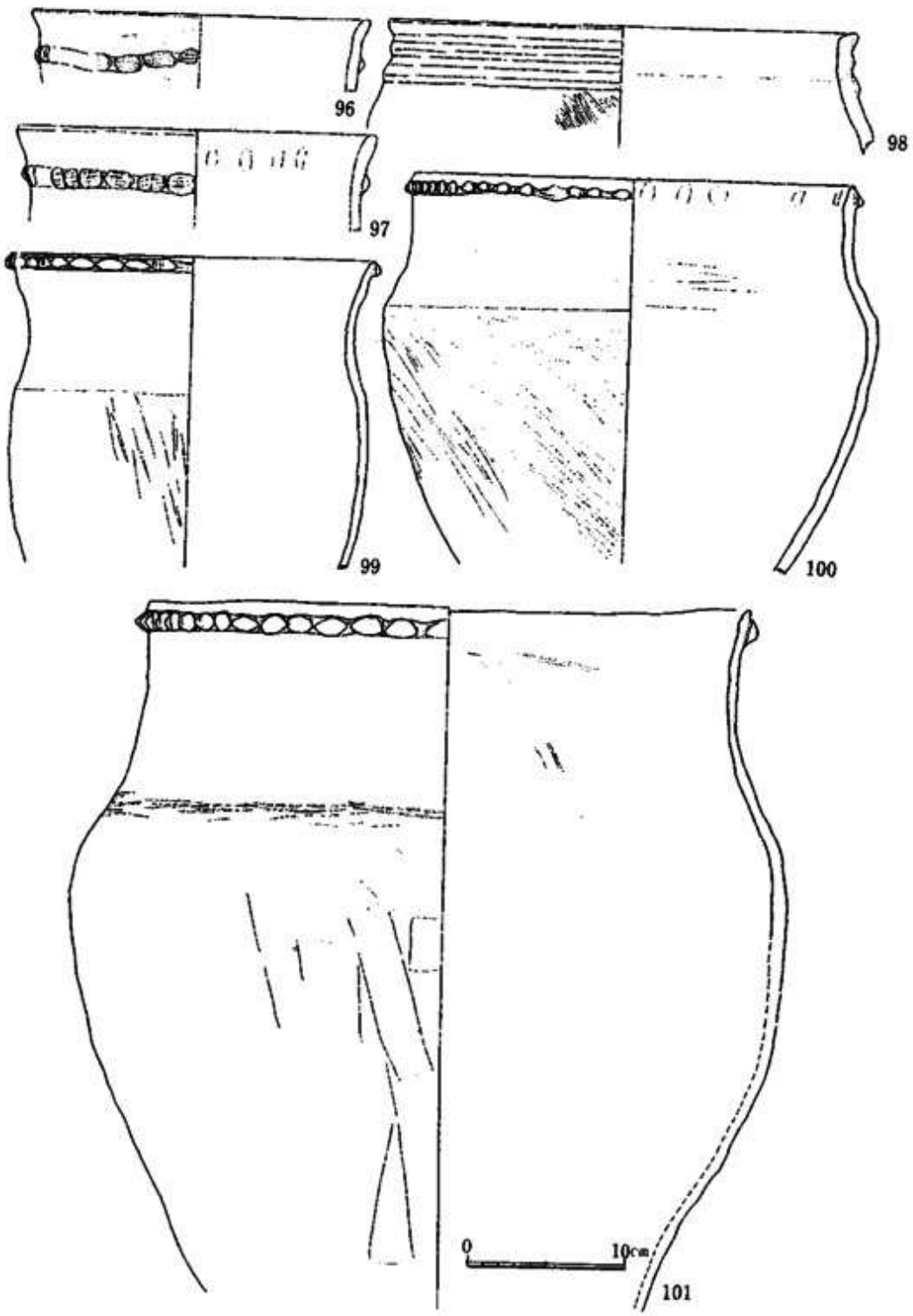
E-a類

（第41図91・93）

折り返し手法が認められないもの。51－Z区土器溜まり出土の93はその代表で、肩部に貝殻によるO字状の押し引き凸帯がつく。凸帯の形状は変化が多くて、断面が半円形を呈するもの、扁平なもの、凸帯の頂部が真ん中より下になるもの（93）などがみられ、91は強いナデ調整の結果、三角形



第42図 縄文土器 第4群土器第1類実測図(9)



第43図　縄文土器　第4群土器第1類実測図(1)

の断面を呈している。

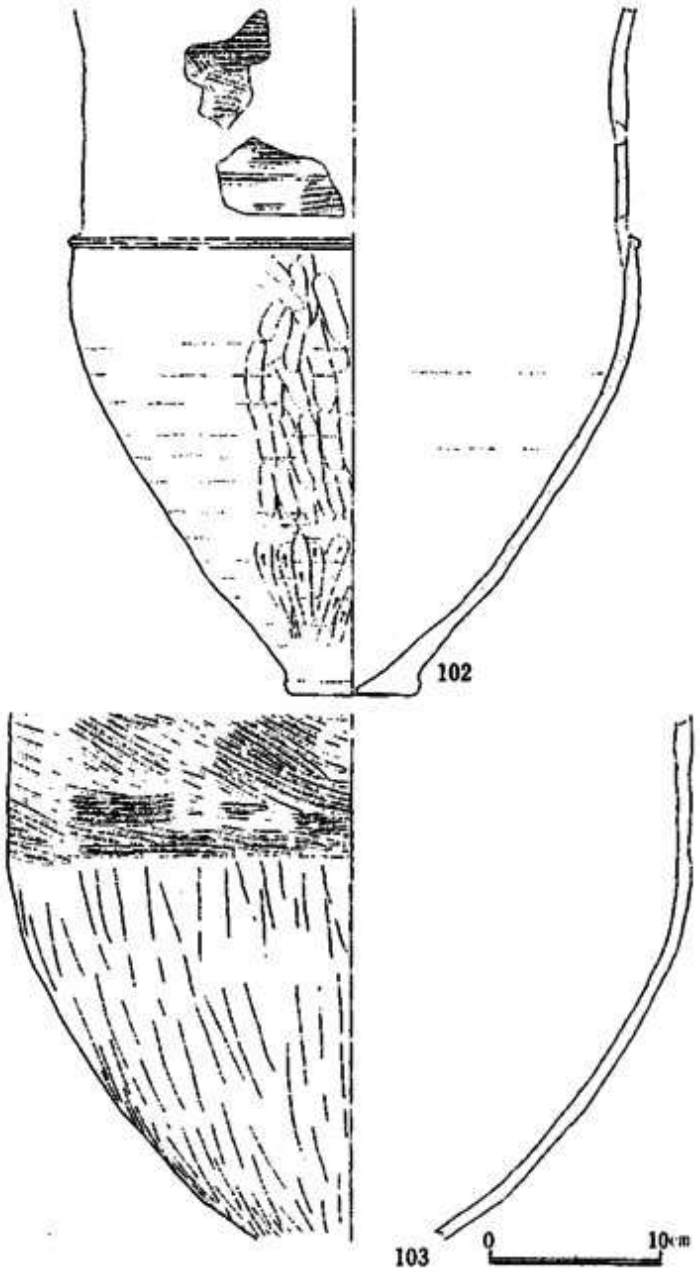
E-b類（第41図90・92、第42図95、第43図98）

口縁端部の折り返し手法が認められ、折り返し部が凸帯のようになるものが多い（92・95）。凸帯の形状はE-a類と同じである。90は凸帯が三条あり、凸帯が多条化する傾向がうかがえる。第5号土器棺の95は、折り返し手法の差異を除けば、ほとんど93と同じ特徴をもつ。

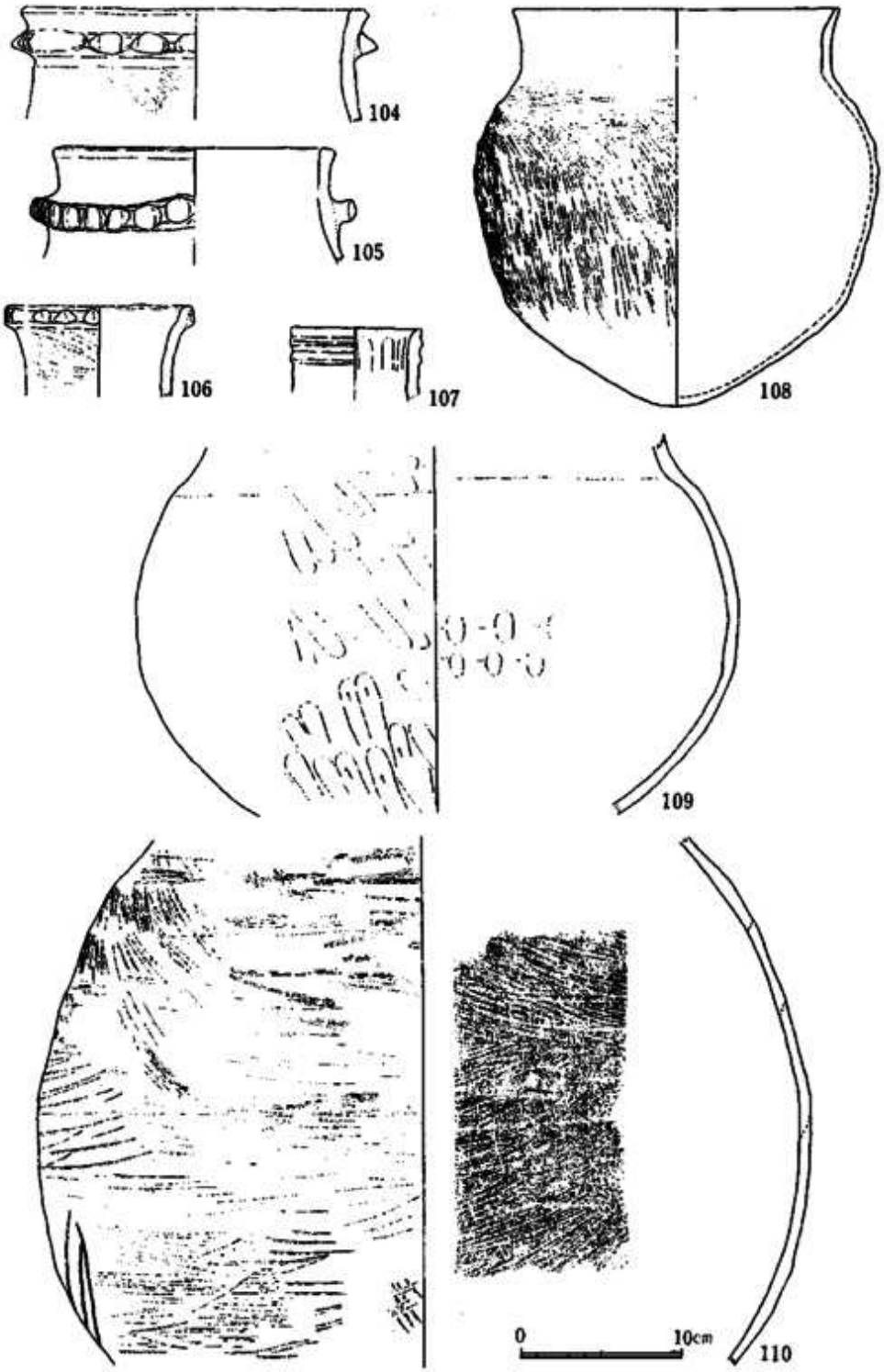
E類は93・95の検出によって、肩部に押し引き凸帯がつき、口縁部が大きく内傾する壷的な器形をもつものとみて間違いない。

F類（第43図100・101）

2点のみで類例が少なく問題点の多い類である。口縁端部直下に大きな凸帯がつき、その上に指の押圧が施されたもので、第15号土器棺の101を基準とする。100は凸帯の上にヘラの押し引きが加えられていて、A-b類にちかいが、101と対となる土器棺でもあり、器形的にも101に近似していることからF類に含めた。100・101とも口縁部が直立し肩部が張りだしており、ほとんど壷といってもよい器形をしている。しかし、調整方法は従来の手法を踏襲していて、退化した肩部に櫛状工具による条痕を残しているので、肩部の段の作出を意図していると判断して甕に分類した。



第44図 縄文土器 第4群土器第1類実測図(1)



第45図　縄文土器　第4群土器第1類実測図(2)

G類（第37図62～68）

上記の分類にあてはまらないもの。内外面ともナデ調整が施される例が多い。64はD-a類に含まれるかもしれない。

その他（第42図94、第44図102・103）

102・103はいずれも口縁部を欠損し、全形が不明である。特に、第1号土器棺の102は肩部に素文の凸帯がつくので口縁部を欠いているのが残念である。なお、94は第3号土器棺である。

（3）壷（第45図104～110）

出土資料は合計7点にすぎないが、一応、次のA～E類に分類する。

A類（104）

口縁端部は平坦で、いくぶん凹面をなしている。断面三角形の凸帯上に指の押圧を加え、凸帯以下を貝殻条痕で整形する。橿王式の典型である。この例の他に口縁部の破片1点がみられる。

B類（105）

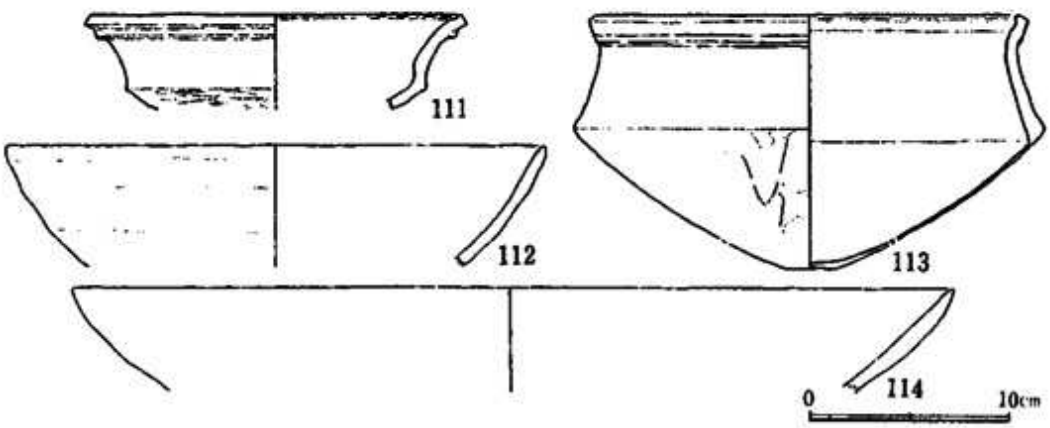
口縁部の特徴はA類と同じであるが、凸帯が異常に発達しており、その上に指の押圧痕がみられる。

C類（106）

凸帯は甕A-b類に似て口縁端部直下につき、ヘラの押し引きを加える。凸帯より下には貝殻条痕を残す。

D類（107）

素文凸帯が二条つく。口縁部の形状はE-a類にちかい。甕E-a類の小型品かもしれない。



第46図 縄文土器 第4群土器第1類実測図(3)

E類（108）

第12号土器棺だが、肩部が強く張り、調整方法・器形ともに甕E-a類に酷似し、甕E-a類に祖型をもとめることができる。

その他（109・110）

109・110は口縁部・底部を欠き全形が明らかではない。109は球形の胴部をもつが、肩部には不明瞭ながら段があり、甕にちかい形態を示している。110は第9号土器棺で大型のものである。炭化物が付着しており、本来、煮沸具として使用されていたものと思われる。

（4）浅鉢（第46図111・113）

111・113とも凸帯、口縁部内面に沈線がある。屈折部以下は111では条痕が残り、113ではケズリ調整の跡をとどめる。113の凸帯は痕跡的である。口縁部はミガキ調整が多く、口縁部だけでは、次の第2類の浅鉢と区別できない。

（5）鉢（第46図112・114）

112はミガキ調整が施されるが、その調整は輪積み痕を残すほど荒いので、本類に含めた。114は大型品である。

第2類土器　無文精製土器

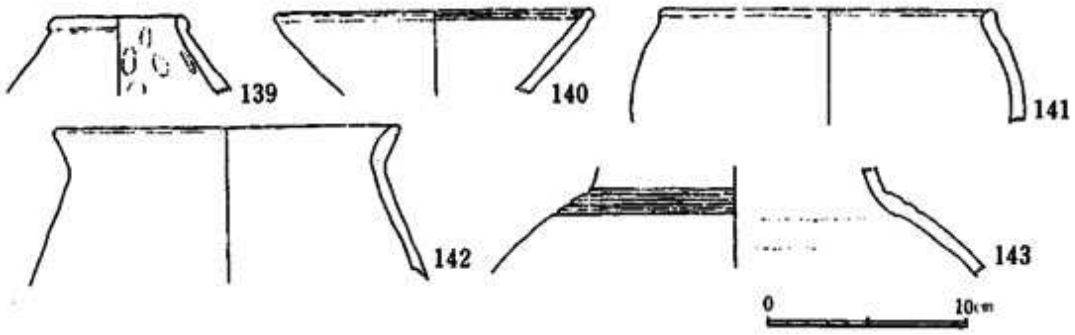
丁寧なミガキ調整を施すもの。器面に沈線をひくものもここに含めたが、有文精製土器と明確に区別する基準はない。壷・浅鉢等の小型品が目立つ。穿孔されているものも多い。

（1）深鉢（第48図117・122・123・128・138）

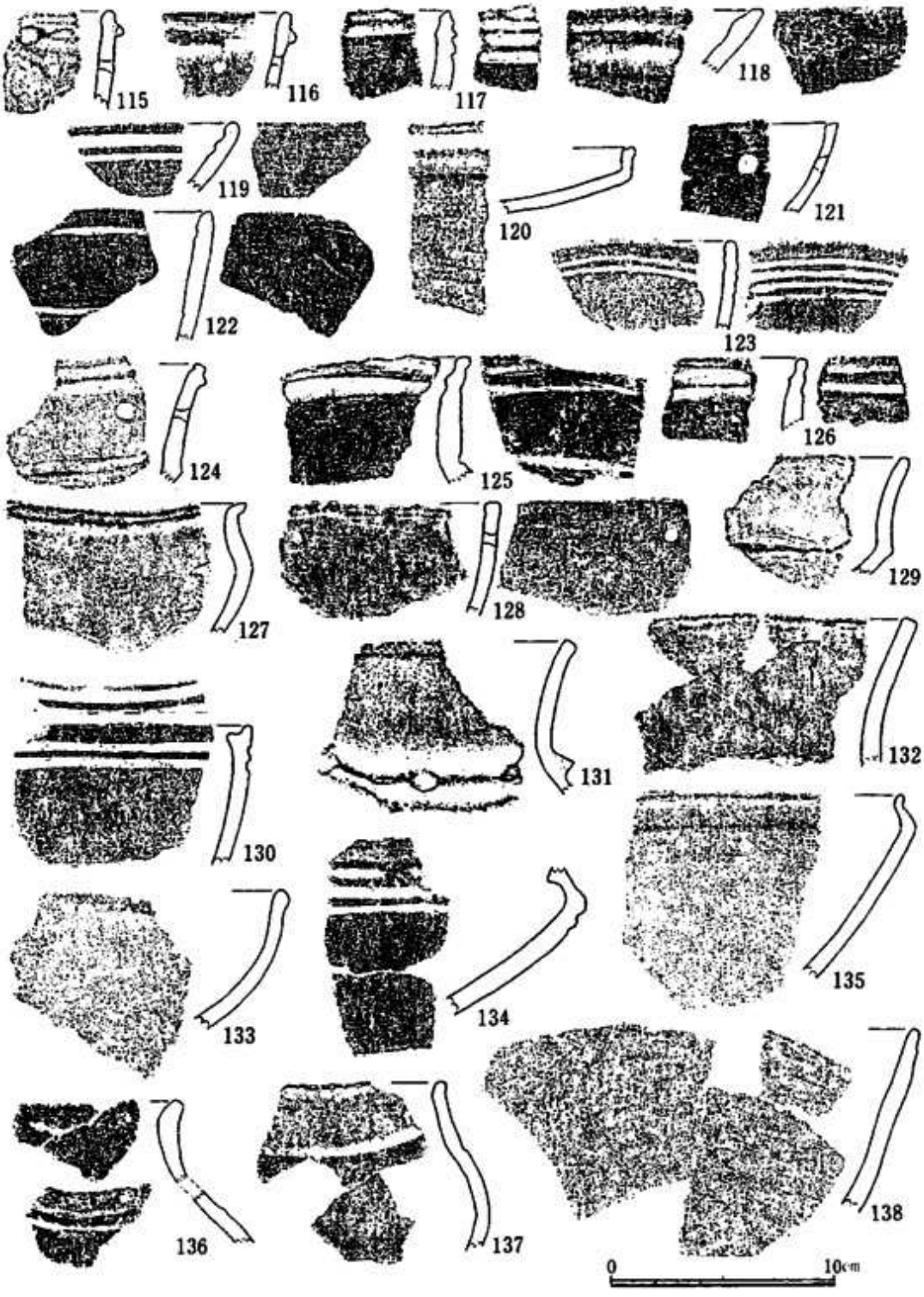
117・123は内外面に沈線、122・128は内面だけに沈線を施す。138は波状口縁をなす。小型品が多く、鉢との見分けがつかないものがある。

（2）甕（第48図115・125・126・131・132、第47図142）

内外面に沈線を施す例が多い（125・126）。131は凸帯の上に間隔をおいた指の圧痕を残す。



第47図　縄文土器　第4群土器第2類実測図



第48図 縄文土器 第4群土器第2類拓影

（3）壷（第48図136・137、第47図139・143）

西日本の晩期の壷を祖型とする小型の137・139のような例がみられる。136・143は肩部に沈線をひいている。

（4）浅鉢（第48図116・120・124・129・134・135）

124・129のように肩部で屈曲するものが多い。たいていは内面に沈線をもつが、134は屈曲部に沈線をもつ。120は非常に浅い器形でむしろ皿にちかい。

（5）鉢（第48図119・121・127・130・133、第47図140・141）

様々な形状を呈している。127・141は口縁部が内湾する。口縁部に沈線をひくものが多いが130は口縁端部に沈線をひいている。

（6）皿（第48図118）

類例は乏しい。118は口縁部内面に凸帯をもつ。

第3類土器　有文精製土器

大洞式系土器、浮線網状文土器等を含み、本群の土器の時期を知る上で手がかりを与える類であるが、時期幅が広く問題が多い。次のように六つに分類した。

Ⅰ類　大洞式系土器

Ⅱ類　彫刻的手法を用いるもの

Ⅲ類　三角形の抉りがあるもの

Ⅳ類　浮線渦巻文系土器

Ⅴ類　浮線網状文土器

Ⅵ類　その他

Ⅰ類（第49図144～167、第53図229・236・238・239）

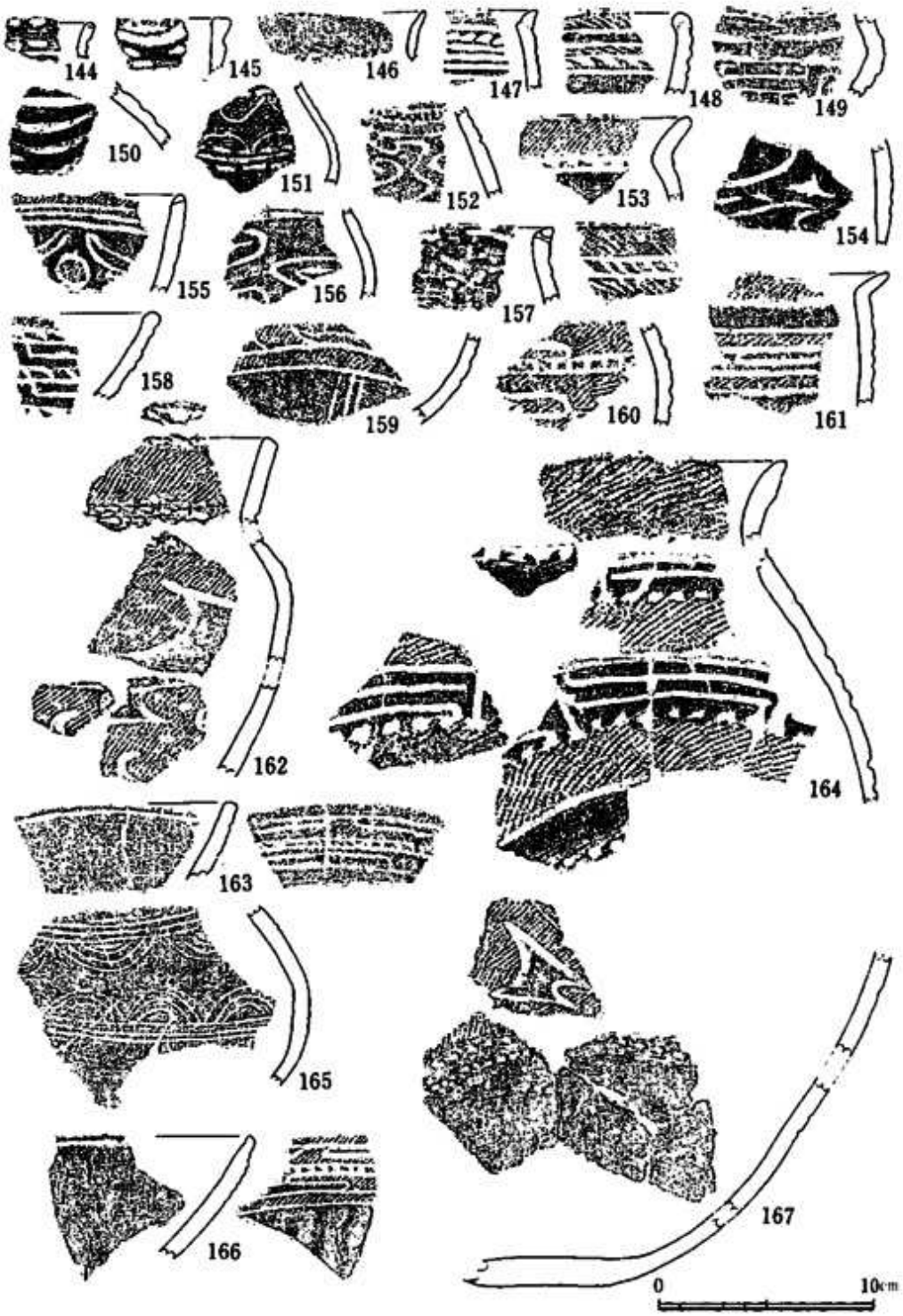
大洞B-C式段階から大洞C2式段階までのものが認められる。152・154・162・167には雲形文がみられ、大洞B-C式段階に比定できよう。144・145・150・151・165は半円を文様の基本とするもので、大洞B-C式～大洞C式段階の派生的類例であり、ヘナタリによる沈線が多い（144・145・150・151）。大洞B-C式段階の皿もある。大洞C式段階併行のものとしては158・160・163・166があげられる。238は胴部が強く張り、器形・文様とも在地化したためか、くずれている。239は拓影ではわからないが縄文帯直下にヘラの押し引きを施している。

Ⅱ類

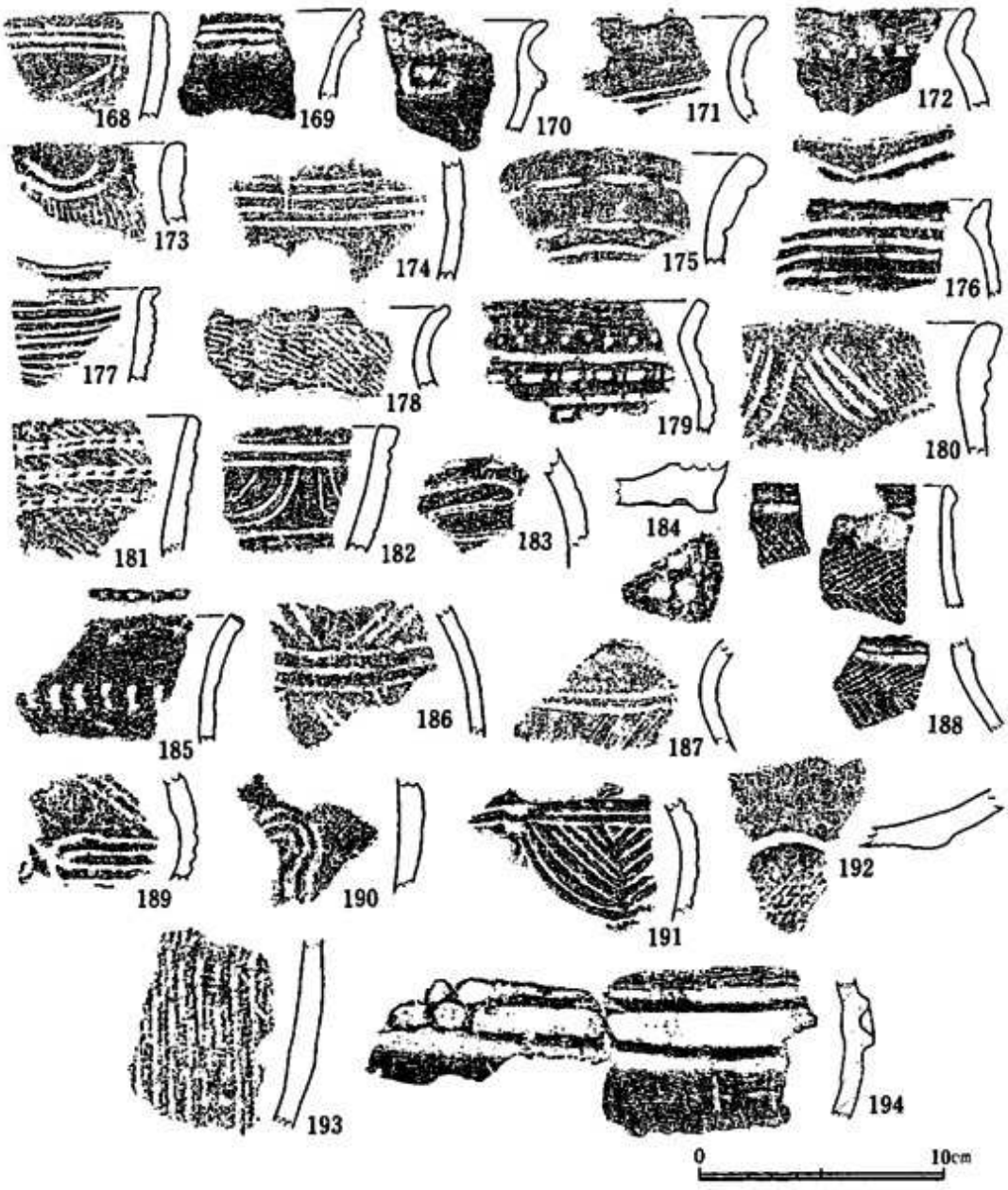
その系譜が明らかでないものが多く、ここでは仮に三種に分類した。

Ⅱ-a類（第50図168・169・171・173～177・180・182・183・186・187・189～191、第51図197～199・201・203・207・208、第52図226、第53図230・233・242）

沈線を主体にするもの。文様が弧を描くもの（168・173・180・182・183・189・190・199・207）と直線的なもの（169・171・174～177・186・187・197・198・201・203）とに大別できる。176・177・191

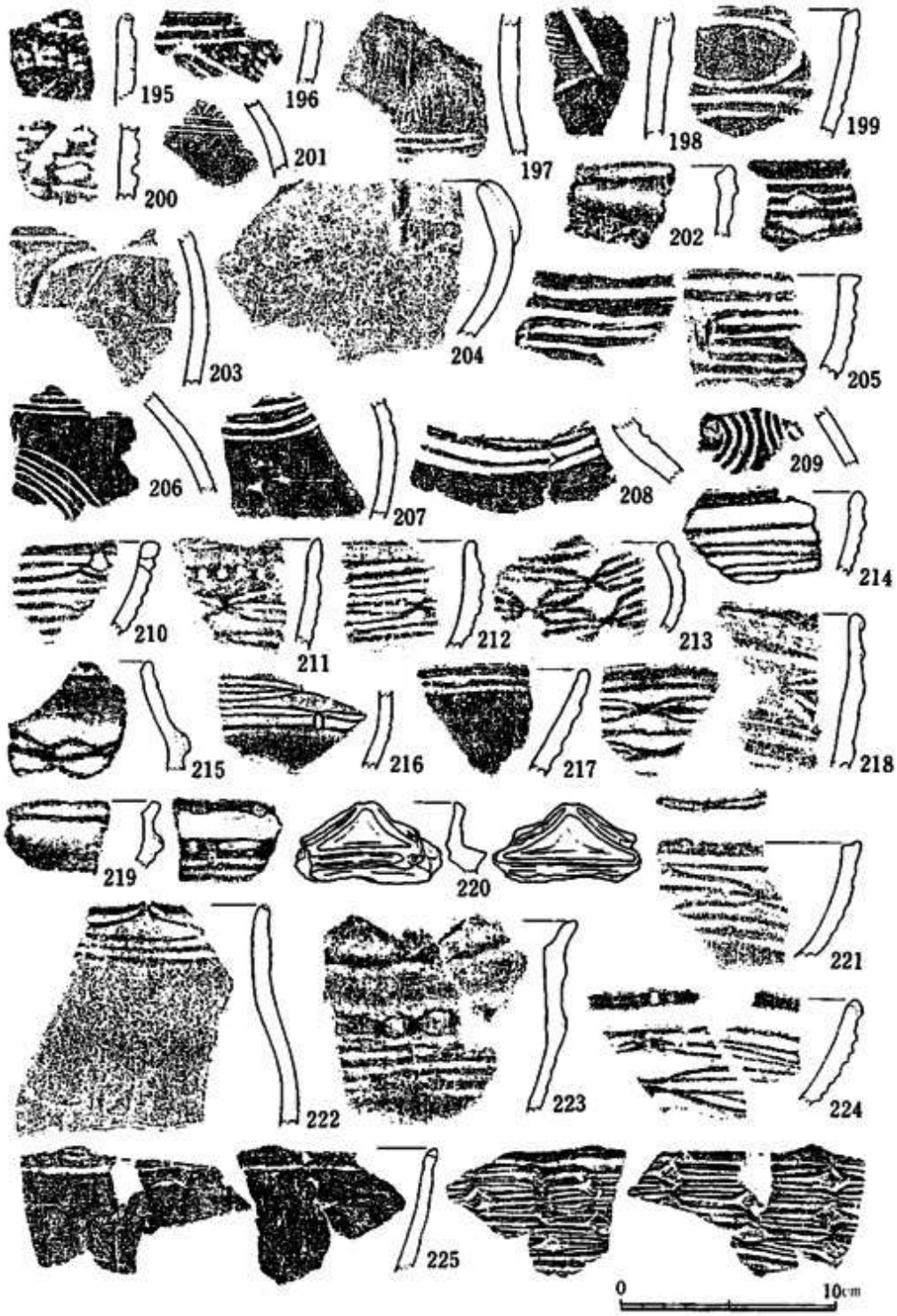


第49図 縄文土器 第4群土器第3類拓影(1)



第50図　縄文土器　第4群土器第3類拓影(2)

は工字文あるいはそれにちかい文様をもつ。183は縄文も認められる。226・233は波状口縁をなす。227の器形は明確ではない。233の波状口縁の両側には三個一組のB字状突起がつく。230は沈線間にヘラの刺突を施している。242は大型品でA字状突起がつく。



第51図 縄文土器 第4群土器第3類拓影(3)

Ⅱ-b類（第50図170・172・179、第51図196、第53図234）

刺突、押圧の手法を用いるもの。170・234は瘤状の突起に指の押圧を施す。179は北陸系の土器かもしれない。

Ⅱ-c類（第50図181・185、第51図195・200）

181・185・195は押し引きを施し、181には縄文も認められる。200は大型な刺突を施している。

Ⅲ類（第51図202・220・223、第53図241）

器形や文様構成の明らかではないものが多く、的確な判断を下すことは難しいが、さらに細分できる可能性がある。赤彩を施すものもある（220）。223は凸帯上に指の圧痕があり、凸帯以下は浮線文的手法による沈線がみられる。241は大型品である。

Ⅳ類（第51図206・209）

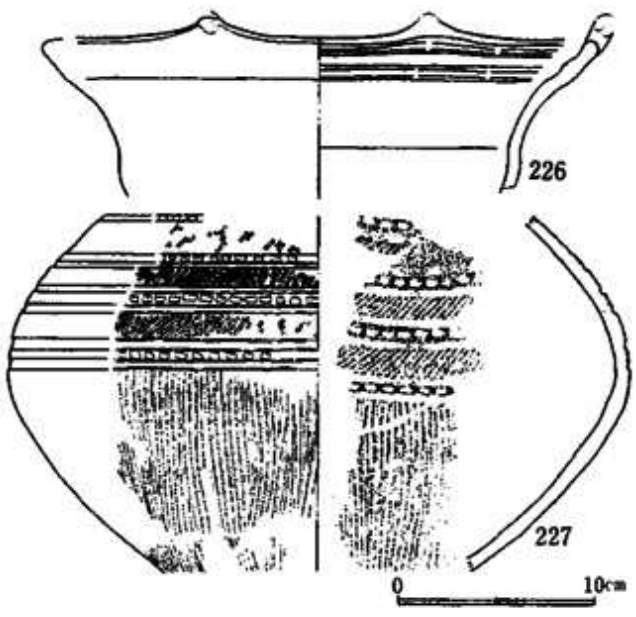
胴部の破片ばかりで口縁部は明らかではない。文様は沈線化した同心円文・渦巻文である。

Ⅴ類（第51図205・210～219・221・222・224・225、第53図231・237）

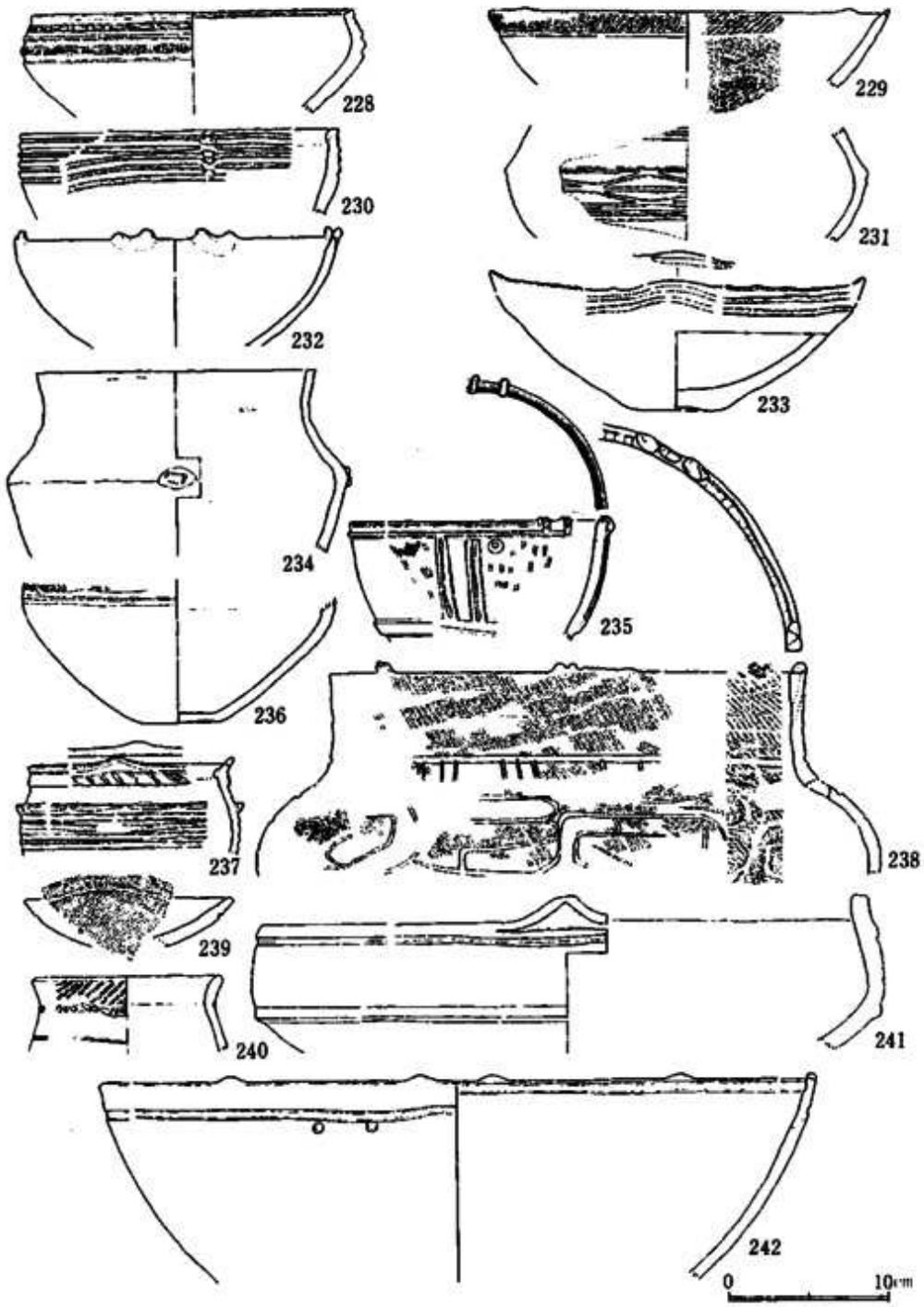
浅鉢（205・210・212～213、216・217・219・221、231）・鉢（211・218・225）が大半を占める。222は深鉢であろう。215・237は眼鏡状浮文帯をもつため、本類に含めたが、215はⅢ類になる可能性もある。237は特異な文様構成を呈している。205はモチーフ・技法の点では、本類のなかでは古相を呈する。

Ⅵ類（第50図178・184・188・192・193・194、第51図204、第52図227、第53図232～235）

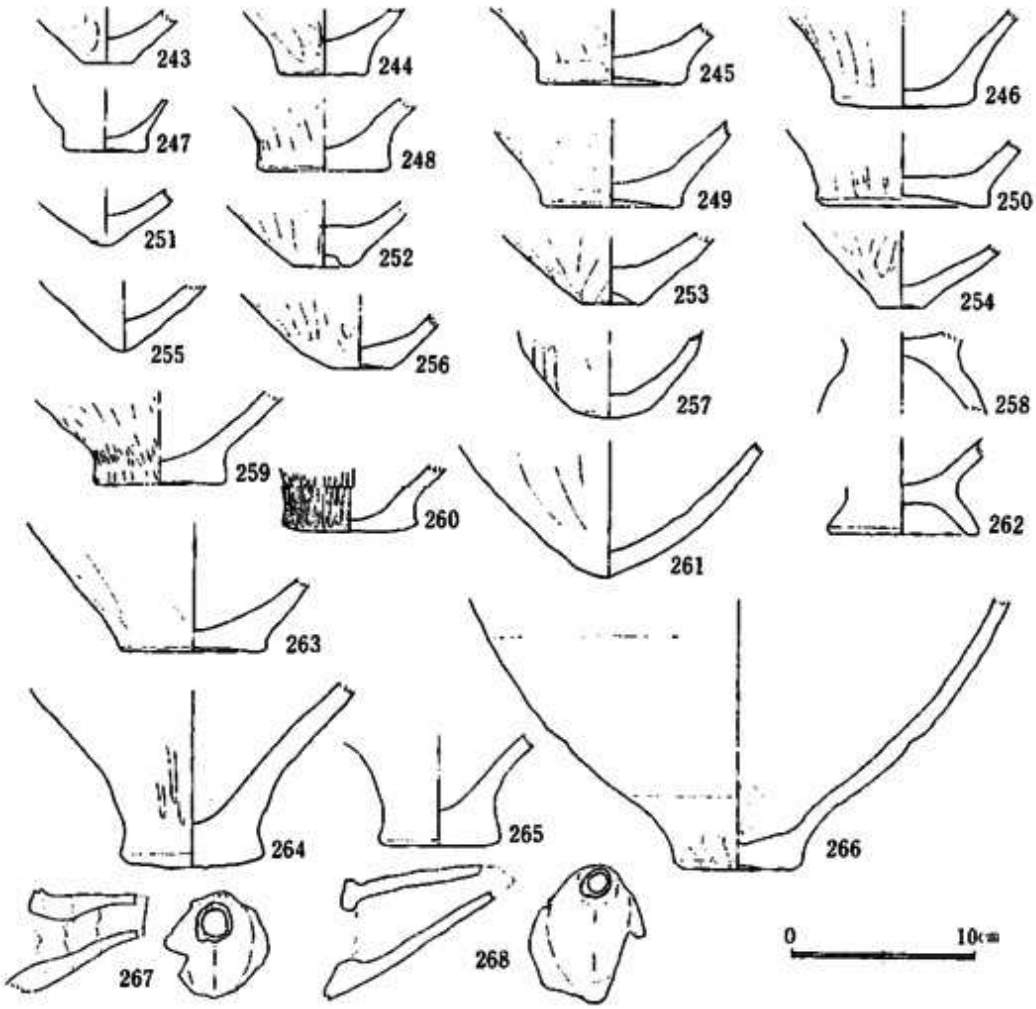
縄文を施文するものに178・188・193・235がある。188は同一個体で頸部に段をもつ。194は凸帯間が凹線状になっていて、そのなかに指の圧痕が認められる。204は口縁部に隆帯が認められる。227は胴部上半に縄文地に沈線と押し引き文を交互に配した文様をもち、下半は貝殻条痕で調整されている。今後の資料の増加に期待したい。232は口縁端部に耳状の突起がつく。184・192はともに底部の破片で、184では刺突がみられ、



第52図　縄文土器　第4群土器第3類実測図(1)



第53図 縄文土器 第4群土器第3類実測図(2)



第54図　縄文土器　底部・注口実測図

192では網代痕がみられる。

底部（第54図243～266）

A類（264・265）

全体の24.8%を占める。底部の大きさが非常に小さく、若干丸底気味ですわりが悪い。立ち上がりは急で、少し内湾したあと、急角度で上方にむかう。棒束状工具などによる条痕を残すことが多い。

B類（83・94・95・102・244～246・248～250・263・266）

全体の31.0%。大きく安定した形をしていて、立ち上がりはA類と比べるとゆるやかである。調整はケズリ、ナデ、条痕など多種である。外面をドーナツ状にケズリ、ミガキを加えるもの

もある。

C類（252～254・256）

19.4%、。形態は尖底に似るが、底がくぼんでいるもの。くぼんでいるところにミガキを施すことが多い。外面はケズリを行うことが普通である。くぼみ方の差が著しく、243も本類に含めてもよいかもしれない。

D類（60・61・251・255・261）

8.0%。尖底。先端部はかなり丸底にちかい。ケズリや荒いミガキを施すものが多い。

E類（74・108・257）

15.0%。尖底というよりも丸底にちかいもの。立ち上がりはD類よりもゆるやかである。

F類（258・262）

1.8%。脚台のつくもの。

注口（第54図－267・268）

2点出土している。手づくねで整形している。正確な時期は不明。

ここで、第4群土器の問題点を提示したい。

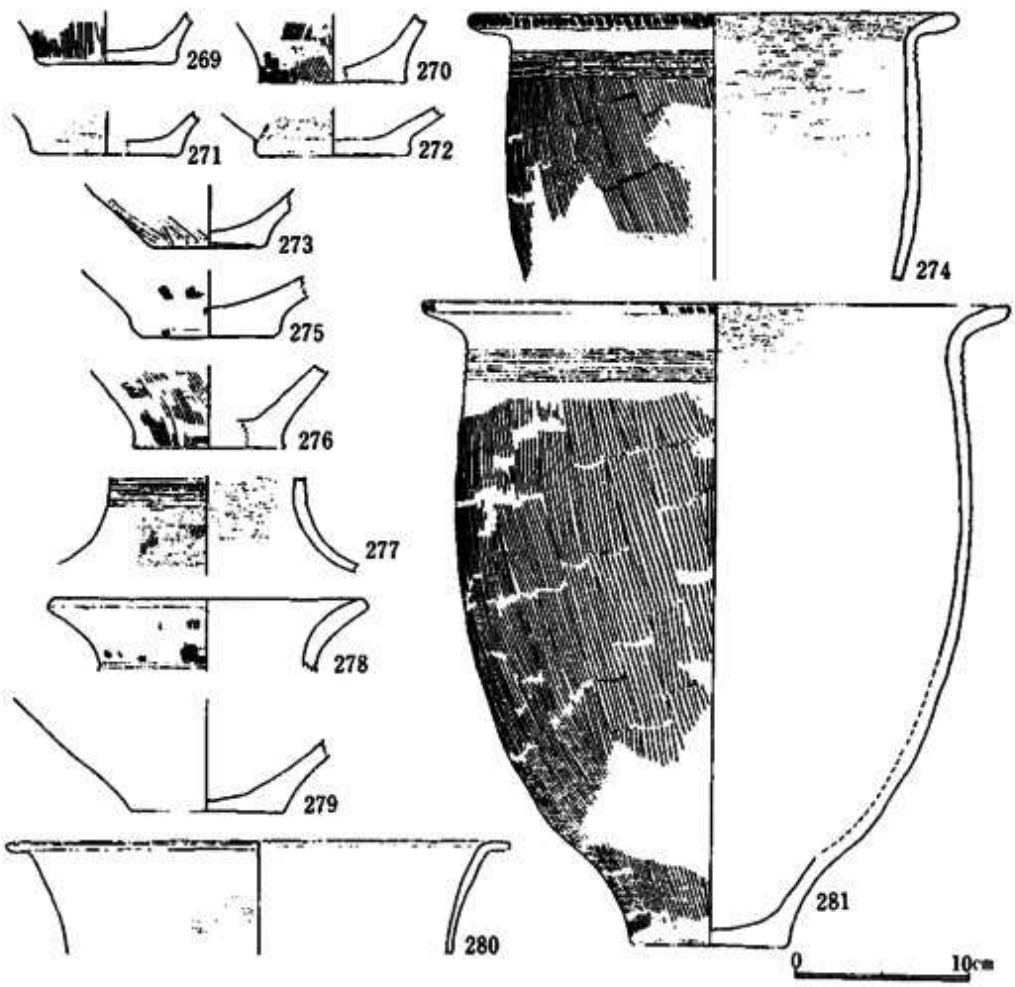
第4群土器を第1～3類に分類したなかでも、第1類土器が圧倒的な多数を占める。第1類土器には西之山式～樫王式の特徴をもつものが認められるが、有文精製土器の第3類土器の時期幅が大きいこと、全形がわかる資料が少ないこと、各型式が相互に複雑に絡み合っていて、単一の指標・特徴だけで時期を設定できないことなどの理由で、各型式に細別しなかった。

第3類土器は大洞式系土器・浮線網状文土器を含み、大洞B-C式～大洞A式までの時期が想定できる。この時期幅は第1類土器が西之山式～樫王式の特徴をもつことと対応しているが、第3類土器の各時期の土器の比率は同程度で、どの時期が中心になるということはない。

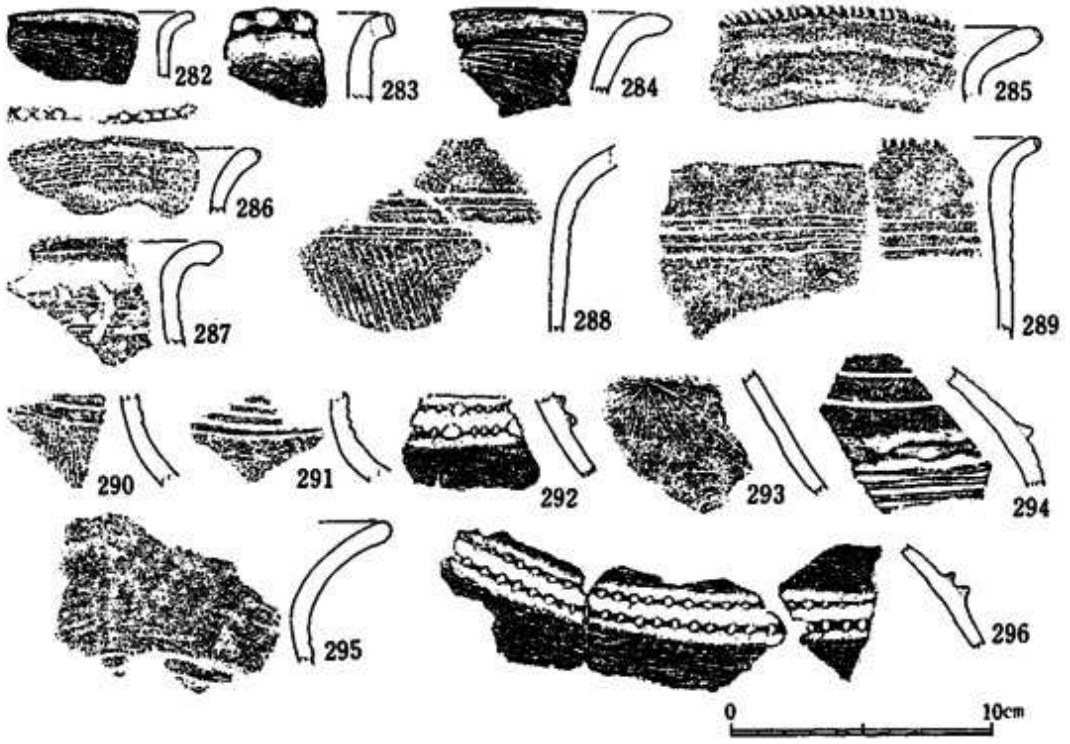
第1類土器の数少ない一括資料として土器棺及び土器溜まりの土器があり、いくつかの問題点を提示していてる。西之山式的要素の濃い第12号土器棺の75は壷E類の108と共伴している。壷E類は下り松式以降のものとみられ、西之山式的要素は下り松式期まで残るとみなければならない。五貫森式にちかい単斜走の深鉢A類の第9号土器棺の41、13－C区土器溜まり出土の29も、下り松式と考えられる壷110と甕C-a類79とそれぞれ共伴している。同様に、第13号土器棺の60と第11号土器棺の61・99は五貫森式・下り松式の両型式の特徴を合わせもっている。甕E類の第5号土器棺の95と51－Z区土器溜まり出土の93は、その器形と二条凸帯の特徴の先駆が五貫森式に求められることを示唆するが、五貫森式のなかではそれは主体的存在であるとはいえず、93が五貫森式・下り松式の両要素をもつ87と共伴していることから、甕E類は下り松式期に盛行期があると推定される。第14・16号土器棺の甕D類の69・74・78は西之山式・五貫森式にはない器種で、下り松式として間違いないであろう。第15号土器棺の甕F類（101）

は凸帯・器形ともにきわめて樫王式的である。しかし、それ以前の調整方法を用いていることや、口縁端部に平坦面がないことは、それが樫王式ではないことを示唆しており、下り松式の範疇にあるものと考えたい。これらの遺構出土土器は五貫森式・下り松式の両型式の過渡的特徴をもつものと、下り松式の特徴をもつものに大別できるといってよいであろう。前者はどちらの特徴を積極的に評価するかによって、判断が異なってくるであろう。後者の資料としては第14・15・16号土器棺が代表であり、位置的にも近いことから、下り松式の一括資料として提示できる。

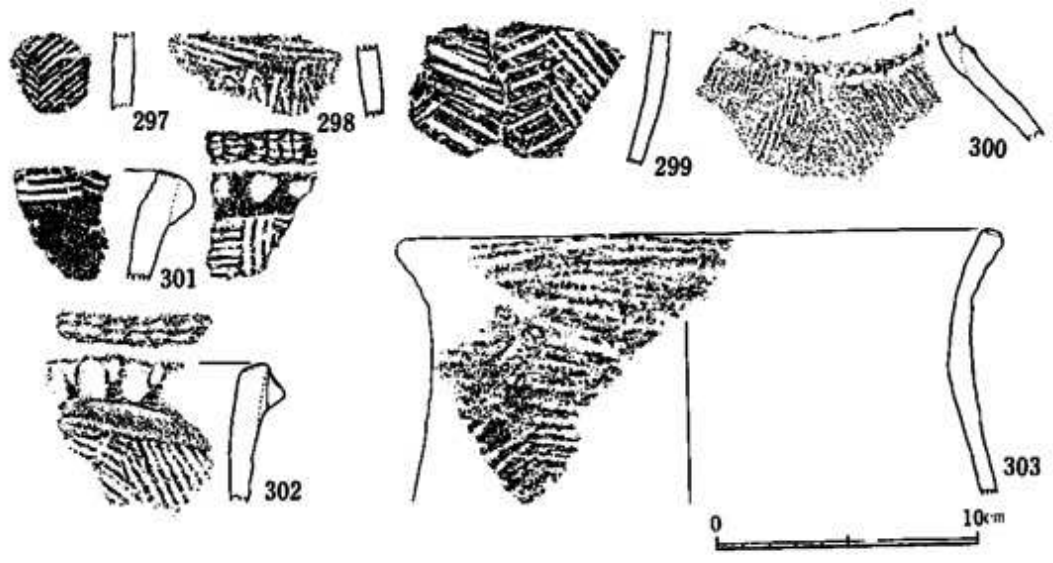
第3類土器と第1類土器の各型式の併行・対応関係については、今後、全形のわかる資料や、明確な共伴関係をもち、組成のわかる資料の出現をまって論じられるべきであろう。



第55図　弥生土器実測図



第56図 弥生土器 第1群土器拓影



第57図 弥生土器 第2群土器拓影

弥生土器

遠賀川系土器と水神平式土器の二つに分類できる。

第1群土器（第55図269～272・274～278・280・281・283、第56図285～296）

遠賀川系土器。甕は、口縁端部に半截竹管の刻みがつけられ、口縁部には半截竹管による数本の沈線が加えられる。また、口縁部は厚く、L字形に屈折している。これらは、すべて在地の遠賀川系の甕の特徴にあてはまる(274・281・285・287～289)。274・281は第2号土器棺である。壷にも沈線の多条化が認められ（291・294)、凸帯の上にヘラの刻みを施す場合が多い(292・296)。293は木の葉文を施文している例で、在地の遠賀川系土器だが県内では稀な資料であろう。279・283は中期のものだろう。今回の発掘では、甕の出土量が壷よりも多かった。

第2群土器（第55図273、第57図297～303）

出土量は非常に少ない。ほとんどが水神平式の新段階に相当すると考られえる。273は本類の底部である。すべて櫛状工具による条痕を残している。297・299・303は縦位の羽状条痕が施されている。300は壷の肩部であろう。301・302はともに口縁部の破片で、凸帯の上に指の押圧が加えられ、口縁端部には押し引きが施される。301は外面にT字文がみられ、内面には横位の条痕を残している。

その他（第56図282・284）

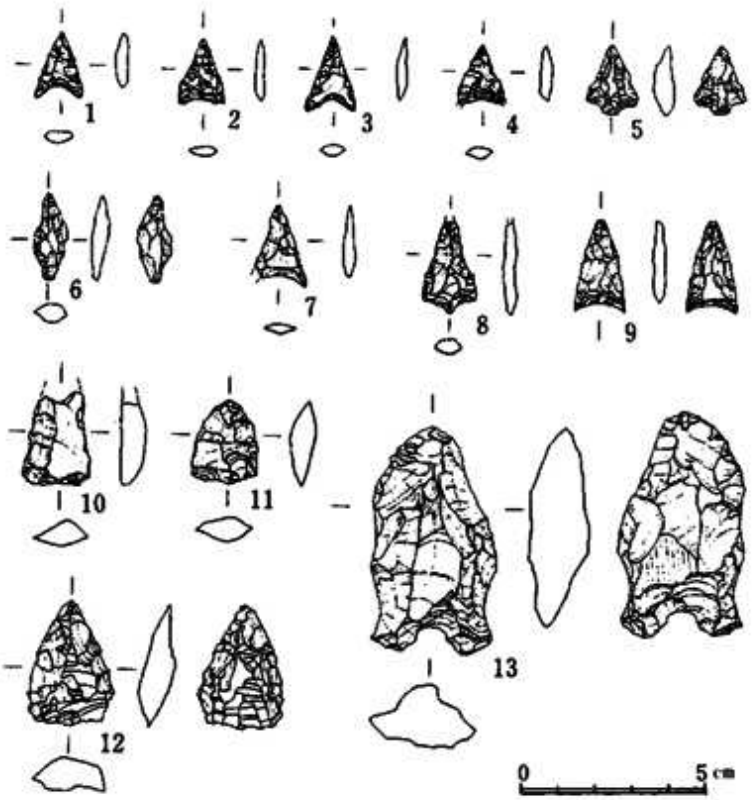
どちらも櫛状工具による横位の条痕が施される数少ない例である。口縁部は、ゆるやかに外反して、その端部を丸く整形する。

第2節　石器・石製品

本遺跡は、縄文時代晩期遺跡の一般的特徴である石製品の豊富さを看取できる。また、打製石斧が少なく、敲石・磨石・凹石等が圧倒的に多いのも本遺跡の特徴である。縄文時代の早い時期に属するとみられる異形部分磨製石鏃等の石器群も散見する。次にあげる他に、若干の使用痕が認められる多数の搬入礫は、流失した遺構に由来すると考えられる。

石鏃（第58図1～9・11・12）

17点はチャート製、9点は砂岩製、4点は各々異なる石材製である。凹基無柄鏃が最も多い(14点)。9は砂岩製（頭部欠損）、1はチャート製、3は輝緑凝灰岩製、7はチャート製(片脚欠損）である。次に三角鏃が多い（5点)。12は一次剥離面を残す大型もので、11はやや



第58図 石鏃・石槍・異形部分磨製石鏃実測図

小型のものである。いずれもチャート製である。5はやや粗雑な砂岩製、8はチャート製（頭部欠損）の凸基有柄鏃である。4は黒曜石製、2はチャート製で一方の肩部の張り出しのある無柄鏃である。6は砂岩製尖基鏃である。

石槍（第58図10）

10は表面採集品でチャート製である。両側に広い剥離面が残り、基部に作出がない。

異形部分磨製石鏃（第58図13）

両面の稜・縁辺が磨滅している。縄文時代の早い時期の東海、特に尾張・美濃地方の特徴的な石器である。

くさび型石器（第59図15）

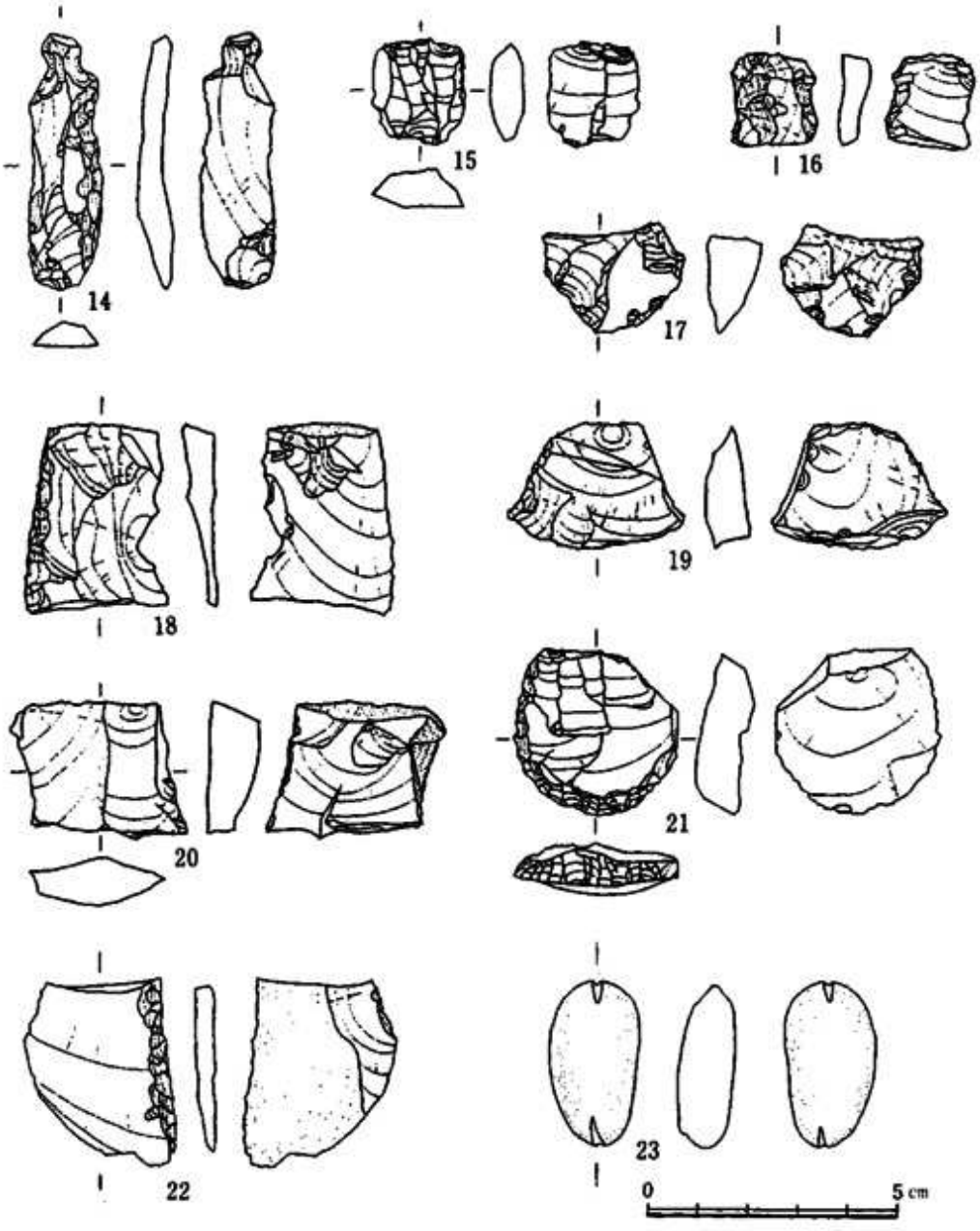
15はチャート製の最小例で、両端に階段状剥離とつぶれ、表面右側面に調整があり、スクレイパー的用途を想定できる。

石匙（第59図14）

チャート・砂岩製の不定形石匙が多い。台形横断面をもつ砂岩製の14には半両面調整が認められ、一次剥離面が広く残る。

削器・掻器（第59図21・22）

チャート製（7点）か細粒砂岩製（3点）で、サイドまたはラウンドスクレイパー様の中間的形態が多い。22はチャート製のサイドスクレイパーで、一次剥離面・表皮を広く残し、裏面右側辺に表面側から調整を施す。21もチャート製のエンド（またはラウンド）スクレイパーで無調整の裏面から表面に急角度の調整を施す（縄文時代早期に属するかもしれない）。



第59図　くさび型石器・掻器・削器・薄片石器・石錘実測図

薄片石器（第59図16～19）

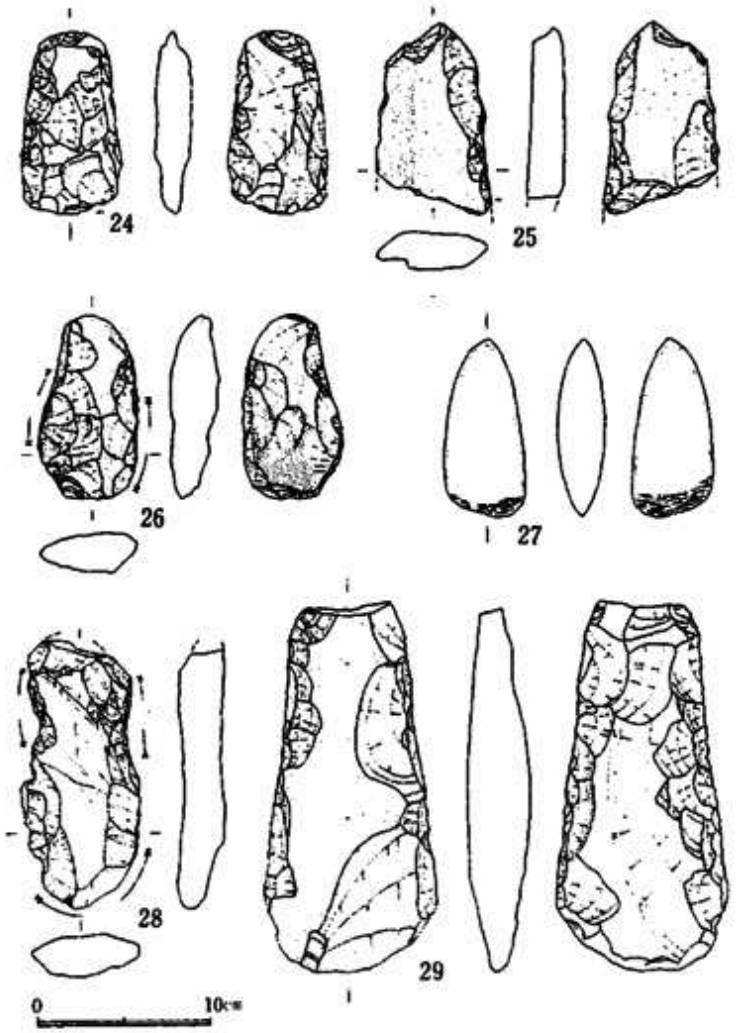
調整・使用痕が認められる多くは砂岩、少数例では粘板岩・チャート等の薄い剝片が多数出土した。不定形だが削・掻器または切断器的形態が多く、両端のえぐりと全面の激しい磨耗から石錘用途を想定できる事例もある。この地方の縄文晩期の特徴的なインプリメントである。急角度の抉状調整を加えたチャートの剝片（16）、左側辺へ裏面からの調整を加えた削器例（18）を図示した。薄片石器には使用痕のある剝片と区別しにくい例（17～19）が少なくない。

石錘（第59図23、第61図34）

泥岩・砂岩質の礫両端に打ち欠き抉りをいれた例が多いが、切目石錘、打ち欠いたのちに切目をいれた石錘が各3点出土した。34は大型砂岩礫の両端を打ち欠いた例、23は大型の砂岩製の切目石錘である。

打製石斧（第60図24～26・28・29）

砂岩質の完形品26点、欠損品38点が出土した。29は表皮・一次剝離面を広く残す大型打製石斧で刃部裏面の磨耗が激しい。24は表皮・一次剝離面を小さく残す小型打製石斧で裏面の一部の磨耗が激しい。25は欠損品である。完成品とほぼ同大の円礫の縁辺部を調整している。28は短冊型で着柄部にわずかな抉りがある。26は着柄部の作出がない。



第60図 打製石斧・磨製石斧実測図

磨製石斧（第60図27）

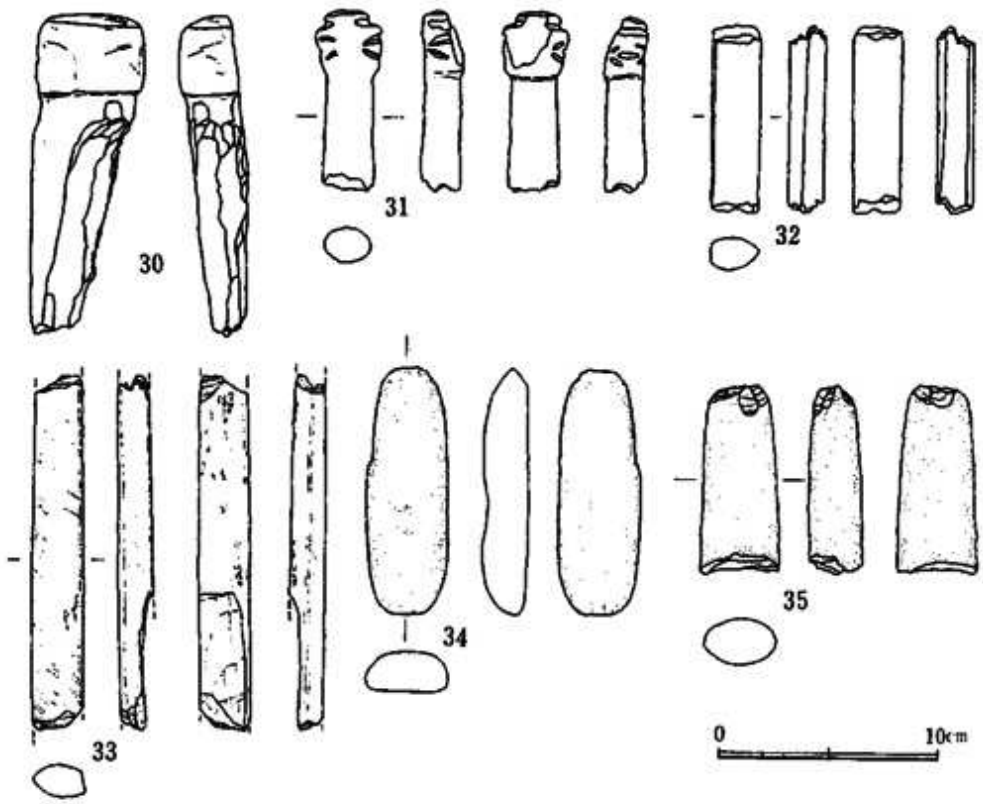
玢岩製が多いが、斑岩（5点）・砂岩（4点）・粘板岩（1点）・凝灰岩（1点）製もある。27は玢岩製の全面磨製石斧で、特に入念に磨いた刃部に使用によるつぶれが残る。

石刀（第61図30・32・33）

粘板岩質の磨製石刀が出土した。33は千枚岩製で刀身部の断片である。32は丁寧に磨かれ擦痕をほとんど残さないが、上下が欠損している。30も欠損が著しく、縦横に擦痕の残る柄の形状から石刀としたが、石剣または石棒かもしれない。

石棒（第61図31・35）

玢・砂・粘板岩製の磨製石棒が6点、敲打のみによる石棒が2点出土した。35は敲打後研磨した砂岩製の石棒だが、下半が欠損し、頭部に二次的な使用痕が認められる。31も下半欠損の砂岩製の磨製石棒で、柄状頭部に切目が入る。



第61図　石錘・石刀・石棒実測図

石冠（第62図36～38）

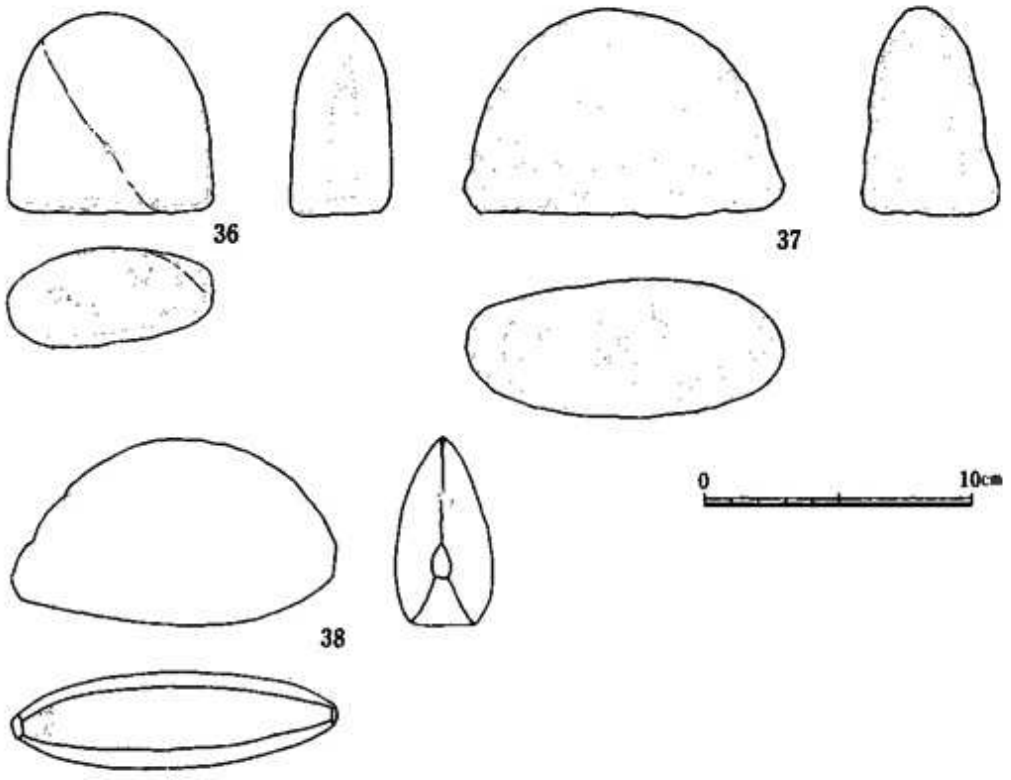
砂岩製の磨製石冠が2点、敲打製石冠が2点出土した。36は両端を切り落とし状に磨いた砂岩製の尖頭型全面磨製石冠である。38も36に似るが、ゆるい凸面状底部をもつ。37は敲打製だが、底部はわずかに磨耗している。

砥石

磨滅・擦痕のある板・角柱状凝灰岩質砥石が出土した。

敲石・磨石・凹石類（663点）

本遺跡の特徴的器種カテゴリーだが、極めて多数多様であるので、本格的記述は別の機会に譲らざるをえない。敲石は70点出土し、幅4～8cm、重量100～400g、500g台が多かった。磨石は110点出土し、幅3～12cm、長さ幅比6：5前後が多かった。敲石・磨石の複合形態は57点出土し、長さ5～15cm、幅5～10cmが多かった。凹石は91点出土し、幅5～12cm、長さ幅比7：5前後、重量500g台が多かった。凹石・敲石の複合形態は83点出土し、幅4～12cm、長さ幅比7：5前後、重量400g台が多かった。凹石・磨石の複合形態は138点出土し、長さ5～15cm、幅6～12cm、重量500～700gが多かった。凹石・敲石・磨石の複合形態は114点出土し、長さ7～15cm、幅5～11cmが多かった。



第62図　石冠実測図

第7章　考　　察

昭和61・62両年度にわたる発掘調査によって、はいづめ遺跡からは縄文時代早期～晩期と、弥生時代前～中期の土器が検出されたが、そのほとんどは縄文時代晩期後半から弥生時代前期までのものであり、縄文早期は押型文土器が4点、前期はその後半の諸磯式系と北白川下層式系が若干ずつ、そして中期は4点、後期は1点が検出されただけである。因みに、はいづめ遺跡の北には小さな沢を距てて小の原遺跡があり、昭和62・63両年度の調査によって、縄文早期・前期の遺構・遺物が検出されており、また対岸には縄文中・後期の戸入村平遺跡があるので、縄文早～後期の遺物は、小の原・戸入村平両遺跡に居住した人々がたまたまはいづめを訪れた際に遺棄したものであろう。はいづめの土地は、主として縄文時代晩期～弥生時代前期の人々によって、居住地及び墓地として利用された遺跡であった。

遺跡地の土層は、黄色砂礫層を地山として、その上に、下から（Ⅲ）黒色土層、（Ⅱ）褐色土層、（Ⅰ）表土（耕作土層）の順に堆積している。Ⅱ層とⅢ層が遺物包含層であるが、この両層は、晩期の人々が居住する以前にも居住期間中にも、西谷川の氾濫によって削りとられたり、山側からの押し出しによって動かされたりして、一次的な良好な遺物包含層はほとんど観察されなかった。比較的に保存状態の良い土器棺墓群も、地山への掘りこみ部分は確認できたものの、後世の耕作によって上部を削りとられたものが多かった。

はいづめ遺跡の中心となる時期は、縄文晩期のうちでも後半期で、汎西日本的な凸帯文土器が指標となる時期であり、口縁部に凸帯をもつ深鉢と甕が最も特徴的なものである。つまり、東海地方でこれまで知られている西之山式、五貫森式、下り松式に並行するものが主体となっているが、層位的にその変遷過程を把握することはできなかった。いまここでは、凸帯文土器についてのみ、調整手法、形態的特徴の変遷を三段階に分けて概括してみよう。

第1段階は、口縁部に刻み目をつけた凸帯を1本めぐらし、また口縁端面にも刻み目をつけた一群である。刻み目はヘラによるものが一般で、押し引き状に施したものが多い。肩の部分に段をつける形態が基本で、口頸部には条痕かナデによる調整が施され、胴部にはケズリ痕がのこる。西之山式の範疇に入る一群であろう。少数例では肩の部分にも凸帯がつけられており、関西地方の影響を物語っている。

第2段階になると、肩部の段がしだいに不明瞭になる。凸帯上にはアナダラ属の貝殻による押し引き文あるいは扇状圧痕がみられる。前段階につづき、口頸部に条痕、胴部に削り痕を残している。五貫森式に相当する一群である。一般にこの段階はさらに二つに細分され、肩部の段が認められる前段と、肩部の段が失なわれて稜状になるか、あるいは沈線で口頸部と胴部との境界を表現する後段に分けられるが、当遺跡ではこの両者を区分することはできない。

第3段階には肩部の段や稜はなくなり、口頸部から胴部へはなだらかに移行するが、口頸部

に条痕調整を施し、胴部をケズリによって仕上げる手法は引きつがれている。凸帯上にはアナダラ属の貝殻の大きな圧痕を加えたものが目立ち、また凸帯の位置が口縁端に近くなるのも特徴の一つである。下り松式の範疇に入る一群であろう。

弥生時代前期の遠賀川系土器が、まとまって一定量出土し、またそれらが土器棺として利用されているのも、注目してよい事実の一つであろう。壷形土器の文様は、隆線のみのものと隆線にヘラ描き沈線を併用したものが認められる。削り出し凸帯もわずわにみられるが、西志賀段階に属するものが主のようである。甕形土器は胴部が張り、口縁部は弓なりに外反し、頸部に半截竹管による平行線を施したものが主で、壷の主体となる類に並行する型式が中心である。

はいづめ遺跡の性格を代表するものの一つは土器棺墓であろう。土器棺は合計16基が検出されたが、そのうち8基は合せ口、5基は深鉢あるいは甕の単独棺で、その他の3基は、2個体か3個体分の壷、甕あるいは深鉢の破片を組合わせて棺としたものである。人骨はほとんど残存していないが、成人の遺体を埋納したと思われるほどに大きな土器は認められない。なお、これらの中には、棺の上に扁平な川原石を置いたものが3基認められた。16基中遠賀川系甕の合せ口棺1基を除けば、他はすべて五貫森期から下り松期に位置づけられ、晩期後半の中でも新しい段階のものが多数を占めている。

住居跡は3基分が検出されているが、ほぼ全形を知ることのできるのは1基のみで、他の2例は半壊の川原石積みの炉跡によって、わずかに住居跡の存在を知ることができる状態であった。しかも3例とも、その所属時期は確認されていない。従って、土器棺墓と住居跡との前後関係については結論を急ぐことはできない。

土器棺墓は遺跡南東隅に3基が集中して発見された他は、発掘区域内に点在して検出されており、強いて言えば遺跡の南側あたりに中心があったと言えなくもないが、一部分に集中していたという傾向は認められない。集落が存続していた間に、小児か幼児の遺骸を納めた土器棺あるいは改葬棺を、住居の付近に埋納したものであろうか、あるいは住居として利用されていた地区が廃棄された後に、墓地として利用されるようになったものであろうか。

石器類の出土総数は約5,000点に達し、石鏃、石槍、異形部分磨製石鏃、くさび形石器、石匙、削器、掻器、薄片石器、磨石、凹石、敲石、石錘、打製石斧、磨製石斧、石刀、石棒など多彩であるが、その多くは晩期後半のものと考えられる。中でも磨石、凹石、敲石及びそれらの複合形態と打製石斧が圧倒的に多く、内訳は磨石110点、凹石91点、敲石70点、凹石・磨石の複合形態138点、凹石、敲石の複合形態83点、敲石・磨石の複合形態57点、凹石・敲石・磨石の複合形態114点である。これに比べると打製石斧はやや少ないきらいはあるが、完形品、欠損品を合わせて64点で、その合計点数はしめて720点余りとなり、これらの石器が日常生活に重要な役割を果していたことは疑いない。堅果類や根栽類を採集し、加工・調理した食料が、縄文時代晩期の食生活の中心だったのであろうか。

第 3 表　　出土土器－調整手法

No	文様構成・その他	器面調整　外面/内面	備　考
25		ミガキ？・ナデ？/ミガキ？・ナデ	
27		貝殻条痕/ナデ	
28		貝殻条痕・ナデ/ミガキ	
29		貝殻条痕・ナデ/ナデ	１３Ｃ区土器溜まり 炭化物付着
30		ミガキ？/ナデ	
31	凸帯上、ヘラ？の押し引き	ナデ・ケズリ/横位のミガキ	炭化物付着
32		ナデ/ナデ	
33		ナデ・条痕（羊歯状管？）/ナデ（指頭圧痕）	炭化物付着
34		貝殻条痕のちナデ/横位（口縁部）・斜位（胴部）のミガキ	炭化物付着
35		ナデ・貝殻条痕/ミガキ	炭化物付着
36		条痕（櫛状工具）/ナデ	炭化物付着
37		貝殻条痕/ナデ	
38		ナデ・横位のケズリ・ケズリのち荒いミガキ（胴部下半）/ナデ・ケズリのちナデ	第９号土器棺 炭化物付着
39		ナデ（口縁部）・ケズリ/ケズリ	炭化物付着
40		ナデ・ケズリ/ミガキ	
41	穿孔－焼成後両面より穿孔	貝殻条痕のちナデ/ナデ	炭化物付着 第８号土器棺
59	口縁端部・凸帯上、ヘラの押し引き	ナデ・ケズリ/ミガキ	
60		ナデ（口縁部）・条痕（櫛状工具－胴部）/ナデ	第１３号土器棺
61	凸帯上、ヘラの押し引き	ナデ（口縁部）・条痕（ヘラ状工具－胴部）/ナデ	第１６号土器棺 炭化物付着
62		ナデ/	
63		ミガキ？/ミガキ？	
64		荒いミガキ/ナデ（指頭圧痕）	
65		荒いミガキ/荒いミガキ	
66		ナデ/ナデ・ミガキ	炭化物付着
67	凹凸が激しい	ナデ/ナデ	
68		ナデ/ナデ	
69	口縁端部、ヘラの押し引き	ナデ（口縁部）・条痕（ヘラ状工具－胴部上半）・荒いミガキ？（胴部下半）/ミガキ	第１６号土器棺 炭化物付着
70	口縁端部、貝殻の押し引き	貝殻条痕のちナデ・ケズリ/ナデ	
71	口縁端部、貝殻の押し引き	貝殻条痕/ナデ	
72	口縁端部、貝殻の押し引き	貝殻条痕・ケズリ/ナデ	
73		貝殻条痕のちナデ（口縁部）・ミガキ（胴部）/ナデ（指頭圧痕）	第１０号土器棺 炭化物付着
74		ナデ（口縁部）・荒いミガキ？/強いナデ（指頭圧痕）	第１４号土器棺 炭化物付着
75	口縁内面に抉単・端部に貝殻の押し引き	貝殻条痕（口縁部）・ケズリ（胴部）/ナデ	第１２号土器棺 炭化物付着
76	口縁端部、ヘラの押し引き	ナデ/ナデ	
77	口縁端部、ヘラの押し引き	ナデ・ケズリ/ナデ	炭化物付着
78	口縁端部、ヘラの押し引き	ナデ（口縁部）・荒いミガキ？（胴部）/ナデ（口縁部～指頭圧痕）・ミガキ（胴部）	第１６号土器棺 炭化物付着

No	文様構成・その他	器面調整　外面/内面	備　考
79		ナデ・ケズリ・条痕（ヘラ状工具）/ナデ	１３Ｃ区土器溜まり
80	口縁端部、ヘラの押し引き	貝殻条痕のちナデ（口縁部）・ケズリ（胴部）/ナデ	１２Ａ区土器点土 炭化物付着
81	口縁端部、ヘラの押し引き	ナデ・荒いミガキ？/ナデ	１５Ｄ区土器溜まり 炭化物付着
82		貝殻条痕のちナデ（口縁部）・条痕（ヘラ状工具）/ナデ	第１０号土器棺 炭化物付着
83	焼成後穿孔（直径）、凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕（口縁部）・ケズリ（胴部）/ナデ	第４号土器棺 炭化物付着
84	焼成後穿孔（口縁部）、口縁端部、貝殻の押し引き	貝殻条痕のちナデ・ケズリ/ナデ	第７号土器棺 炭化物付着
85	凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ/ナデ	
86	凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕のちナデ/ナデ・ミガキ（指頭圧痕）	
87	凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕のちナデ（口縁部）・ケズリ（胴部）/ナデ・ケズリ	５１７区土器溜まり 炭化物付着
88	凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕のちナデ（口縁部）・ケズリ（胴部）/ナデ（指頭圧痕）	第４号土器棺
89	凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕のちナデ（口縁部）/条痕（？）のちナデ	５１２区土器溜まり 炭化物付着
90	口縁部の折り返し、凸帯三条（口縁部）、凸帯上（肩部）、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕（口縁部）・ケズリ/ナデ	
91	凸帯（口縁部）	ナデ・貝殻条痕/ナデ	
92	口縁端部の折り返し、凸帯（口縁部）	ナデ・貝殻条痕/ナデ	
93	凸帯（口縁部）、凸帯上（肩部）、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕のちナデ（口縁部）・ケズリ（胴部）/ナデ・貝殻条痕のちナデ（底部）	５１２区土器溜まり 炭化物付着
94		貝殻条痕（口縁部）・ケズリのち荒いミガキ（胴部）/ナデ	第３号土器棺 炭化物付着
95	口縁端部の折り返し、凸帯（口縁部）、凸帯上（肩部）、貝殻の押し引き	ナデ・貝殻条痕（口縁部）/ナデ	第５号土器棺 炭化物付着
96	凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ/ナデ	
97	凸帯上、貝殻の押し引き	ナデ/ナデ（指頭圧痕）	
98	口縁端部の折り返し、凸帯二条（口縁部）	ナデ/ナデ	
99	凸帯上、ヘラの押し引き	ナデ（口縁部）・荒いミガキ（胴部）/ナデ	第１１号土器棺 炭化物付着
100	凸帯上、ヘラの押し引き	ナデ・ヘラ状工具によるナデ？（胴部）/ナデ・ヘラ状工具によるナデ	第１５号土器棺 炭化物付着
101	凸帯上、指の押圧	条痕（櫛状工具）のちナデ（口縁部）・条痕（櫛状工具－斜位）・ケズリ（胴部）/条痕（櫛状工具）・ケズリのちナデ（口縁部）・ナデ	第１５号土器棺 炭化物付着
102	凸帯（肩部）	貝殻条痕（口縁部）・ケズリのち荒いミガキ（胴部）/ナデ	第１号土器棺 炭化物付着
103		貝殻条痕（口縁部）・ケズリ（胴部）/	炭化物付着
104	凸帯上、指の押圧	ナデ・貝殻条痕/ミガキ	
105	凸帯上、指の押圧	ナデ/ナデ	
106	凸帯上、ヘラの押し引き	ナデ・貝殻条痕/ナデ	
107	凸帯二条（口縁部）	ナデ/ナデ（指頭圧痕）	
108		ナデ（口縁部）・荒いミガキ（胴部）/ナデ	第１２号土器棺 炭化物付着
109		荒いミガキ（頸部）・ケズリ（胴部）/ナデ（指頭圧痕）	炭化物付着

No	文様構成・その他	器面調整　外面／内面	備　考
110		条痕（棒束状工具・ヘラ状工具）／	第9号土器棺 炭化物付着
111	口縁内面沈線、凸帯（口縁部）	ミガキ（口縁部）・貝殻条痕（胴部）／ミガキ	
112		荒いミガキ／ミガキ	
113	口縁内面沈線、凸帯（口縁部）	ミガキ（口縁部）・ケズリ（胴部）／ミガキ（口縁部）・ナデ（胴部）	炭化物付着
114		ミガキ／ミガキ	
139		ミガキ／ナデ（指頭圧痕）	
140	口縁内面沈線	ミガキ／ミガキ	
141		ミガキ／ミガキ	
142		ミガキ／ミガキ	
143	沈線二条	ミガキ／ミガキ	
226	沈線二条（口縁内面）・波状口縁	ミガキ／ミガキ	
227	沈線・ヘラの押し引き・縄文（胴部上半）	貝殻条痕（胴部下半）／ナデ	炭化物付着
228	沈線・ヘラの押し引き・縄文（赤彩）、口縁地部に沈線	ミガキ／ミガキ	
229	縄文・沈線（赤彩）	ミガキ／ミガキ	
230	沈線五条、沈線間にヘラの刺突	ミガキ／ミガキ	炭化物付着
231	浮線網状文	ミガキ／ミガキ	
232	口縁部に小突起（二個一組）	ミガキ／ミガキ	
233	沈線二条、波状口縁、口縁地部に小突起（二個一組）	ミガキ／ミガキ	
234	層状突起上、面の押圧	ミガキ？／ミガキ？	
235	口縁地部に小突起・沈線、小突起上、ヘラの押圧、縄文、凸帯、焼成後両面部粘穿孔	／ミガキ	
236	縄文、沈線二条	ミガキ／ミガキ	
237	山形の口縁・地部に沈線・内面に三角形の抉り、口縁下の凸帯上にヘラの刺み、車輪浮文帯、浮線文	ミガキ／ミガキ	炭化物付着
238	口縁部に小突起、小突起上にヘラの押圧、口縁地部にヘラの押し引き、沈線、縄文	／ナデ？	
239	縄文、沈線内にヘラの押し引き	ミガキ／ミガキ	
240	縄文、ヘラの押し引き、沈線一条	ミガキ／ミガキ	
241	口縁部の山形の突起上に三角形の抉り、沈線一条、凸帯	ミガキ／ミガキ	
242	口縁部に小突起・内外面に沈線各一条、焼成後両面部粘穿孔	ミガキ／ミガキ	炭化物付着
269		ハケ目・ミガキ？（底部）／ナデ	
270		ハケ目・ナデ（底部）／	
271		ミガキ／	
272		ミガキ（胴部）・ナデ（底部）／ミガキ	
273		条痕（半截竹管）／	水神平式
274	口縁地部に半截竹管による刺み、半截竹管による沈線（二組）	ナデ（口縁部）・ハケ目（胴部）／ミガキ（口縁部・胴部上半）・ナデ（胴部下半）	第2号土器棺
275		ハケ目／	
276		ハケ目・ナデ（底部）／	

No	文様構成・その他	器面調整　外面／内面	備　考
277	沈線二条	ハケ目のちミガキ／ハケ目のちミガキ	
278	沈線	ハケ目のちミガキ／	
279		ミガキ／	
280		ナデ（口縁部）・条痕（胴部－擦状工具）／ナデ	炭化物付着
281	口縁地部に半截竹管による刺み、半截竹管による沈線（二組）	ナデ（口縁部）・ハケ目（胴部）／ミガキ（口縁部）・ナデ（胴部）	第2号土器棺 炭化物付着

石器一覧表

1．石鏃

No	出土区－番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	2D -11	?	15.8	15.1	3.2	0.7	チャート	凹基無茎
2	2D -13	?	26.5	19.2	5.4	2.8	チャート	三角
3	9G -32	Ⅲ	20.2	16.4	3.0	0.8	チャート	凹基無茎
4	10D -06	Ⅲ	27.7	13.9	3.9	1.4	砂岩	凹基無茎
5	11B -05	基部	34.0	22.4	8.6	6.3	チャート	三角 (神図58-12)
6	11D -01	Ⅱ	19.5	12.0	3.1	0.7	チャート	欠損
7	11H -06	Ⅱ	28.8	15.3	4.9	2.3	石英	凹基無茎
8	11Z -03	Ⅱ	14.0	15.8	3.0	0.9	チャート	欠損
9	11Z -08	Ⅱ	24.2	13.9	2.7	0.9	砂岩	凹基無茎 (神図58-9)
10	13B -05	?	15.3	8.0	4.5	0.9	砂岩	凸基有茎 (神図58-5)
11	13G -05	Ⅰ	25.4	23.2	6.5	4.6	チャート	未製品
12	13W -01	Ⅰ	30.3	18.0	10.8	4.2	チャート	未製品
13	13A1-14	基部	30.2	12.2	6.4	2.2	チャート	未製品
14	16G -06	Ⅲ	14.0	18.2	5.0	1.8	砂岩	欠損
15	16G -18	Ⅱ	26.9	13.0	3.2	1.4	砂岩	凹基無茎
16	16O -26	Ⅲ	27.4	16.4	6.2	2.6	砂岩	三角
17	16S -31	Ⅱ	23.5	9.3	5.0	0.9	砂岩	尖基 (神図58-6)
18	P377-02		28.2	18.8	5.1	1.8	砂岩	凹基無茎
19	2D攪1-01		24.0	15.1	3.3	0.5	砂岩	凹基無茎
20	5D -0044	Ⅱ	17.6	13.5	3.4	0.8	チャート	凹基無茎 (神図58-1)
21	8C -0066	Ⅱ	22.5	14.5	3.7	0.7	チャート	凹基無茎、片脚欠損(神図58-7)
22	6A -0017	Ⅱ	19.9	14.0	3.1	0.7	輝緑凝灰岩	凹基無茎 (神図58-3)
23	2B -4432	Ⅱ	23.3	18.0	6.8	3.1	チャート	三角 (神図58-11)
24	5A1-5016	Ⅱ	17.0	12.2	3.0	0.5	黒曜石	無茎 (神図58-2)
25	耕土 -5017		18.2	13.1	3.3	0.6	チャート	無茎 (神図58-4)
26	6A2-4944	Ⅱ	20.0	15.8	2.8	1.1	黒雲母安山岩	凹基無茎、欠損(剥離)
27	6C -6015	Ⅱ	24.8	14.7	4.2	1.2	チャート	凸基無茎、脚部欠損(神図58-8)
28	6A2-5036	Ⅱ	20.6	17.0	4.9	1.4	チャート	未製品

2．異形部分磨製石器

No	出土区－番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	6D -5019	コ	61.4	34.3	16.7	33.1	チャート	(神図58-13)

3．くさび形石器

No	出土区－番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	9C -08	Ⅲ	49.4	31.5	14.8	28.3	砂岩	
2	9C -10	Ⅲ	60.0	27.2	11.5	21.4	砂岩	
3	15A2-15	Ⅱ	55.1	37.4	11.5	33.6	砂岩	(神図58-15)
4	2D住 -02		2.5	17.4	7.2	3.5	チャート	

4．石錐

No	出土区－番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	表 採		25.7	18.4	7.2	3.4	チャート	頭部欠損 (神図58-10)

5．石錘

No	出土区－番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	13 -15	Ⅰ	39.0	33.5	15.0	26.1	砂岩	打製→切目
2	9C -21	Ⅱ	11.3	35.6	22.8	151.0	砂岩	打製 (神図61-34)
3	10A1-03	Ⅱ	65.2	31.6	10.8	28.4	泥岩	打製
4	11B -10	Ⅱ	64.8	24.6	16.2	43.8	砂岩	切目
5	13X -01	Ⅰ	67.1	36.0	19.7	67.7	砂岩	切目 (神図30-23)
6	15D -03	Ⅱ	96.9	31.1	9.3	45.1	粘板岩	打製
7	15Z -12	基部	46.0	17.4	11.4	13.3	砂岩	打製→切目
8	50B -05	Ⅱ	47.1	30.1	10.5	17.2	砂岩	打製
9	50B -10	Ⅰ	76.7	36.3	9.5	36.4	泥岩	打製
10	50B -13	Ⅰ	81.5	38.7	11.3	41.4	細粒砂岩	打製
11	P289-01		86.2	43.2	11.7	75.1	細粒砂岩	打製
12	1B -4536	Ⅱ	55.9	31.1	11.2	24.2	凝灰質砂岩	打製
13	8E -4896	Ⅱ	34.8	30.6	13.8	15.8	細粒砂岩	打製→切目
14	1B -5070	Ⅱ	74.6	31.1	5.3	28.1	凝灰質砂岩	打製

6．石冠

No	出土区－番号	計測	高さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	10S -04	Ⅱ	76.2	120.0	51.4	726.0	砂岩	打製 (神図62-37)
2	10G -24	Ⅱ	75.9	77.2	30.5	340.6	砂岩	磨製 (神図62-36)
3	11H -45	Ⅲ	72.0	88.4	49.5	355.4	砂岩	打製
4	P485-01		70.9	122.0	36.1	422.9	砂岩	磨製 (神図62-38)

7．石刀

No	出土区－番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	8G -02	Ⅲ	48.3	19.1	10.7	16.1	粘板岩	石刀?
2	10C -06	Ⅱ	108.0	27.6	15.2	77.4	粘板岩	
3	10C -27	Ⅱ	142.2	50.1	26.0	225.3	粘板岩	(神図61-38)
4	10H -21	Ⅲ	86.3	22.2	16.2	84.7	粘板岩	(神図61-37)
5	14F -11	Ⅱ	59.5	28.9	10.6	34.0	粘板岩	
6	14F -23	Ⅱ	56.3	24.0	8.4	20.3	粘板岩	石刀?
7	8D -0012	Ⅱ	154.9	22.9	14.0	105.6	千枚岩	

8．石棒

No	出土区－番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	8G -38	Ⅱ	74.3	37.9	34.9	134.6	玄武岩	
2	9A -06	Ⅱ	125.0	26.6	20.2	118.1	粘板岩	
3	9Z -01	Pit-03	84.9	35.6	24.1	138.9	砂岩	(神図61-35)
4	10Z -12	Ⅱ	47.2	55.9	49.2	200.8	砂岩	
5	10H -29	Ⅱ	61.4	25.6	20.9	67.9	粘板岩	
6	11G -11	Ⅱ	88.6	47.3	34.4	169.0	玄武岩	
7	15A2-02	Ⅰ	79.4	30.6	17.6	62.6	砂岩	(神図61-31)
8	15D -07	Ⅱ	101.0	41.0	28.9	174.8	玄武岩	

9．石匙

No	出土区－番号	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	2D -05	?	35.1	51.4	7.6	11.7	チャート	
2	8Z -23	撹乱	46.3	28.1	4.7	6.2	細粒砂岩	
3	10Z -05	Ⅲ	74.4	34.1	10.6	29.8	チャート	未製品
4	11H -36	Ⅲ	57.3	23.7	11.0	17.1	チャート	未製品
5	11Z -07	Ⅱ	22.0	27.0	4.0	2.4	砂岩	
6	12G -19	Ⅱ	50.9	14.2	5.7	4.5	砂岩	(挿図59-14)
7	12X -01	Ⅰ	42.8	23.2	8.4	9.3	チャート	
8	14A2-10	Ⅱ	55.8	36.0	6.5	13.5	チャート	未製品

10．スクレーパー類

No	出土区－番号	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	1A -03	Ⅱ	38.5	28.4	8.9	18.0	チャート	
2	1B -17	Ⅱ	31.6	31.9	8.8	8.4	チャート	
3	8A2-09	撹乱	83.8	46.2	12.5	48.4	細粒砂岩	side, notched
4	8A2-40	Ⅱ	43.4	19.1	10.0	10.6	チャート	
5	9A1-03	Ⅰ	65.2	34.6	13.5	35.1	チャート	side?
6	9G -24	Ⅲ	35.3	28.5	9.6	12.3	チャート	end (round?) (挿図59-21)
7	11H -40	Ⅱ	54.0	32.4	11.2	15.3	チャート	side? (挿図59-22)
8	50A1-01	Ⅰ	37.3	27.4	4.6	7.1	細粒砂岩	side
9	8F -2372	Ⅰ	32.7	38.1	12.3	16.3	チャート	round

11．打製石斧

No	出土区－番号	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	7G -24	Ⅱ	59.0	62.3	25.9	132	砂岩	欠損
2	7G -26	Ⅱ	126.0	81.0	24.0	338	砂岩	欠損
3	7G -27	Ⅱ	100.0	66.9	15.1	116	砂岩	完形
4	7G -28	Ⅰ	85.0	57.8	23.6	162	砂岩	欠損
5	7Z -05	?	89.6	86.5	19.3	182	砂岩	欠損
6	7Z -09	Ⅱ	78.2	59.8	20.8	120	泥岩	欠損
7	7Z -10	Ⅱ	68.3	51.0	23.0	120	泥岩	欠損
8	7Z -12	Ⅲ	66.0	62.2	30.0	252	砂岩	完形
9	7A1-03	Ⅱ	79.6	62.2	10.0	72	砂岩	欠損
10	7A2-03	Ⅲ	197.0	77.1	24.3	412	砂岩	完形
11	7A2-05	Ⅱ	216.0	99.3	34.6	910	砂岩	完形 (挿図60-29)
12	8G -34	Ⅱ	86.1	86.2	27.4	272	砂岩	欠損
13	8G -35	Ⅱ	100.0	47.3	20.2	132	砂岩	完形
14	8G -36	Ⅱ	108.5	57.5	14.1	110	砂岩	完形
15	8G -37	Ⅱ	107.0	86.0	18.0	244	砂岩	欠損
16	8Z -07	?	89.8	102.0	29.0	296	砂岩	欠損
17	8A1-02	Ⅱ	123.0	68.3	19.0	154	細粒砂岩	完形
18	9C -05	Ⅰ	178.3	87.4	28.0	374	砂岩	完形
19	9C -01	Ⅱ	97.2	56.9	22.6	118	細粒砂岩	完形
20	9G -13	Ⅲ	52.7	41.6	15.0	48	細粒砂岩	欠損
21	9G -24	Ⅰ	108.8	67.9	29.9	264	砂岩	欠損
22	9H -08	Ⅱ	78.7	56.9	18.0	138	砂岩	欠損
23	9Z -05	Ⅲ	139.0	77.0	22.2	272	砂岩	完形
24	10A -01	Ⅱ	76.5	62.2	24.9	188	砂岩	欠損
25	10A -10	Ⅱ	93.2	68.9	13.5	116	砂岩	欠損
26	10C -02	Ⅱ	106.0	55.4	21.0	170	砂岩	完形 (挿図60-24)
27	10G -28	Ⅲ	146.0	71.7	20.1	216	砂岩	完形
28	10H -40	Ⅱ	116.3	69.8	22.0	188	砂岩	完形
29	10A2-04	Ⅱ	115.0	71.0	19.5	188	砂岩	欠損
30	10A2-05	Ⅱ	110.6	71.9	24.4	242	砂岩	欠損
31	10Z -06	Ⅱ	123.3	81.8	24.0	306	砂岩	欠損
32	11A -02	Ⅱ	83.1	90.4	32.2	276	砂岩	欠損
33	11E -13	Ⅱ	155.0	82.4	37.9	526	砂岩	完形
34	11G -01	Ⅲ	88.4	71.4	34.0	202	砂岩	欠損
35	11G -20	Ⅲ	103.0	64.3	24.5	214	砂岩	欠損
36	11G -21	Ⅲ	106.0	39.0	15.5	122	泥岩	完形
37	11H -19	Ⅱ	122.0	112.0	31.0	552	砂岩	欠損
38	11H -54	Ⅰ	145.5	56.4	18.8	216	細粒砂岩	完形
39	11Z -15	Ⅱ	124.3	80.9	34.4	536	砂岩	欠損
40	11Z -18	Ⅲ	123.0	62.5	22.0	248	砂岩	完形
41	12G -06	Ⅱ	147.4	125.0	44.6	1110	砂岩	完形
42	12G -14	Ⅱ	159.4	77.0	29.1	494	砂岩	完形
43	12G -15	Ⅱ	111.2	71.2	25.2	222	砂岩	完形
44	12G -16	Ⅲ	80.0	65.1	20.0	146	砂岩	欠損
45	12H -11	Ⅱ	146.8	97.2	35.6	734	砂岩	欠損
46	12H -14	Ⅲ	143.0	83.2	49.0	712	砂岩	欠損
47	12H -28	Ⅲ	190.5	100.0	67.1	2130	砂岩	完形
48	12A2-02	Ⅱ	176.1	145.0	40.4	978	砂岩	完形
49	13A -01	Ⅱ	81.8	96.0	32.3	344	砂岩	欠損
50	13D -02	?	71.7	51.0	21.0	112	砂岩	欠損
51	13H -06	Ⅱ	126.7	71.2	36.0	474	砂岩	欠損
52	14A1-15	Ⅱ	108.0	59.8	23.3	202	砂岩	完形
53	15A2-06	Ⅱ	96.4	56.0	11.5	66	砂岩	完形
54	16H -07	Ⅱ	157.2	91.6	37.8	650	砂岩	欠損
55	P054-01		76.5	51.7	18.1	88	砂岩	欠損
56	P207-01		125.0	32.6	14.5	80	砂岩	欠損
57	P382-03		98.3	61.4	40.2	306	砂岩	欠損
58	7C -0018	Ⅱ	157.2	68.8	24.8	359	砂岩	欠損 (挿図60-23)
59	8A -5021	Ⅰ	120.0	59.5	17.4	142	砂岩	完形
60	表採 -5067		110.9	67.2	29.1	202	砂岩	完形 (挿図60-26)
61	8F -5070	Ⅲ	109.8	83.9	21.9	204	細粒砂岩	欠損 (挿図60-25)
62	8F -5071	Ⅱ	81.3	81.5	21.2	170	砂岩	欠損
63	8F -5072	Ⅱ	100.6	81.9	32.4	340	砂岩	欠損

12．磨製石斧

No	出土区－番号	出典	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
1	1C -07	Ⅲ	93.9	28.0	28.0	174.4	閃岩	完形
2	2B -01	Ⅲ	83.6	19.5	19.5	101.6	閃岩	完形
3	8G -23	Ⅱ	82.9	38.5	38.5	281.8	閃岩	欠損
4	8G -33	Ⅱ	97.9	33.1	33.1	244.6	粘岩	欠損
5	8Z -02	?	94.9	38.8	38.8	139.8	粘岩	欠損
6	9C -03	Ⅲ	163.0	19.4	19.4	184.8	砂岩	欠損
7	9F -26	Ⅱ	87.7	33.2	33.2	219.9	閃岩	欠損
8	10C -05	Ⅱ	98.0	26.4	26.4	166.6	粘岩	完形
9	10G -28	Ⅱ	87.0	12.7	12.7	44.6	緑色岩	欠損
10	11E -01	Ⅱ	96.9	25.9	25.9	138.2	粘岩	完形
11	12A -01	Ⅰ	124.0	33.6	33.6	350.8	砂岩	完形
12	13B -03	Ⅱ	104.0	28.1	28.1	193.3	粘岩	完形 (神園99-27)
13	13B -05	?	134.0	33.7	33.7	316.8	粘岩	完形
14	13G -27	Ⅱ	91.7	35.6	35.6	230.4	閃岩	欠損
15	13G -33	Ⅱ	61.2	17.4	17.4	38.0	粘岩	欠損
16	13A2-09	Ⅱ	173.0	40.8	40.6	683.3	粘岩	欠損
17	14A2-13	Ⅱ	81.4	30.1	30.1	183.3	粘岩	完形
18	15D -01	Ⅱ	130.7	35.4	35.4	400.9	粘岩	完形
19	16D -02	Ⅱ	109.1	29.9	29.9	201.8	粘岩	欠損
20	15F -01	Ⅰ	206.5	29.5	29.5	203.8	粘岩	欠損
21	15G -05	Ⅱ	71.8	15.4	15.4	62.2	緑泥岩	完形
22	15Z -11	Ⅲ	118.0	33.9	33.9	228.2	粘岩	完形
23	P341-01		99.8	16.9	16.9	140.2	砂岩	完形
24	P368-01		94.7	22.4	22.4	116.1	砂岩	完形

13．剥片石器

No	出土区－番号	出典	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考
1	1D -02	?	60.5	51.1	4.0	25.3	緑泥岩	
2	9Y -02	Ⅱ	50.0	40.3	8.9	30.2	砂岩	
3	9A2-10	Ⅳ	57.9	34.0	5.6	16.5	砂岩	
4	10G -08	Ⅱ	74.8	52.6	6.9	42.6	砂岩	
5	10H -20	Ⅲ	103.0	40.3	12.6	41.3	砂岩	
6	10H -31	Ⅲ	65.7	39.6	8.3	26.9	砂岩	
7	10Y -06	Ⅱ	94.7	66.4	10.2	87.0	砂岩	
8	11E -05	Ⅱ	94.9	55.2	16.3	111.1	緑泥岩	
9	12Z -18	Ⅱ	60.1	33.9	9.1	28.3	砂岩	
10	13F -04	Ⅱ	110.0	44.2	13.4	99.0	砂岩	
11	13Z -01	Ⅱ	92.3	48.4	9.4	46.8	緑泥岩	
12	13A2-01	Ⅱ	50.0	22.5	7.4	9.7	砂岩	
13	13A2-04	Ⅱ	79.4	53.1	8.8	38.8	砂岩	
14	14A -08	Ⅰ	60.4	53.5	10.0	33.6	砂岩	
15	15Z -01	?	48.6	47.9	5.5	19.2	砂岩	
16	5DB -09	Ⅰ	110.0	36.0	9.4	44.5	緑泥岩	
17	5DB -11	Ⅰ	133.0	46.8	8.3	68.8	砂岩	
18	51H -07	?	125.0	45.7	11.0	95.5	砂岩	
19	51A1-07	Ⅱ	80.8	41.2	13.9	58.1	緑泥岩	
20	P010-01		106.9	44.0	12.7	63.1	緑泥岩	
21	7G -04	Ⅱ	110.0	94.0	22.0	292	砂岩	
22	7G -06	Ⅱ	60.5	38.8	8.5	18	砂岩	
23	7G -08	Ⅱ	87.8	82.5	14.9	74	砂岩	
24	7G -18	Ⅰ	78.0	70.0	17.1	128	砂岩	
25	7Z -07	Ⅱ	59.4	34.4	6.8	14	砂岩	
26	7Z -08	Ⅱ	59.4	77.4	21.0	112	砂岩	欠損
27	8G -06	Ⅱ	72.0	59.0	10.2	48	砂岩	
28	8G -08	Ⅱ	78.0	77.4	15.0	90	砂岩	
29	8G -12	Ⅰ	108.0	54.5	10.8	68	砂岩	
30	8G -20	Ⅲ	115.0	86.1	25.0	225	砂岩	
31	8G -29	Ⅱ	83.0	59.5	10.1	70	砂岩	
32	8G -30	Ⅱ	87.5	44.3	8.8	48	砂岩	
33	8G -39	Ⅱ	111.0	76.3	23.5	178	砂岩	
34	8G -40	Ⅱ	80.0	55.5	19.4	88	砂岩	
35	8Y -07	Ⅱ	35.3	23.4	4.2	6	砂岩	
36	8Z -05	Ⅱ	88.4	52.3	12.4	60	砂岩	
37	8Z -06	Ⅱ	95.0	72.0	18.0	108	砂岩	
38	8Z -26	Ⅱ	59.2	62.0	18.5	76	砂岩	
39	8A2-05	Ⅲ	52.8	47.5	8.9	26	砂岩	
40	9G -05	Ⅱ	128.0	127.0	25.1	364	砂岩	
41	9G -10	Ⅱ	80.3	48.1	12.3	48	砂岩	
42	8G -37	Ⅱ	88.5	42.5	9.0	26	砂岩	
43	9H -05	Ⅰ	102.4	123.0	31.2	524	砂岩	
44	9H -14	Ⅱ	100.0	92.3	21.0	260	砂岩	
45	9Y -05	Ⅱ	88.6	56.1	10.4	56	砂岩	
46	9Z -04	Ⅱ	95.6	68.6	9.9	66	砂岩	
47	10G -36	Ⅱ	45.5	34.2	5.3	12	砂岩	
48	10H -41	Ⅱ	74.9	34.8	8.0	26	砂岩	
49	10H -54	Ⅲ	56.8	58.2	9.0	34	砂岩	欠損
50	10A2-12	Ⅲ	110.0	55.6	18.4	142	砂岩	
51	11E -14	Ⅱ	105.8	123.0	30.0	380	砂岩	
52	11F -03	Ⅲ	106.4	78.9	18.8	212	砂岩	
53	11F -18	Ⅱ	129.0	119.0	25.1	492	砂岩	
54	11G -06	Ⅱ	87.3	77.5	22.2	244	砂岩	
55	11G -30	Ⅱ	57.4	37.5	14.6	28	砂岩	
56	11H -05	Ⅱ	148.0	67.2	16.0	174	砂岩	
57	11H -20	Ⅱ	91.8	67.0	14.5	130	砂岩	
58	11H -22	Ⅱ	100.0	62.5	9.3	88	砂岩	

59	11H -81	Ⅲ	73.5	51.5	11.5	46	砂岩	
60	11Z -04	Ⅱ	85.6	90.4	10.0	82	砂岩	
61	11Z -17	Ⅲ	123.0	92.0	18.4	200	砂岩	
62	11Z -20	Ⅲ	66.9	47.0	9.6	40	砂岩	
63	11A2-14	Ⅱ	80.4	44.8	14.2	60	砂岩	
64	12C -03	Ⅱ	82.5	68.0	20.4	50	砂岩	
65	12E -06	Ⅱ	82.2	50.3	9.4	50	砂岩	
66	12E -20	Ⅲ	71.9	74.1	16.5	110	砂岩	
67	12E -21	Ⅲ	74.5	50.5	15.3	58	砂岩	
68	12F -06	Ⅲ	60.0	57.5	15.2	58	砂岩	
69	12H -33	Ⅲ	70.0	61.7	9.8	40	砂岩	
70	12H -35	Ⅱ	77.0	82.6	14.4	62	砂岩	
71	12Z -07	Ⅱ	53.0	26.5	6.7	10	砂岩	
72	12Z -12	Ⅲ	107.0	78.0	32.1	144	砂岩	
73	12Z -15	攪乱	89.8	69.9	16.6	152	砂岩	
74	12Z -16	攪乱	72.6	45.0	10.0	34	砂岩	
75	12A2-03	Ⅲ	100.0	86.2	15.1	168	砂岩	
76	14A -10	Ⅰ	69.5	54.6	9.1	30	砂岩	欠損
77	15Z -04	?	117.0	71.0	16.0	174	砂岩	
78	15A2-10	Ⅱ	48.8	49.0	10.3	26	砂岩	
79	P035-02		43.2	30.1	9.0	10	砂岩	
80	P045-01		50.0	30.0	9.5	16	砂岩	
81	P098-01		46.3	45.0	9.0	16	砂岩	
82	P277-01		100.0	77.4	20.9	106	砂岩	
83	P298-02		43.0	41.2	4.0	6	砂岩	
84	P484-04		64.2	81.9	14.4	82	砂岩	
85	? -38	?	86.2	45.1	15.0	60	砂岩	
86	? -39	?	61.8	43.7	8.8	28	砂岩	
87	8E -0989	Ⅲ	38.3	36.3	11.7	17.8	細粒珪質チャート	
88	8E -1505	Ⅱ	20.4	18.5	4.6	1.7	細粒砂岩	
89	7Z -4873	Ⅲ	28.6	22.0	4.4	2.3	チャート	
90	7A -4775	?	19.6	17.0	6.3	2.2	チャート	
91	4A2-4561	Ⅱ	30.7	21.5	9.0	6.7	チャート	
92	2C -4790	Ⅰ	29.9	21.5	7.8	4.7	チャート	(挿図50-16)
93	6A2-4834	Ⅱ	31.3	27.1	10.5	8.5	チャート	(挿図50-19)
94	4A1-4865	Ⅲ	65.6	45.6	15.8	41.8	チャート	
95	6A2-4885	Ⅲ	36.8	21.0	8.0	7.9	チャート	
96	8B -4892	Ⅱ	45.2	23.9	4.7	3.4	細粒砂岩	
97	2B -4905	Ⅰ	27.8	20.5	9.2	5.7	チャート	(挿図50-17)
98	2A -4910	Ⅰ	38.2	28.4	6.6	8.5	チャート	(挿図50-18)
99	6A1-5022	Ⅱ	44.2	31.8	12.4	20.7	チャート	
100	6A2-5328	Ⅲ	52.6	35.2	8.5	14.7	チャート	
101	? -5381	排土	51.9	40.3	10.0	22.7	黒雲母安山岩	

14. 凹石・磨石・敲石類

焼：焼成痕、赤：赤色顔料付着、炭：炭化物付着

凹石

No	出土区－番号	層位	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(g)	石質	備考
1	7A1-01		(133)	75	79	(868)	砂岩	1/3欠、凹痕2、 焼
2	7G -20		(167)	93	60	(1549)	砂岩	1/2欠、凹痕1
3	8A1-03		126	94	87	1432	砂岩	完形、凹痕1・敲1
4	8G -15		112	79	65	650	砂岩	完形、凹痕2、 焼
5	8Z -11		77	88	28	190	砂岩	完形、凹痕1、 焼
6	8Z -21	Ⅱ	62	58	29	124	砂岩	完形、凹痕2・敲2、焼
7	8A2-06		116	97	45	644	砂岩	完形、凹痕1、 焼
8	9C -06		97	74	41	402	砂岩	完形、凹痕1・敲1
9	9C -07		92	74	51	450	砂岩	完形、凹痕1、 焼
10	9E -05		(66)	95	49	(451)	砂岩	1/2欠、凹痕1・敲1
11	9E -11		84	84	54	649	砂岩	完形、凹痕2・敲2
12	9E -17		(105)	72	48	(517)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕1
13	9F -01		106	72	75	723	砂岩	完形、凹痕2、 焼
14	9F -11		(188)	104	41	(918)	細粒砂岩	1/3欠、凹痕1・敲1
15	9F -15		130	102	60	985	砂岩	完形、凹痕1
16	9F -17		(118)	101	70	(1048)	砂岩	1/3欠、凹痕1
17	9F -21		124	99	71	904	砂岩	4/7欠、凹痕1・敲1
18	9F -22		83	72	37	268	砂岩	完形、凹痕1・敲1、焼
19	9F -23		130	87	65	835	砂岩	完形、凹痕2・敲3、焼
20	9F -24		81	67	34	452	砂岩	完形、凹痕1・敲1
21	9F -27		(155)	104	82	(1682)	砂岩	1/3欠、凹痕1・敲1
22	9G -01		145	101	50	1070	砂岩	完形、凹痕1、 焼
23	9G -18		135	88	36	422	砂岩	完形、凹痕2・敲2、焼
24	9G -33		80	59	32	150	砂岩	完形、凹痕1・敲1、焼
25	9H -11		(94)	67	38	(400)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕1
26	10A -09		122	76	41	501	砂岩	完形、凹痕1
27	10A -12		(149)	74	75	(850)	砂岩	1/2欠、凹痕2
28	10F -02		(116)	65	53	(352)	砂岩	1/7欠、凹痕2・敲2、焼
29	10F -41		(122)	(109)	(66)	(1320)	砂岩	2/3欠、凹痕1
30	10G -04		(97)	109	47	(551)	砂岩	1/2欠、凹痕2
31	10G -32		(97)	176	68	(1344)	砂岩	1/2欠、凹痕1
32	10H -12		92	38	39	328	砂岩	完形、凹痕2・敲2
33	10H -16		98	82	41	388	砂岩	完形、凹痕1・敲1
34	10Z -02		79	75	58	459	砂岩	完形、凹痕1・敲1、焼
35	11B -07		(81)	83	36	(307)	砂岩	1/2欠、凹痕2・敲2、焼
36	11C -02		150	132	63	1432	砂岩	完形、凹痕2
37	11D -05		(87)	(51)	(32)	(153)	砂岩	3/4欠、凹痕1、 焼
38	11D -06		135	96	82	1071	細粒砂岩	1/5欠、凹痕3、 赤?,再利用?
39	11E -10		128	58	31	299	細粒砂岩	完形、凹痕1・敲1
40	11G -08		106	63	37	260	砂岩	完形、凹痕2・敲2
41	11G -15		(73)	66	29	(200)	砂岩	1/2欠、凹痕1・敲1、赤
42	11H -35		96	75	55	470	砂岩	完形、凹痕2・敲1
43	11H -49		139	116	56	1353	砂岩	完形、凹痕1
44	11H -62		(80)	101	55	(535)	砂岩	1/2欠、凹痕2・敲2、焼
45	11Z -02		(115)	81	(36)	(552)	細粒砂岩	4/7欠、凹痕1
46	12A2-10		125	93	43	812	砂岩	完形、凹痕1・敲3、焼
47	12C -08		(199)	174	87	(3860)	砂岩	1/5欠、凹痕1・敲1
48	12E -17		112	70	33	352	砂岩	完形、凹痕2
49	12G -07		100	90	71	738	砂岩	完形、凹痕1・敲1
50	12G -11		103	78	41	451	砂岩	完形、凹痕1・敲2
51	12G -12		117	82	46	583	砂岩	完形、凹痕1・敲1
52	12H -08		(173)	125	82	(2130)	砂岩	1/2欠、凹痕1・敲1、焼
53	12H -12		89	72	28	247	砂岩	完形、凹痕1、焼
54	12H -15		(98)	66	28	(254)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕1
55	12H -21		94	87	43	529	砂岩	完形、凹痕2

No	出土区－番号	接合	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
56	12H －38		(88)	153	(96)	(1640)	砂岩	1/2欠、凹痕2・擦2、焼
57	12Z －11		(89)	97	56	(612)	細粒砂岩	1/3欠、擦1
58	13D －03		(86)	73	30	(274)	砂岩	1/2欠、凹痕1・擦1
59	14A2－09		110	84	33	378	砂岩	完形、凹痕1、 焼
60	14E －06		(112)	60	34	(311)	砂岩	1/7欠、凹痕1
61	14F －01		128	58	(35)	(430)	砂岩	1/3欠、凹痕2、 再利用？
62	14F －06		126	84	47	509	砂岩	完形、凹痕3・擦2、焼
63	14G －17		(101)	80	36	(360)	砂岩	1/2欠、凹痕1
64	15A －01		(93)	107	55	(618)	砂岩	1/2欠、凹痕1
65	15A2－03		103	(46)	46	(270)	砂岩	1/2欠、凹痕1、 焼
66	15D －20		(75)	131	69	(1350)	砂岩	1/2欠、凹痕1
67	15F －02		(73)	77	46	(350)	砂岩	1/2欠、凹痕1
68	15G －02		109	(85)	(70)	(531)	砂岩	1/3欠、凹痕1、 焼
69	15Y －01		(105)	87	48	(622)	砂岩	1/2欠、凹痕1・擦1
70	15Z －05		96	(48)	40	(290)	砂岩	1/5欠、凹痕2・擦2
71	16E －05	2	(165)	77	60	(1090)	砂岩	1/3欠、凹痕1・擦1
72	16F －23		76	73	77	253	砂岩	完形、凹痕1、 赤
73	16H －03		(136)	(135)	(51)	(1515)	砂岩	3/4欠、凹痕1、 石皿？
74	16H －06		(235)	84	58	1362	砂岩	1/3欠、凹痕2
75	51Z －02		(110)	85	51	(632)	砂岩	1/2欠、凹痕1・擦1
76	P69 －05		(92)	85	47	(512)	砂岩	1/3欠、凹痕1
77	P94 －02		121	62	48	562	砂岩	完形、凹痕1
78	P207－03		128	78	46	659	砂岩	1/6欠、凹痕1・擦1
79	P284－02		207	178	67	2840	細粒砂岩	完形、凹痕1
80	P297－02		121	100	73	824	砂岩	完形、凹痕1
81	P298－04		(113)	177	(72)	(1591)	砂岩	1/2欠、凹痕1
82	P300－01		136	98	33	610	砂岩	完形、凹痕1
83	P391－01		262	95	87	2020	砂岩	完形、凹痕2・擦2・側2、焼
84	P391－10		111	82	35	412	砂岩	完形、凹痕1、 焼
85	P392－04		(87)	54	22	(151)	砂岩	1/2欠、凹痕1
86	P426－04		222	173	100	5180	砂岩	完形、凹痕2、 焼
87	P475－01		118	93	66	921	砂岩	完形、凹痕1、 焼
88	P485－02		131	109	81	1889	砂岩	完形、凹痕1
89	排土 －07		(61)	55	28	(130)	砂岩	1/2欠、凹痕1・擦1、赤？
90	5036		(179)	(119)	(86)	(2670)	砂岩	2/5欠、凹痕3・擦1
91	5055		163	77	46	765	砂岩	完形、凹痕1
92	5060		74	63	52	359	砂岩	完形、凹痕1・擦1、焼

磨石

No	出土区－番号	接合	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	7A1－17		128	105	77	1337	砂岩	完形
2	7A1－19		113	(82)	62	(745)	砂岩	1/2欠
3	7G －09		65	61	54	236	砂岩	完形
4	7G －13		165	91	60	1260	砂岩	完形
5	7G －14		132	82	48	671	砂岩	完形
6	7G －21		116	113	68	969	砂岩	完形、 焼
7	7G －23		112	77	63	889	砂岩	完形、 焼
8	7Z －04		(91)	65	41	(426)	砂岩	1/2欠、 赤
9	8A2－01		98	92	89	1094	砂岩	完形
10	8A2－11		(106)	(177)	70	(1751)	砂岩	4/7欠、 焼
11	8A2－12		(138)	(85)	60	(540)	砂岩	1/2欠、 焼
12	8G －22		(80)	105	42	560	細粒砂岩	1/2欠
13	8Y －01		(106)	79	60	(799)	砂岩	1/3欠、 焼、赤？
14	9A －08		107	80	51	551	砂岩	完形、 焼
15	9A1－01		(65)	92	67	(540)	砂岩	1/2欠、 焼
16	9E －06		(49)	(96)	(50)	312	砂岩	2/3欠
17	9E －09		125	75	59	820	砂岩	完形、 焼
18	9F －02		135	81	78	1368	細粒砂岩	完形
19	9F －18		(90)	(81)	(62)	(410)	砂岩	4/7欠、 焼
20	9G －03		161	48	70	710	砂岩	完形、 焼
21	9G －04		(98)	(90)	(95)	(573)	砂岩	2/3欠、 焼
22	9G －09		(111)	70	41	(512)	細粒砂岩	2/3欠
23	9G －17		89	89	69	780	砂岩	完形
24	9H －09		155	109	47	1068	砂岩	完形
25	10A2－02		(40)	51	37	111	砂岩	1/2欠
26	10E －01		(84)	96	79	(980)	砂岩	1/6欠、 焼
27	10E －02		103	86	87	1118	砂岩	完形、 焼
28	10E －04		86	71	50	411	砂岩	完形
29	10E －09		108	100	79	1200	砂岩	完形
30	10F －05		78	65	81	427	細粒砂岩	完形
31	10F －35		96	71	61	521	砂岩	完形
32	10F －36		(86)	51	44	(258)	細粒砂岩	1/3欠、 赤
33	10G －01		(83)	84	36	(339)	細粒砂岩	1/2欠
34	10G －15		(68)	99	47	(411)	砂岩	1/2欠、 焼
35	10H －03		(48)	83	48	(250)	砂岩	1/2欠
36	10H －08		111	65	38	460	砂岩	完形、 焼
37	10H －13		96	88	71	845	細粒砂岩	完形
38	10H －14		129	94	66	950	砂岩	完形
39	10H －17		81	75	61	454	砂岩	完形、 焼
40	10H －23		(34)	(97)	(46)	(178)	砂岩	2/3欠
41	10H －36		(87)	107	63	(738)	砂岩	1/2欠
42	10H －38		(62)	67	49	(420)	砂岩	1/2欠
43	10H －48		62	50	40	229	細粒砂岩	完形
44	10H －49		143	95	84	1385	砂岩	完形
45	11A －05		87	79	50	508	砂岩	完形
46	11B －06		137	107	85	1749	砂岩	完形
47	11E －05		100	80	76	928	砂岩	完形
48	11E －07		(83)	93	68	(760)	砂岩	1/3欠、 焼
49	11E －11		117	94	71	1080	砂岩	完形
50	11F －10		(161)	83	74	(1225)	細粒砂岩	1/3欠
51	11F －12		(154)	88	66	(1053)	砂岩	1/3欠、 焼
52	11G －26		(68)	101	69	(570)	砂岩	1/2欠
53	11H －10		73	72	71	574	砂岩	完形
54	11H －29		(76)	89	65	(748)	砂岩	1/2欠
55	11H －46		124	117	86	1321	砂岩	完形、 赤
56	11H －60		123	110	62	1152	細粒砂岩	完形
57	12A1－04		157	85	73	125	砂岩	完形、 焼
58	12C －06		(68)	(82)	(40)	(210)	砂岩	1/5欠、 焼
59	12E －07		39	34	26	45	砂岩	完形、 焼
60	12G －02		50	39	35	80	砂岩	完形、 焼
61	12H －38		108	100	68	1070	砂岩	完形
62	12H －40		120	98	91	1359	砂岩	完形
63	12Z －11		124	84	61	1048	砂岩	完形
64	13A1－07		(58)	67	(54)	(272)	砂岩	1/3欠
65	13A1－08		99	74	58	710	砂岩	完形、 赤？
66	13A1－12		110	90	39	531	砂岩	完形、 焼
67	13A2－10		(106)	(81)	(37)	(364)	砂岩	1/3欠、 焼
68	13C －03		118	82	75	1213	砂岩	完形
69	13C －04		105	76	73	803	砂岩	完形
70	13E －04		62	55	42	180	砂岩	完形
71	13F －06		138	115	55	1178	砂岩	完形
72	13F －15		112	101	78	1211	砂岩	完形
73	14F －12		83	80	75	629	砂岩	完形、 赤
74	14F －17		113	82	50	459	砂岩	完形
75	14F －19		88	67	45	(317)	砂岩	1/3欠
76	14F －20		(66)	63	41	(283)	砂岩	1/2欠、 赤
77	14G －12		89	49	45	378	砂岩	完形
78	14G －13		65	32	38	182	砂岩	完形

No	出土区-番号	点数	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
79	14G -22		100	94	57	760	砂岩	完形
80	13D -09		113	90	70	1068	砂岩	完形
81	15Z -06		63	62	37	187	砂岩	完形、 焼
82	16F -05		(90)	65	40	(308)	細粒砂岩	1/2欠、 焼
83	16F -06		(70)	63	78	(782)	砂岩	1/2欠、 焼
84	16F -16		138	109	80	1512	細粒砂岩	完形
85	16G -01		(50)	65	26	(149)	砂岩	1/2欠、 赤?
86	16G -02		(92)	52	29	(217)	細粒砂岩	1/2欠
87	16G -13		122	90	55	900	砂岩	完形
88	16G -19		127	114	83	1741	砂岩	完形
89	16G -22		(97)	96	(82)	(843)	砂岩	2/3欠
90	P001-01		142	86	68	1034	砂岩	完形、 焼
91	P035-03		(48)	41	35	(95)	細粒砂岩	1/3欠
92	P169-01		(165)	(182)	(66)	(3820)	砂岩	3/5欠、 石皿?
93	P186-01		121	91	35	580	細粒砂岩	完形
94	P190-01		140	100	81	1689	砂岩	完形
95	P217-01		122	99	51	761	砂岩	完形、 焼
96	P253-01		132	78	47	548	細粒砂岩	完形
97	P253-02		140	95	75	1243	砂岩	完形、 焼
98	P284-05		154	74	75	1178	砂岩	完形、 焼
99	P360-07		105	91	61	815	砂岩	完形
100	P381-01		(118)	71	71	(813)	砂岩	1/2欠
101	P382-04		82	45	30	151	砂岩	完形
102	P391-03		107	77	51	600	砂岩	完形、 赤
103	P391-04		91	65	75	780	砂岩	完形
104	P391-08		143	85	48	830	砂岩	完形
105	P396-03		106	72	71	716	砂岩	完形
106	P406-04		123	58	35	308	細粒砂岩	完形
107	P406-08		191	170	93	4000	砂岩	完形
108	P438-01		107	96	96	1135	砂岩	完形
109	P484-01		137	89	51	900	細粒砂岩	完形
110	不明 -21		(72)	(71)	56	(457)	砂岩	2/5欠
111	不明 -22		119	95	44	722	砂岩	完形
112	不明 -25		118	97	90	1713	砂岩	完形
113	排土 -04		115	81	39	529	砂岩	完形

敲石

No	出土区-番号	点数	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	7A2-04		(137)	51	39	(389)	細粒砂岩	1/7欠
2	8G -10		(106)	71	51	(397)	砂岩	1/2欠、 焼
3	8G -14		140	117	47	806	砂岩	完形、 焼?
4	8G -18		(117)	82	27	(305)	砂岩	1/2欠
5	8Z -12		(126)	69	56	(566)	砂岩	1/2欠
6	9A -01		(26)	(71)	(84)	(120)	砂岩	4/5欠、 焼
7	9A -13		157	120	100	2310	砂岩	完形、 焼
8	9A1-01		(103)	61	38	(299)	細粒砂岩	1/2欠
9	9E -15		152	78	65	1167	砂岩	完形、 焼
10	9G -14		(140)	96	57	(810)	細粒砂岩	1/2欠
11	9G -23		(83)	26	17	(62)	泥岩	1/2欠
12	9G -36		103	77	73	861	砂岩	完形
13	9H -07		142	82	45	780	砂岩	完形、 焼
14	9H -15		(61)	118	27	(199)	細粒砂岩	1/2欠
15	10C -10		53	49	46	138	砂岩	完形
16	10E -03		139	73	29	370	砂岩	完形
17	10F -09		(62)	(49)	(34)	(114)	細粒砂岩	1/3欠、 赤?
18	10F -18		(59)	(46)	(33)	(115)	細粒砂岩	1/3欠
19	10F -20		(89)	(70)	(51)	(351)	砂岩	3/4欠
20	10H -06		95	69	52	524	砂岩	完形
21	10H -24		114	76	59	730	砂岩	完形、 焼
22	10H -32		95	87	52	480	砂岩	完形
23	11A2-16		(87)	(27)	(51)	(148)	砂岩	5/6欠、 両利用?
24	11H -02		(72)	49	34	(191)	砂岩	1/2欠
25	11H -52		(71)	74	63	(455)	砂岩	1/2欠
26	11H -53		(62)	80	40	(247)	砂岩	1/2欠、 焼
27	12G -05		(81)	89	76	(630)	砂岩	1/2欠
28	12H -10		110	51	24	197	細粒砂岩	完形
29	12H -13		(94)	44	39	(247)	砂岩	1/2欠
30	12H -18		174	50	45	532	細粒砂岩	完形
31	13A -03		(55)	68	67	(278)	細粒砂岩	1/2欠
32	13A -05		77	69	34	224	砂岩	完形
33	13A2-11		147	64	61	756	砂岩	完形、 焼
34	13B -11		137	81	43	580	砂岩	完形、 焼
35	14A -05		184	73	56	999	砂岩	完形、 焼
36	14A1-05		125	75	39	557	砂岩	完形
37	14D -01		84	50	(37)	(208)	砂岩	完形
38	14D -04		(70)	(58)	(34)	(122)	砂岩	2/3欠
39	14F -14		172	75	47	920	石英	完形
40	14G -18		105	68	29	225	砂岩	完形
41	15A1-03		71	61	57	351	泥岩	完形
42	15D -12		(96)	75	47	(385)	細粒砂岩	1/2欠
43	15D -15		98	64	50	362	砂岩	完形、 焼
44	15D -21		(82)	58	39	(230)	砂岩	1/3欠
45	15G -01		(80)	64	27	(198)	細粒砂岩	1/2欠
46	16C -03		138	76	62	879	細粒砂岩	完形
47	16F -04		68	45	17	95	細粒砂岩	完形、 焼
48	16F -09		(121)	61	49	(506)	砂岩	1/2欠
49	16G -02		(75)	46	41	(230)	砂岩	1/2欠
50	P028-01		(151)	(65)	(49)	(481)	砂岩	3/4欠、 焼
51	P095-01		125	92	86	1350	細粒砂岩	完形
52	P284-01		229	84	59	1812	砂岩	完形（接合資料）、焼
53	P406-06		105	63	26	254	砂岩	完形
54	P407-01		64	59	40	189	砂岩	完形
55	P407-03		120	52	37	313	砂岩	完形、 焼
56	P429-05		192	95	39	674	砂岩	完形
57	P429-06		(104)	34	44	(308)	砂岩	1/2欠
58	P430-03		188	75	60	738	細粒砂岩	完形
59	P440-03		169	57	43	422	細粒砂岩	完形、 焼
60	P484-03		(85)	110	53	(559)	細粒砂岩	1/2欠
61	後2 -04		148	73	33	428	砂岩	完形、 焼
62	5038		101	86	36	508	砂岩	完形
63	5059		91	72	46	400	砂岩	完形
64	5064		(80)	63	30	(238)	砂岩	1/2欠
65	5068		(57)	80	46	(247)	砂岩	1/2欠、 焼

凹石・磨石

No	出土区-番号	点数	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	1B -01		155	114	56	1480	砂岩	完形、凹部2・敲2
2	1B -21		110	87	56	766	細粒砂岩	完形、凹部1
3	1C -01		(142)	62	37	(480)	細粒砂岩	1/2欠、凹部1
4	7A1-15		108	100	61	890	砂岩	完形、凹部1・敲1
5	7G -03		104	81	59	630	砂岩	完形、凹部1・敲1、赤
6	7G -11		126	75	61	986	砂岩	完形、凹部2
7	7Z -16		(101)	61	35	(340)	砂岩	1/2欠、凹部1・敲2
8	7G -17		109	93	47	734	砂岩	完形、凹部1
9	8A2-02		94	89	46	603	砂岩	完形、凹部2・敲2
10	8A2-10		173	136	84	2670	砂岩	完形、凹部3、赤
11	8A2-13		133	95	37	509	砂岩	完形、凹部2・敲1
12	8A2-14		129	95	71	1263	砂岩	完形、凹部1
13	8G -04		120	99	41	632	砂岩	完形、凹部1、 焼
14	8G -10		101	99	87	1379	砂岩	完形、凹部2、 焼

15	8G -11	(84)	90	66	(705)	砂岩	1/2欠、凹表2・裏2、焼	
16	8G -17	141	82	67	1100	砂岩	完形、凹表1、 焼	
17	8G -32	130	109	73	(1172)	砂質	1/5欠、凹表1・裏1、焼	
18	9A -11	100	98	47	370	砂岩	完形、凹表1	
19	9A2-07	(164)	86	68	(1040)	砂岩	1/3欠、凹表1	
20	9C -04	103	96	60	587	砂岩	完形、凹表1・裏1	
21	9E -10	135	64	27	(280)	細粒砂岩	1/8欠、凹表2、 焼	
22	9E -12	(78)	73	47	(425)	砂岩	1/2欠、凹表1、 焼	
23	9F -05	76	60	29	219	細粒砂岩	完形、凹表1・裏1	
24	9F -07	105	80	74	865	砂岩	完形、凹表1	
25	9F -12	(105)	87	66	(588)	細粒砂岩	1/3欠、凹表2・裏1	
26	9F -12	102	84	52	462	砂岩	完形、凹表1、 焼	
27	9F -28	108	79	63	698	砂岩	完形、凹表1	
28	9G -08	109	81	55	671	砂岩	完形、凹表1	
29	9G -19	100	84	39	447	砂岩	完形、凹表1	
30	9G -27	97	95	45	590	細粒砂岩	完形、凹表1	
31	9G -28	(159)	87	58	(1004)	砂岩	1/2欠、凹表1	
32	9G -34	72	75	(22)	(172)	砂岩	1/2欠、凹表1	
33	9H -01	88	77	63	646	砂岩	完形、凹表2・裏1	
34	9H -02	95	76	66	559	砂岩	完形、凹表2	
35	10A1-11	131	103	43	988	細粒砂岩	完形、凹表1	
36	10A2-03	119	116	34	1005	砂岩	完形、凹表1、 焼	
37	10B -05	141	107	74	1533	砂岩	完形、凹表1	
38	10E -06	108	76	75	989	珪岩	完形、凹表1、 焼	
39	10E -07	123	70	58	608	砂岩	完形、凹表1・裏2	
40	10E -08	108	78	47	606	砂岩	完形、凹表1	
41	10F -04	(93)	87	69	(889)	砂岩	1/2欠、凹表2-裏2-側2-側1、焼	
42	10G -02	95	85	58	872	砂岩	完形、凹表1・裏1	
43	10G -05	(116)	54	37	348	砂岩	完形、凹表1・裏1・側1	
44	10H -04	117	107	43	(897)	細粒砂岩	1/2欠、凹表1	
45	10H -07	98	59	52	398	砂岩	完形、凹表1	
46	10H -09	139	86	62	925	砂岩	完形、凹表1	
47	10H -23	141	86	61	1060	砂岩	完形、凹表1	
48	10H -28	125	80	67	1028	細粒砂岩	完形、凹表1	
49	10H -43	105	100	82	1204	砂岩	完形、凹表1	
50	10Y -05	70	61	28	158	砂岩	完形、凹表1	
51	10Z -01	110	63	41	390	砂岩	完形、凹表1、 焼	
52	11A1-01	(107)	(61)	(51)	(491)	砂岩	3/5欠、凹表1、 焼	
53	11A2-03	146	65	41	546	砂岩	完形、凹表1・裏1	
54	11E -04	108	98	63	960	砂岩	完形、凹表1	
55	11E -08	110	95	49	750	砂岩	完形、凹表2、 焼	
56	11F -15	(107)	67	60	838	砂岩	1/2欠、凹表2・裏1	
57	11G -10	(124)	89	(76)	(859)	砂岩	3/5欠、凹表1	
58	11G -14	98	91	51	600	砂岩	完形、凹表2・裏2、焼	
59	11G -17	92	75	46	397	砂岩	完形、凹表1・裏1、焼	
60	11G -19	114	89	39	534	砂岩	完形、凹表2・裏2、焼	
61	11H -04	116	79	41	558	珪岩	完形、凹表1・裏1	
62	11H -11	114	(75)	60	(670)	砂岩	1/3欠、凹表1	
63	11H -12	(59)	86	44	(280)	砂岩	1/2欠、凹表1・裏1、焼	
64	11H -14	(57)	88	68	(504)	砂岩	1/2欠、凹表1	
65	11H -18	(103)	84	61	(740)	砂岩	1/2欠、凹表2、 赤、再利用	
66	11H -23	(71)	108	56	(572)	砂岩	1/2欠、凹表2・裏2、焼	
67	11H -27	133	(98)	61	(981)	砂岩	1/3欠、凹表2・裏2	
68	11H -30	81	80	58	496	砂岩	完形、凹表1・裏1・側1、赤	
69	11H -42	99	91	57	640	砂岩	完形、凹表1	
70	11H -43	117	77	37	571	砂岩	完形、凹表2・裏2	
71	11H -48	136	74	41	833	砂岩	完形、凹表2、 赤?	
72	11H -63	(131)	114	54	(1171)	砂岩	1/3欠、凹表1・裏1	
73	12A2-06	(128)	74	52	(715)	細粒砂岩	1/2欠、凹側1	
74	12A -02	145	78	71	1285	砂岩	完形、凹表1・裏1・側1、焼	
75	12F -01	143	97	76	1631	珪岩	完形、凹表1	
76	12F -04	122	88	73	1188	砂岩	完形、凹表1	
77	12G -09	73	68	44	318	珪岩	完形、凹表1	
78	12H -02	(82)	82	51	(552)	砂岩	1/2欠、凹表3・裏2、焼	
79	12H -04	105	92	81	1269	珪岩	完形、凹表1	
80	12H -05	128	82	70	1346	砂岩	完形、凹表1・裏1	
81	12H -22	114	77	46	529	砂岩	完形、凹表1・裏1	
82	12Z -13	103	88	49	550	砂岩	完形、凹表2・裏2、焼	
83	13A -01	138	75	40	560	砂岩	完形、凹表2・裏2	
84	13A -04	(69)	74	26	(230)	砂岩	1/5欠、凹表1・裏1	
85	13A1-09	98	63	41	489	砂岩	完形、凹表1・裏1	
86	13D -04	(74)	(83)	(67)	(662)	砂岩	3/5欠、凹表1・裏1、焼	
87	13D -05	145	98	66	1199	砂岩	完形、凹表1	
88	14A -02	102	(65)	35	(300)	砂岩	1/3欠、凹表1・裏1、焼	
89	14E -04	114	88	74	1193	砂岩	完形、凹表1・裏1・側1	
90	14E -05	171	94	61	1369	砂岩	完形、凹表1	
91	14E -09	128	93	64	1590	砂岩	完形、凹表1	
92	14F -03	(70)	69	42	(394)	砂岩	1/2欠、凹表1、 赤	
93	14F -05	(89)	(105)	(59)	(477)	砂岩	2/3欠、凹表1、 赤	
94	14F -07	(58)	70	46	(170)	砂岩	1/2欠、凹表1、 赤	
95	14F -15	128	90	58	938	砂岩	完形、凹表1、 赤?	
96	15A1-05	103	67	40	370	砂岩	完形、凹表1・裏2、焼	
97	15C -01	121	(94)	(60)	(820)	珪岩	1/3欠、凹表1	
98	15D -18	108	76	59	717	珪岩	完形、凹表1	
99	15G -04	112	95	33	448	砂岩	完形、凹表1・裏1	
100	15H -01	(149)	80	61	(845)	砂岩	1/5欠、凹表1	
101	16C -05	116	87	67	1112	砂岩	完形、凹表1	
102	16C -07	(58)	92	33	(278)	珪岩	1/2欠、凹表2・裏1	
103	16F -19	155	109	47	1199	砂岩	完形、凹表1、 焼	
104	16G -04	140	119	70	1480	砂岩	完形、凹表1	
105	16G -11	112	73	53	718	珪岩	完形、凹表1・裏2	
106	16K -02	93	48	38	230	砂岩	完形、凹表1・裏2、赤	
107	51A -02	113	89	42	580	砂岩	完形、凹表1・裏1、焼	
108	P031-01	131	75	70	1062	珪岩	完形、凹表2・裏1	
109	P048-02	(95)	84	(44)	(403)	砂岩	2/3欠、凹表1、 焼	
110	P065-01	133	61	43	527	細粒砂岩	完形、凹表1	
111	P095-03	(44)	54	32	(95)	細粒砂岩	1/2欠、凹表1、 焼	
112	P099-01	116	83	53	619	砂岩	完形、凹表1・裏1	
113	P189-01	(93)	76	35	(261)	珪岩	1/3欠、凹表1・裏1、焼	
114	P189-01	105	77	77	837	珪岩	完形、凹表1、 焼	
115	P207-02	(87)	72	55	(373)	砂岩	1/5欠、凹表1、 焼	
116	P217-01	(70)	45	21	(108)	砂岩	1/2欠、凹表1	
117	P220-01	(116)	88	53	(610)	細粒砂岩	1/2欠、凹表1	
118	P225-01	107	98	70	1139	珪岩	完形、凹表1、 焼	
119	P229-01	115	83	60	622	砂岩	完形、凹表2・裏2	
120	P329-01	84	81	32	339	珪岩	完形、凹表1・裏1	
121	P359-03	106	80	69	918	砂岩	完形、凹表3・裏1・側1、焼	
122	P387-02	87	62	76	515	砂岩	完形、凹表1	
123	P391-02	98	88	43	507	砂岩	完形、凹表1、 焼	
124	P391-05	101	72	50	548	砂岩	完形、凹表2・裏2・側面各2、焼	
125	P392-02	102	84	46	602	珪岩	完形、凹表2・裏2	
126	P394-02	103	78	51	660	珪岩	完形、凹表1	
127	P396-04	87	71	52	499	珪岩	完形、凹表1・裏1	
128	P407-04	127	88	52	741	砂岩	完形、凹表1・裏1	
129	P426-02	107	94	62	863	砂岩	完形、凹表1	
130	P430-01	(119)	61	39	(413)	細粒砂岩	1/6欠、凹表1	
131	住 -01	123	114	81	1325	珪岩	完形、凹表1・裏1	
132	住2 -02	135	(95)	50	(894)	砂岩	1/6欠、凹表2・裏1	

No	出土区-番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
133	不明 -02		152	87	70	1273	砂岩	完形、凹痕1、　焼
134	不明 -35		82	78	42	350	砂岩	完形、凹痕1・裏1、赤
135	排土 -08		(81)	85	75	676	砂岩	1/2欠、凹痕1・裏1・側2、焼
136	5037		299	201	135	11560	砂岩	完形、凹痕1・裏1
137	5045		(84)	77	70	(397)	砂岩	1/3欠、凹痕1
138	5048		90	86	59	680	砂岩	

凹石・敲石

No	出土区-番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	2D -04		(57)	87	52	(344)	砂岩	1/2欠、凹痕1・裏1
2	7A1-01		129	96	50	869	砂岩	完形、凹痕1・裏1、焼
3	7G -12		138	101	100	1730	砂岩	完形、凹痕1・側1、赤?
4	7G -15		117	74	51	600	砂岩	完形、凹痕1・裏2
5	7G -22		129	(102)	56	(919)	砂岩	1/4欠、凹痕1・裏1
6	8G -28		171	133	88	2880	砂岩	完形、凹痕1・裏1
7	8Z -10		82	78	54	448	砂岩	完形、凹痕1・裏1
8	9B -03		(110)	82	54	(650)	砂岩	1/2欠、凹痕1
9	9E -01		149	61	27	308	砂岩	完形、凹痕1・裏2
10	9E -03		91	62	50	423	砂岩	完形、凹痕1・裏1
11	9E -18		93	93	48	514	砂岩	完形、凹痕2・裏1、焼
12	9F -20		123	90	76	1017	砂岩	完形、凹痕1
13	9G -30		(89)	99	59	(619)	砂岩	1/3欠、凹痕2・裏1
14	9H -04		128	57	37	419	砂岩	完形、凹痕1
15	10A -08		107	72	39	419	砂岩	完形、凹痕1
16	10A1-01		102	61	45	361	砂岩	完形、凹痕1、　焼、赤?
17	10C -03		95	77	50	507	砂岩	完形、凹痕2・裏2、焼
18	10C -08		120	65	41	433	砂岩	完形、凹痕1・裏1、焼
19	10F -01		86	78	38	355	砂岩	完形、凹痕2・裏1、焼
20	10F -13		(100)	45	36	(212)	砂岩	1/2欠、凹痕1、　焼
21	10G -03		(89)	101	63	(850)	砂岩	1/2欠、凹痕1
22	10G -10		112	105	90	1457	砂岩	完形、凹痕1・側1、焼
23	10G -29		139	72	51	771	砂岩	完形、凹痕1・側1
24	10H -01		122	62	35	369	砂岩	完形、凹痕1
25	10H -13		133	68	52	714	砂岩	完形、凹痕1
26	10H -25		96	81	42	419	砂岩	完形、凹痕1
27	10H -27		(80)	56	22	(170)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕1、　焼
28	10H -44		127	79	45	632	砂岩	完形、凹痕2、　焼
29	11A2-01		(75)	81	55	(410)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕1
30	11B -06		133	88	56	955	砂岩	完形、凹痕1
31	11D -01		106	81	44	480	砂岩	完形、凹痕2・裏1
32	11F -16		121	112	57	950	細粒砂岩	完形、凹痕1・裏1
33	11G -02		(75)	82	39	(306)	砂岩	1/2欠、凹痕1・裏1、焼
34	11G -16		104	(56)	53	(301)	砂岩	1/3欠、凹痕2・裏2・側1、焼
35	11G -18		(104)	(89)	52	(570)	砂岩	2/3欠、凹痕2、　焼
36	11G -25		(89)	(86)	(60)	(389)	砂岩	1/3欠、凹痕1
37	11G -28		82	45	32	170	砂岩	完形、凹痕3・裏1
38	11H -11		(65)	61	32	(197)	砂岩	1/2欠、凹痕1
39	11H -21		90	63	39	414	砂岩	完形、凹痕1・裏1
40	11H -41		(86)	76	54	(430)	砂岩	1/2欠、凹痕1・裏2、焼?
41	11H -44		145	111	61	1150	細粒砂岩	完形、凹痕1
42	11Z -19		(100)	73	50	(432)	砂岩	1/3欠、凹痕2
43	12C -05		80	79	60	511	砂岩	完形、凹痕1
44	12E -03		135	72	42	343	砂岩	完形、凹痕1・裏2、焼
45	12G -01		82	77	48	469	砂岩	完形、凹痕2・裏1
46	12G -04		(113)	71	44	(426)	細粒砂岩	1/5欠、凹痕3・裏2・両側各2、焼
47	12G -08		111	(69)	46	(484)	砂岩	1/6欠、凹痕2・裏1・側1、赤
48	12G -10		134	66	41	500	砂岩	完形、凹痕2・裏2、焼
49	12H -07		104	78	34	447	砂岩	完形、凹痕1・裏1
50	12H -08		(119)	63	46	(318)	砂岩	1/6欠、凹痕2・裏2、焼
51	12H -27		125	90	41	652	砂岩	完形、凹痕1、　焼
52	13A1-02		(95)	82	56	(643)	砂岩	1/2欠、凹痕2
53	13B -09		(94)	116	55	(838)	砂岩	1/2欠、凹痕1
54	13G -30		(69)	80	62	(483)	砂岩	1/2欠、凹痕1、　焼
55	13G -31		(91)	62	28	(228)	砂岩	1/3欠、凹痕1
56	14A -01		93	82	30	369	砂岩	完形、凹痕2・裏1、焼
57	14A1-04		88	73	48	411	砂岩	完形、凹痕1、　再利用?
58	14A2-01		88	59	40	200	砂岩	完形、凹痕2・裏1、焼
59	14A2-12		111	88	34	644	砂岩	完形、凹痕3・裏2、焼
60	14D -02		67	66	32	191	砂岩	完形、凹痕1・裏1
61	14D -03		(81)	65	45	(291)	細粒砂岩	1/4欠、凹痕1・裏1
62	14F -08		79	71	28	209	砂岩	完形、凹痕1・裏1、焼
63	14G -01		118	63	40	352	砂岩	完形、凹痕2・裏3
64	14G -10		109	46	37	260	砂岩	完形、凹痕2、　赤
65	15D -18		(86)	65	39	(283)	砂岩	1/4欠、凹痕2・側(1)、焼
66	16F -07		(135)	105	65	(1043)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕1
67	16F -24		(77)	48	29	(165)	砂岩	1/2欠、凹痕1、　赤?
68	16G -12		107	60	25	216	砂岩	完形、凹痕1・裏1、焼
69	16G -13		76	59	47	230	砂岩	完形、凹痕2・裏1、焼
70	16G -23		(112)	(70)	48	(450)	砂岩	2/5欠、凹痕2・裏2、焼
71	16G -44		(95)	79	(45)	614	砂岩	1/2欠、凹痕1
72	16H -05		124	66	44	508	砂岩	完形、凹痕1・裏2
73	50B -07		98	83	43	475	砂岩	完形、凹痕2、　焼
74	P029-01		129	55	47	497	砂岩	完形、凹痕2・裏1・敲打痕2、焼
75	P045-02		(123)	78	46	(598)	砂岩	1/4欠、凹痕2・裏1
76	P300-02		(89)	73	34	(270)	砂岩	1/2欠、凹痕1、　焼
77	P341-02		137	76	43	620	砂岩	完形、凹痕1・裏2
78	P396-02		121	98	55	903	砂岩	完形、凹痕2・側2
79	P480-01		100	90	57	597	細粒砂岩	完形、凹痕1、　焼
80	5056		(95)	94	46	(570)	砂岩	1/2欠、凹痕2・裏2
81	5057		117	76	56	621	砂岩	完形、凹痕1
82	5061		101	84	35	441	砂岩	完形、凹痕1・裏1

磨石・敲石

No	出土区-番号	計測	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	備考
1	3A2-01		(84)	70	68	(518)	砂岩	1/2欠、焼
2	7A1-02		(85)	(100)	(64)	(420)	細粒砂岩	2/3欠
3	7A1-20		(103)	60	(51)	(325)	細粒砂岩	3/5欠
4	7Z -18		142	85	64	860	砂岩	完形
5	7Z -21		112	81	73	870	砂岩	完形、赤
6	8A2-16		107	85	60	580	砂岩	完形、焼
7	8G -21		(76)	76	70	(573)	砂岩	1/2欠、焼
8	8Z -17		(77)	70	24	(141)	砂岩	1/2欠
9	8A2-08		125	51	35	326	細粒砂岩	完形
10	9E -08		(109)	116	64	(663)	細粒砂岩	1/2欠
11	9E -15		(116)	68	59	(761)	砂岩	1/2欠
12	9G -20		(80)	89	41	(466)	砂岩	1/2欠
13	10C -07		138	81	48	510	砂岩	完形
14	10C -12		(63)	58	33	(151)	細粒砂岩	1/2欠、赤
15	10E -10		125	93	80	1423	砂岩	完形
16	10F -12		(116)	54	47	(378)	安山岩	1/6欠
17	10F -26		(104)	98	(64)	(812)	砂岩	3/5欠
18	10F -33		82	73	61	489	砂岩	完形
19	10F -39		(65)	(89)	(30)	(152)	細粒砂岩	1/4欠
20	10G -13		192	103	54	1730	砂岩	完形
21	10G -14		(68)	31	15	(51)	泥岩	1/2欠
22	10G -17		(85)	70	52	(419)	砂岩	1/2欠
23	10H -07		95	82	74	715	砂岩	完形
24	10H -42		142	89	74	1172	砂岩	完形、焼

21	10A2-01		167	82	42	896	珪岩	完形、凹痕3・裏2
22	10B -01		(65)	101	37	(379)	砂岩	1/2欠、凹痕1
23	10B -02		112	104	56	914	砂岩	完形、凹痕1
24	10B -03		109	93	70	871	細粒砂岩	完形、凹痕3・裏2・側1
25	10C -04		127	90	61	992	珪岩	完形、凹痕3・裏2
26	10C -11		(96)	86	37	(488)	砂岩	1/2欠、凹痕1・裏1・側1、敲
27	10D -02		98	74	52	610	珪岩	完形、凹痕1・裏2・側側各1
28	10F -03		134	112	69	1223	珪岩	完形、敲痕1、
29	10F -06		114	98	78	1362	細粒砂岩	完形、凹痕2・裏1
30	10G -07		97	70	38	328	砂岩	完形、凹痕1・裏1・側1
31	10G -16		85	76	52	437	砂岩	完形、凹痕1・裏1
32	10G -21		118	82	60	680	砂岩	完形、凹痕1、 赤?
33	10G -39		100	80	62	628	砂岩	完形、凹痕1・裏1、敲
34	10H -34		152	104	52	1268	珪岩	完形、凹痕1
35	10H -35		118	98	69	993	砂岩	完形、凹痕1、 敲
36	10H -48		(101)	97	41	(550)	砂岩	1/2欠、凹痕1、 敲
37	10Y -01		134	97	72	1431	細粒砂岩	完形、凹痕2・裏1・側側各1
38	11A2-04		103	83	39	542	珪岩	完形、凹痕1・裏1
39	11A2-17		92	86	37	292	砂岩	完形、凹痕1、 敲
40	11E -09		106	88	51	830	砂岩	完形、凹痕1
41	11F -02		133	111	75	1602	砂岩	完形、凹痕1・裏2・側1、敲
42	11F -07		122	56	46	423	砂岩	完形、凹痕2、 敲
43	11F -14		(52)	81	38	(270)	砂岩	1/2欠、凹痕1
44	11F -19		128	107	83	1578	砂岩	完形、敲痕1、 敲
45	11G -03		114	70	33	318	砂岩	完形、凹痕2・裏1
46	11G -07		114	(77)	43	(567)	珪岩	1/2欠、凹痕1・裏1
47	11G -12		(137)	83	54	(803)	砂岩	1/4欠、凹痕1、 敲
48	11H -03		(124)	112	39	(744)	砂岩	1/2欠、凹痕1・裏1、赤?
49	11H -09		110	97	65	1106	珪岩	完形、凹痕1・側1
50	11H -15		133	89	66	994	砂岩	完形、凹痕1、 敲
51	11H -26		148	82	39	711	珪岩	完形、凹痕3・裏2
52	11H -28		87	90	69	680	砂岩	完形、両面1・裏1・側各1(計3)
53	11H -32		101	74	58	616	砂岩	完形、凹痕2・裏1
54	11H -61		(70)	90	59	(421)	砂岩	1/2欠、凹痕1、 敲
55	11H -39		(118)	(82)	66	(813)	砂岩	1/2欠、凹痕1・両側各1、敲
56	11X -01		(93)	107	54	479	砂岩	1/2欠、凹痕2・裏2
57	11Y -01		(102)	63	40	(333)	細粒砂岩	1/3欠、凹痕1
58	12A -05		124	82	62	(740)	砂岩	1/5欠、凹痕1・側2
59	12B -01		131	71	77	1228	砂岩	完形、凹痕3・裏2、敲
60	12E -01		(71)	112	58	(607)	砂岩	1/2欠、凹痕2・裏2、敲
61	12F -05		102	78	51	650	細粒砂岩	完形、凹痕2
62	12G -03		(73)	117	62	(839)	珪岩	1/2欠、凹痕1・裏1
63	12H -17		(73)	45	25	(114)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕1、 敲
64	12H -18		110	82	83	1100	砂岩	完形、凹痕1、 敲
65	12H -23		127	95	50	854	砂岩	完形、凹痕1
66	12H -24		113	86	59	898	砂岩	完形、凹痕2
67	13D -01		120	101	54	873	砂岩	完形、凹痕2、 赤、敲
68	13F -08		(64)	97	44	(482)	砂岩	完形、凹痕1・裏2、敲
69	13F -09		79	68	44	367	砂岩	完形、凹痕1・裏2
70	13F -10		115	85	47	650	砂岩	完形、凹痕2・裏2、敲
71	13G -28		106	89	67	770	砂岩	完形、凹痕1・裏2
72	14A -03		79	60	36	240	砂岩	完形、剥痕1
73	14A2-02		(102)	(69)	54	(502)	細粒砂岩	4/7欠、凹痕1・裏1
74	14D -06		(108)	78	43	(440)	砂岩	1/3欠、凹痕2・裏2
75	14F -02		104	(60)	46	(347)	砂岩	1/2欠、凹痕2、 敲、両利用
76	14F -04		(127)	72	61	(750)	珪岩	1/2欠、凹痕1
77	14F -08		113	84	69	899	砂岩	完形、凹痕1・裏2
78	14F -13		110	73	59	642	珪岩	完形、凹痕2・裏2
79	15D -17		157	73	68	1236	砂岩	完形、凹痕3・裏3

25	10H -47		117	114	58	1141	砂岩	完形
26	11E -03		(82)	97	80	(836)	砂岩	1/3欠
27	11E -09		113	60	47	432	砂岩	完形
28	11F -05		108	91	72	1018	砂岩	完形、 赤?
29	11F -06		(66)	84	48	(391)	珪岩	1/2欠
30	11F -17		138	74	68	1103	砂岩	完形
31	11G -05		227	49	42	767	細粒砂岩	完形、 赤?
32	11G -09		119	81	74	1231	細粒砂岩	完形
33	11H -13		117	98	65	1080	細粒砂岩	完形
34	11H -47		(111)	84	71	(949)	砂岩	1/2欠、 敲
35	12A2-02		185	145	42	980	砂岩	完形
36	12E -02		89	80	70	791	砂岩	完形、 敲
37	12F -03		128	75	47	624	砂岩	完形
38	12H -28		197	99	73	2130	砂岩	完形
39	12X -06		153	109	75	1834	砂岩	完形
40	13A1-13		135	121	81	1730	砂岩	完形
41	13F -19		136	81	54	806	細粒砂岩	完形
42	14F -18		134	54	44	373	細粒砂岩	完形
43	14F -24		(57)	63	23	(103)	細粒砂岩	1/2欠
44	14F -26		126	107	77	1211	砂岩	完形
45	14G -03		83	49	29	110	砂岩	完形
46	15D -06		(77)	81	49	(485)	珪岩	1/3欠
47	15D -14		(75)	78	76	(580)	砂岩	1/2欠、 敲
48	15G -08		125	78	63	850	砂岩	完形、 敲、赤
49	15G -09		146	95	54	1061	細粒砂岩	完形
50	15G -10		133	98	72	1183	砂岩	完形
51	15Z -07		(71)	92	76	(680)	砂岩	1/2欠
52	16E -34		134	76	50	790	砂岩	完形、 敲?
53	16F -01		108	59	39	346	砂岩	完形、 赤?
54	16F -02		(56)	(62)	34	(159)	細粒砂岩	2/3欠
55	16F -11		137	106	76	1717	砂岩	完形
56	P360-06		98	71	54	550	砂岩	完形、 赤
57	P375-01		(86)	56	31	(196)	珪岩	1/2欠
58	P382-02		143	70	49	636	細粒砂岩	完形
59	P391-06		75	60	54	305	砂岩	完形、 敲
60	P443-03		(109)	(75)	(67)	(800)	細粒砂岩	3/4欠、 石皿?

凹石・磨石・敲石

No	出土区-番号	対応	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備　考
1	1B -07		83	62	42	308	砂岩	完形、凹痕1
2	7A1-09		105	70	62	827	細粒砂岩	完形、凹痕2・裏2・側1
3	7A2-02		121	66	50	528	砂岩	完形、凹痕2
4	7C -01		147	98	96	2180	砂岩	完形、凹痕2・裏3・両側各2
5	7C -07		(63)	70	38	(252)	珪岩	1/2欠、凹痕1・裏1
6	7C -19		131	101	57	1120	砂岩	完形、凹痕2・裏2・側1
7	8A2-07		110	67	40	391	砂岩	完形、凹痕2・裏2、敲
8	8C -13		(111)	51	47	(389)	砂岩	1/6欠、凹痕3・裏1・側二、敲
9	8C -14		(113)	60	41	(498)	珪岩	1/3欠、凹痕1・裏1
10	8C -16		(109)	98	41	(614)	細粒砂岩	1/2欠、凹痕2・裏2
11	8C -18		112	86	44	804	砂岩	完形、凹痕1・裏2、敲
12	8C -31		122	121	67	1461	細粒砂岩	完形、凹痕1
13	8C -41		(115)	91	55	(809)	砂岩	1/2欠、凹痕1、 敲
14	8Y -02		103	88	70	928	砂岩	完形、凹痕1、 敲
15	8Z -16		86	89	44	580	粗粒砂岩	完形、凹痕1・裏1
16	9F -06		(57)	85	58	(529)	砂岩	1/2欠、凹痕1、 敲
17	9F -13		112	54	37	328	細粒砂岩	完形、凹痕2・裏1
18	9Y -28		140	74	46	528	珪岩	完形、凹痕2
19	9G -31		(87)	70	29	(255)	砂岩	1/2欠、凹痕2・裏1
20	10A -07		118	46	30	271	砂岩	完形、凹痕1、 敲

80	15D -19	146	97	74	1464	砂岩	完形、凹表1、	硬
81	16Z -01	97	80	44	492	砂岩	完形、凹表2	
82	16D -01	113	59	37	419	細粒砂岩	完形、凹表1	
83	16F -20	117	96	65	980	細粒砂岩	完形、凹表1	
84	16F -22	(145)	87	89	(1195)	砂岩	1/7欠、凹表1、	硬
85	16G -03	(85)	72	43	(275)	細粒砂岩	1/2欠、凹表2・裏2	
86	16G -05	128	110	60	1380	砂岩	完形、凹表1	
87	16G -20	118	85	56	1010	角岩	完形、凹表1	
88	16G -21	(158)	70	52	(730)	砂岩	1/8欠、凹表1	
89	16G -22	105	61	52	473	砂岩	完形、凹表1、	硬
90	16G -32	(78)	(39)	(25)	(107)	砂岩	3/5欠、凹表1・裏1	
91	16H -01	134	71	38	508	砂岩	完形、凹表2、	硬
92	16H -02	128	82	56	870	砂岩	完形、凹表1・裏1、	硬
93	16H -16	161	90	82	1528	砂岩	完形、凹表1、	硬
94	P013-01	107	77	53	588	砂岩	完形、凹表2・裏2、	硬
95	P020-01	111	82	65	849	砂岩	完形、凹表1	
96	P020-05	(91)	68	40	(325)	細粒砂岩	1/2欠、凹表2・裏1	
97	P020-06	(53)	79	32	(180)	砂岩	1/2欠、凹表1	
98	P031-02	(77)	72	34	(258)	砂岩	1/3欠、凹表1・裏1、	硬
99	P069-06	113	76	60	832	砂岩	完形、凹表1	
100	P095-02	(52)	76	35	(177)	細粒砂岩	1/2欠、凹表1、	硬
101	P360-03	(40)	84	47	(191)	砂岩	2/3欠、凹表1、	硬
102	P392-01	107	58	41	359	砂岩	完形、凹表2・裏2、	硬
103	P396-01	142	94	52	1124	砂岩	完形、凹表1・裏1、	硬
104	P407-05	121	97	57	(946)	細粒砂岩	1/5欠、凹表1・裏1、	
105	P426-01	92	65	53	467	砂岩	完形、凹表2・裏2	
106	P426-03	(164)	108	46	(1182)	細粒砂岩	1/2欠、凹表1	
107	P429-04	129	61	35	346	砂岩	完形、凹表2、	硬
108	住2 -05	110	72	43	495	細粒砂岩	完形、凹表2	
109	鉄土 -06	94	70	43	460	砂岩	完形、凹表1、	硬
110	5038	114	65	60	724	砂岩	完形、凹表2・裏2、	硬
111	5042	134	88	70	1430	砂岩	完形、凹表2・裏2・縦側各2	
112	5062	94	61	59	460	細粒砂岩	完形、凹表1	
113	5065	118	90	55	830	砂岩	完形、凹表1、	硬

発掘調査参加者

信州大学

佐々木明助教授・酒井潤一助教授

（学生）伊丹早苗・中垣内薫・原田啓二・友田哲弘・清野文彦

渡辺信也・海野洋子・中島直美

岐阜県教育委員会　北条統督・小森喜代三・清水　進・小沢和夫・各務　斉

安藤和男・高橋宏之・新井　勝・森谷　連・林　芳弘・木村徳治

筒井晴男・南谷繁彰・山内幸子・西村今日子・山口知子

作業員

泉　武光・岩井宗一・小西きよ子・小西直政・小玉春子・小林嘉一

小林さずゑ・佐島岩吉・清水おぎの・清水義太・清生満雄・扇間重男

高橋しも・高橋花子・高橋春江・高橋ひさ・高橋みやの・高橋ゆりの

竹中きさを・竹中としゑ・竹中春子・徳田ふじ・玉井朝子・中川いつえ

中川さとえ・中川　操・中川みさお・中川　洋・中島春男・増元みち

1

2

4

3

5

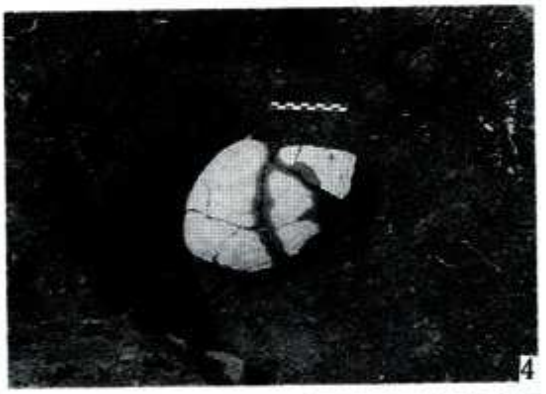
1：はいづめ遺跡遠景　2：第1号土器棺墓　3：第2号土器棺墓
4･5：集石遺構

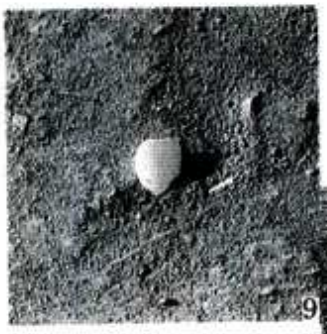
1

2

1. 昭和62年度調査区南地区全景
2. 昭和62年度調査区北地区全景

1～3：発掘作業風景　　5・6：第1号住居跡炉跡　　8・9：第2号住居跡炉跡
4：第1号住居跡　　7：第2号住居跡





1・2：第3号住居跡炉跡
3：土壙墓
4：土壙墓内浅鉢出土状態
5・6：石囲い遺構
7：14－D区土器溜り出土状態
8：12－A区土器溜り出土状態
9：磨製石斧出土状態
10：石刀出土状態

1：第3号土器棺墓掘り方　　5：第5号土器棺墓

2：第4号土器棺墓及び土層　3・4：第4号土器棺墓　6・7：第6号土器棺墓

1

2

3

4

5

6

7

1：第7号土器棺墓　3・4：第9号土器棺墓　6：第10号土器棺墓
2：第8号土器棺墓　5：第10・11号土器棺墓　7：第11号土器棺墓

1

2

3

4

5

6

7

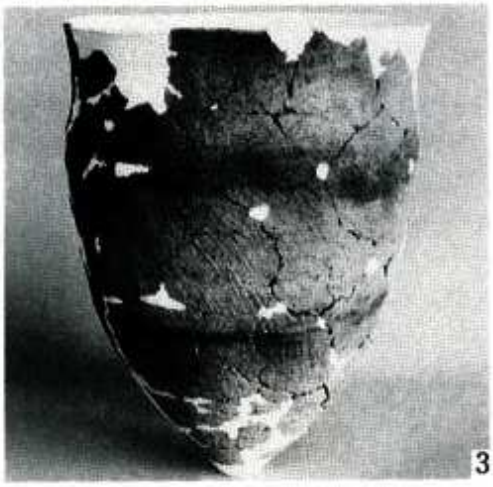
8

1・2：第12号土器棺墓　4：第14・15・16号土器棺墓　6：第15号土器棺墓
3：第13号土器棺墓　5：第14号土器棺墓　7・8：第16号土器棺墓

1：第1号土器棺　4・5：第4号土器棺　7：第7号土器棺
2・3：第2号土器棺　6：第5号土器棺　8：第9号土器棺

1

2


3

4

5

6

7

1：第9号土器棺　4・5：第12号土器棺　7：第14号土器棺
2・3：第10号土器棺　6：第13号土器棺

1

3

2

4

5

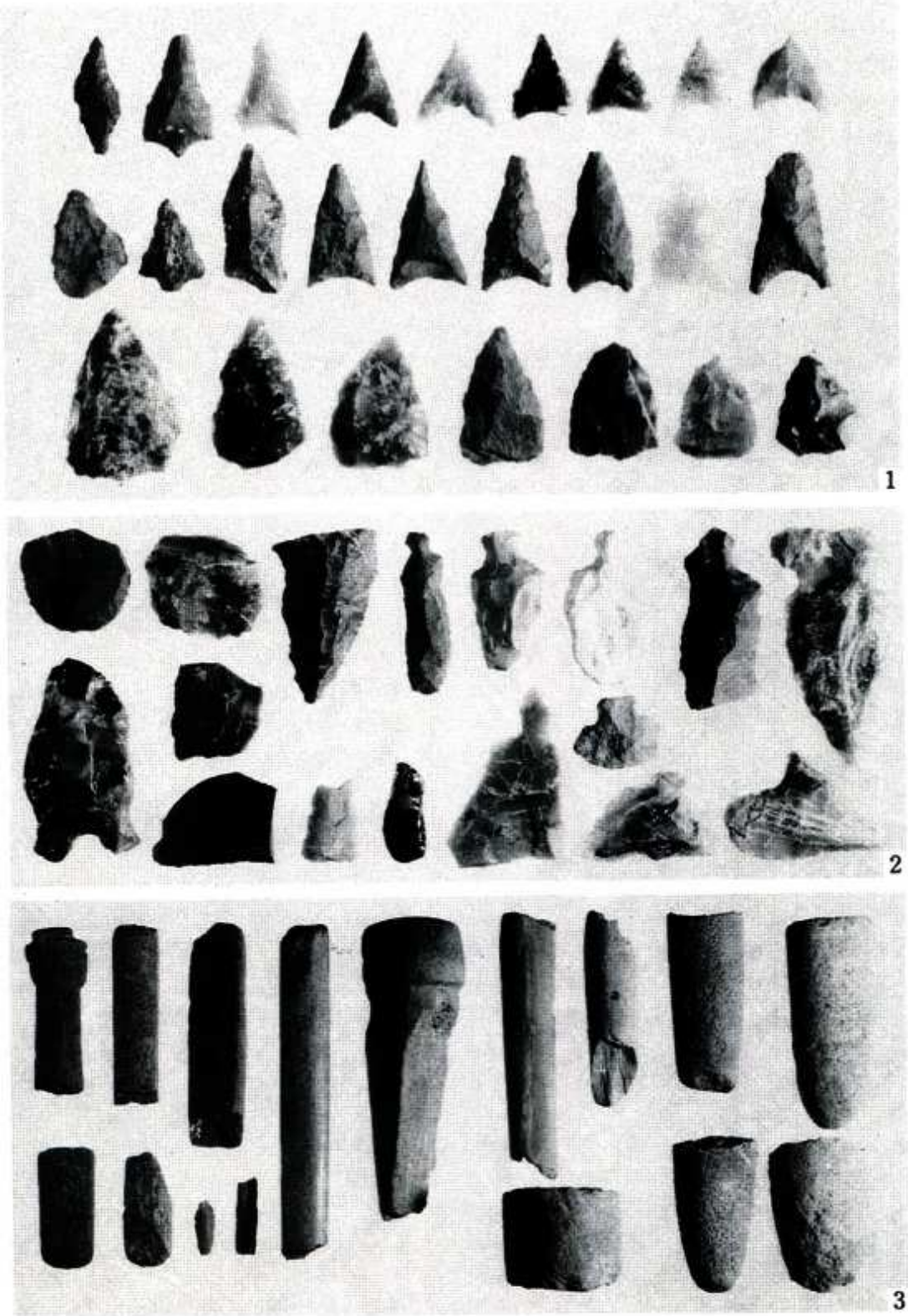
6

7

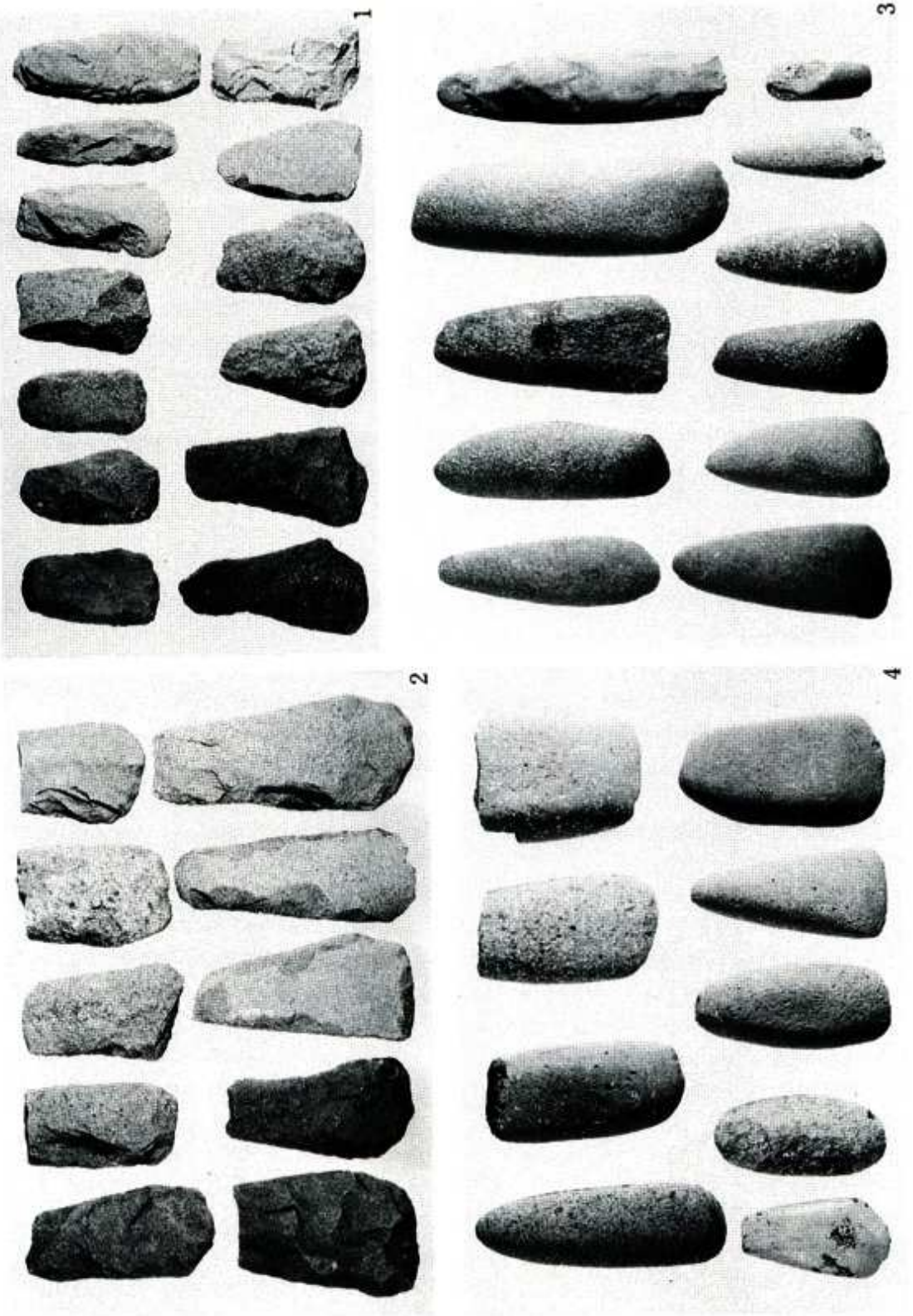
8

9

1·2：第15号土器棺　5：51－Z区土器溜り出土土器　7：13－B区出土土器　9：10－G区出土土器
3·4：第16号土器棺　6：5－D区出土土器　8：土壙墓覆土内出土土器

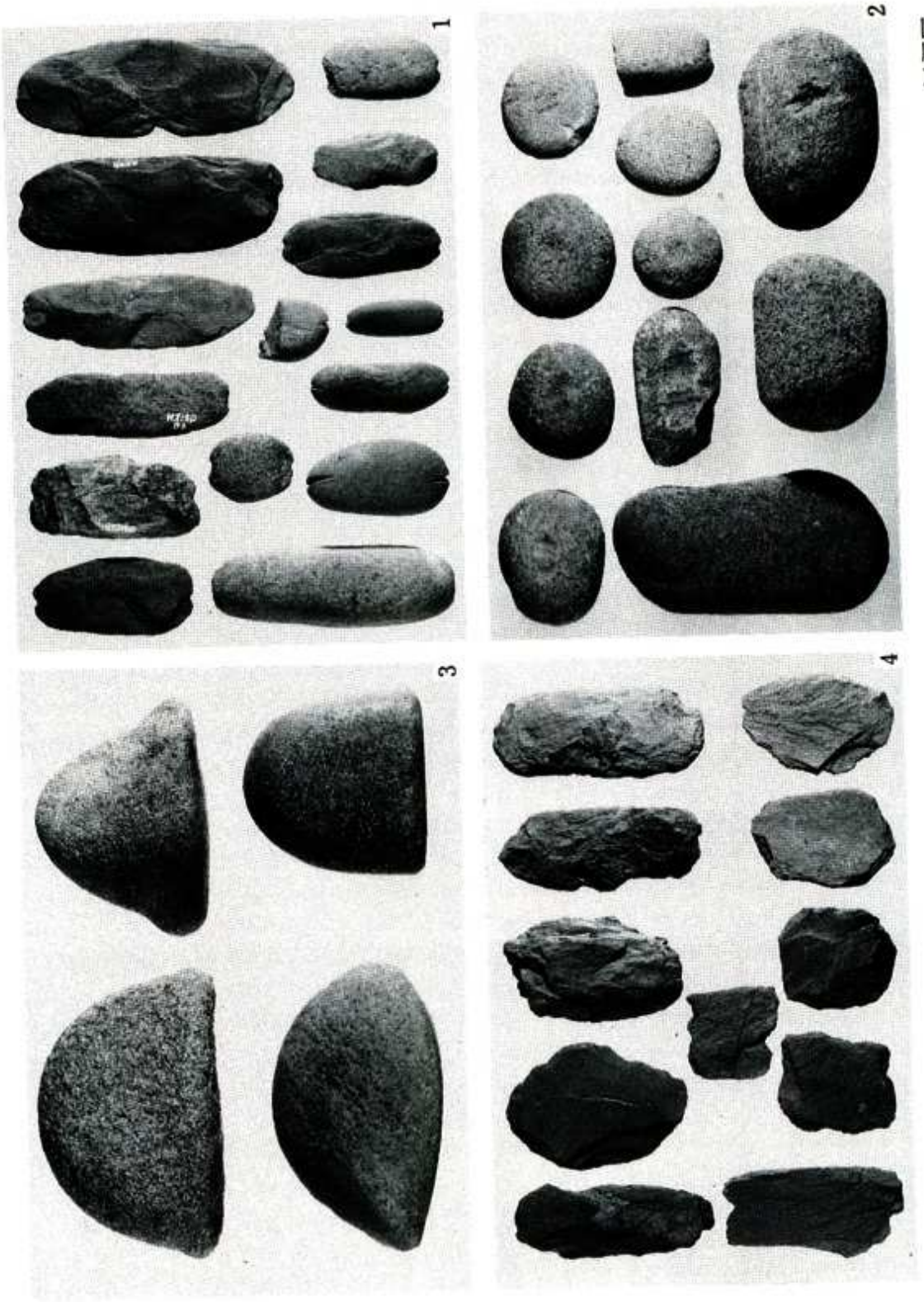


1：石鏃　2：石匙・スクレーパー類・異形部分磨製石器　3：石刀・石棒

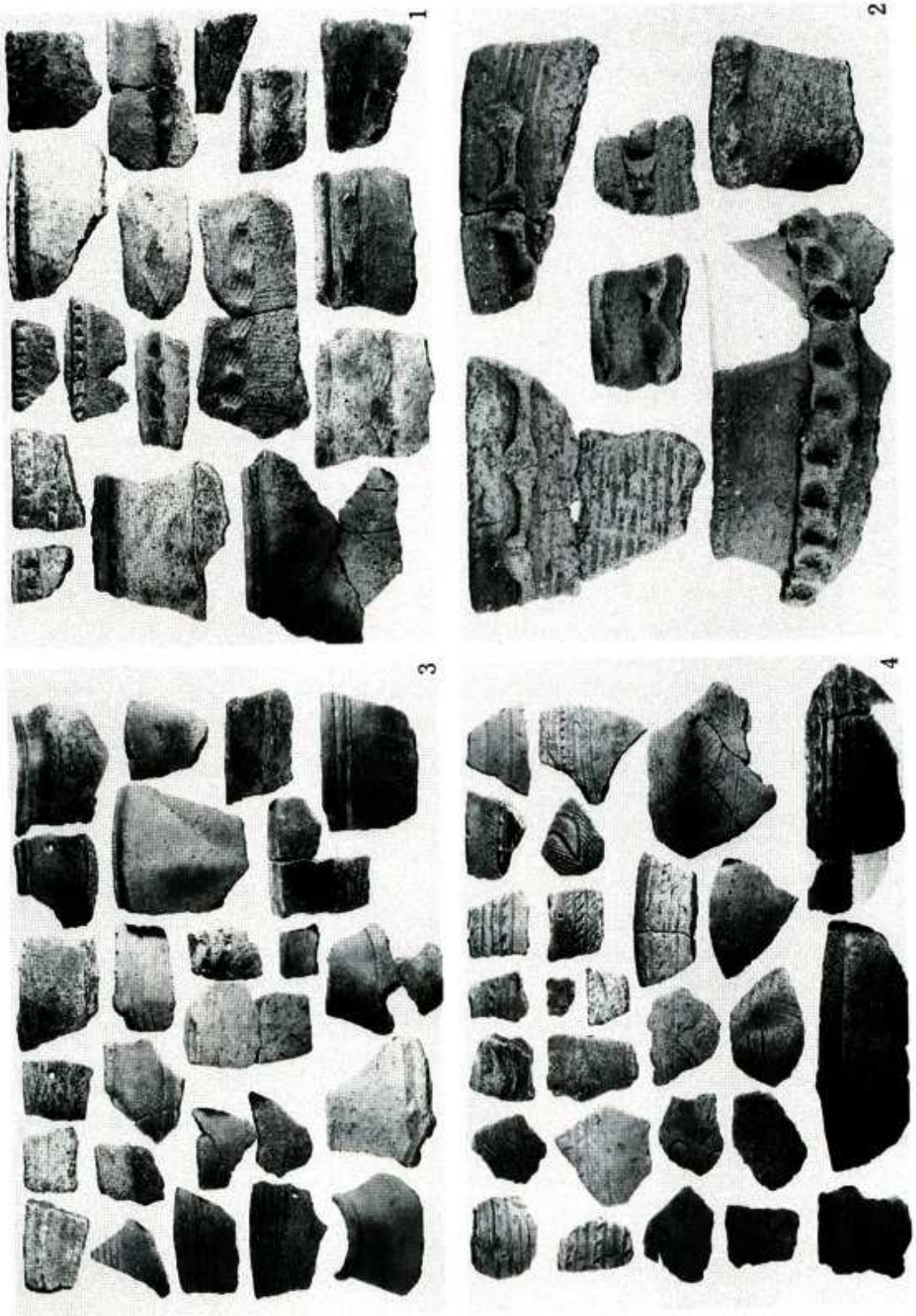


1・2：打製石斧　3・4：磨製石斧

図版13

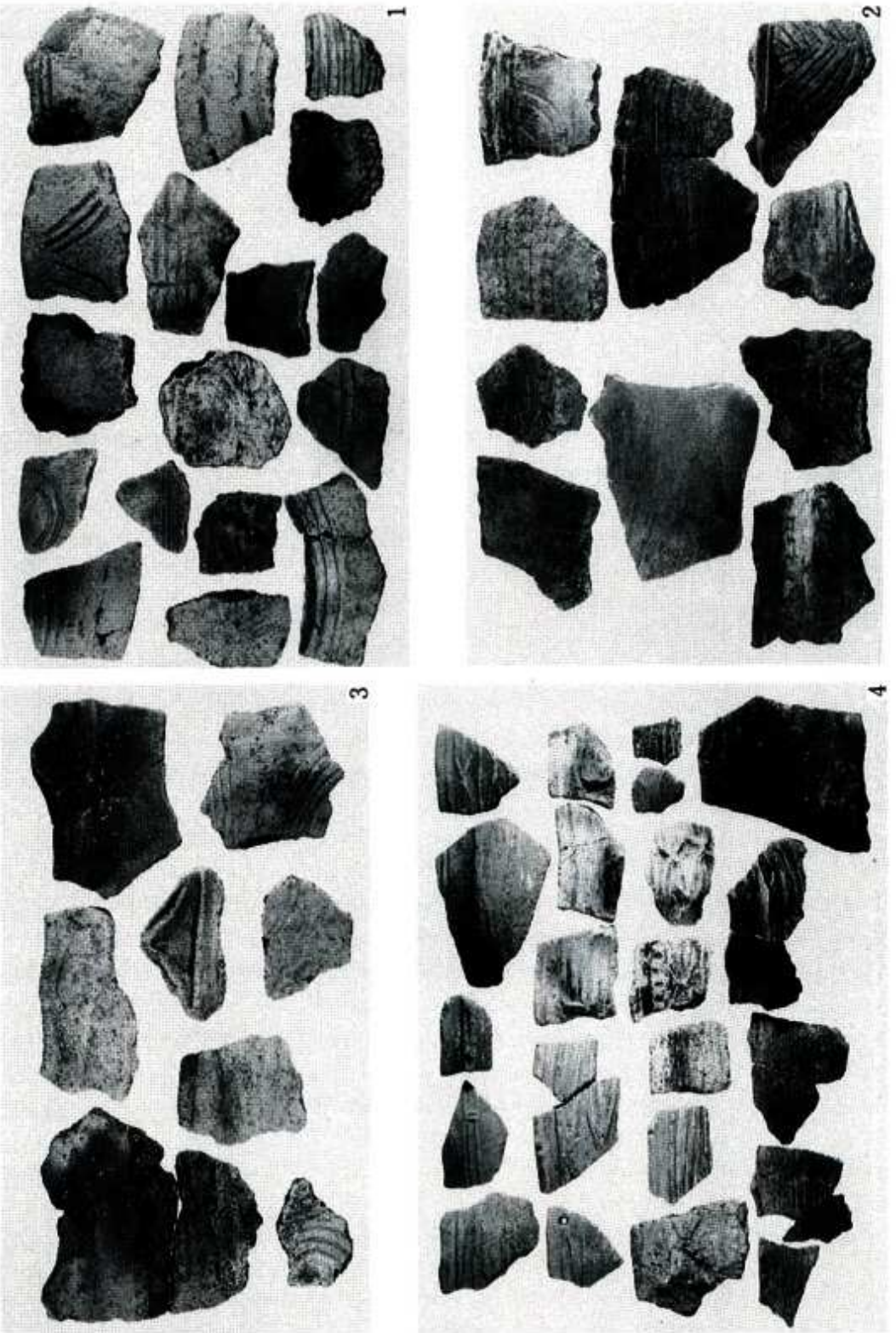


1：石錘　2：凹石・磨石・敲石類　3：石冠　4：薄片石器



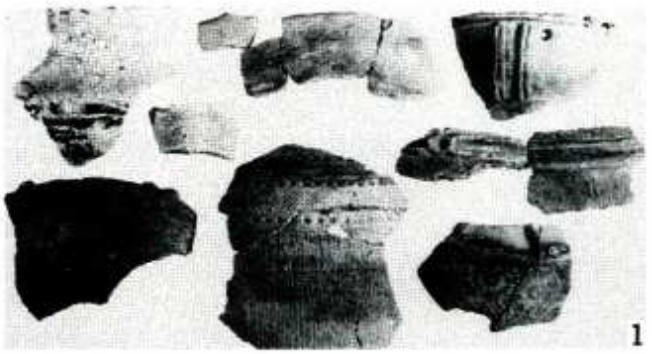
1：縄文土器、第4群・第1類土器(凸帯)　2：縄文土器、第4群・第1類土器(壺)
3：縄文土器、第4群・第2類土器　4：縄文土器、第4群・第3類土器、I類

図版15

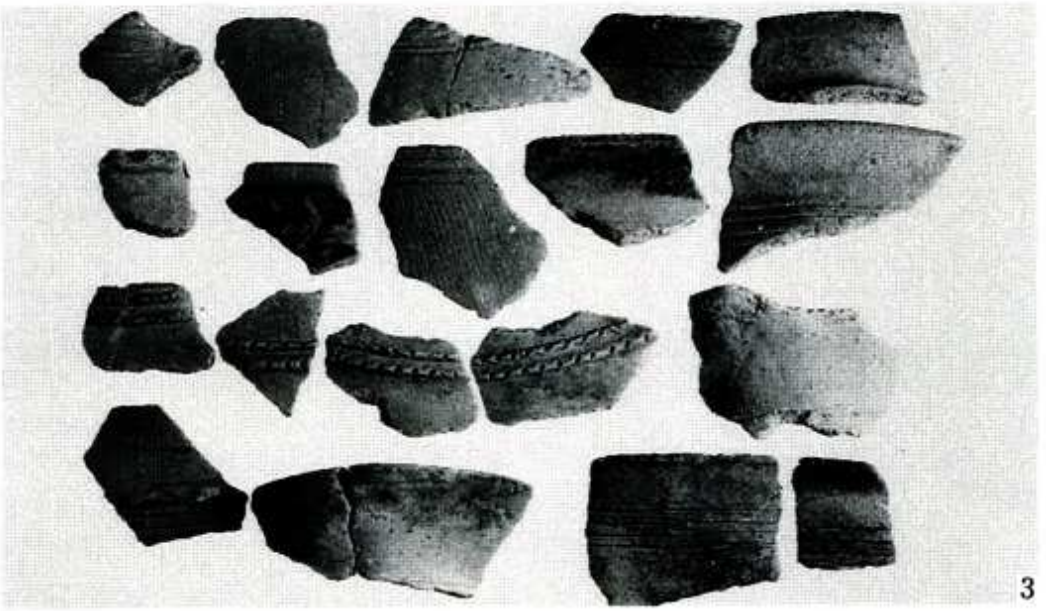


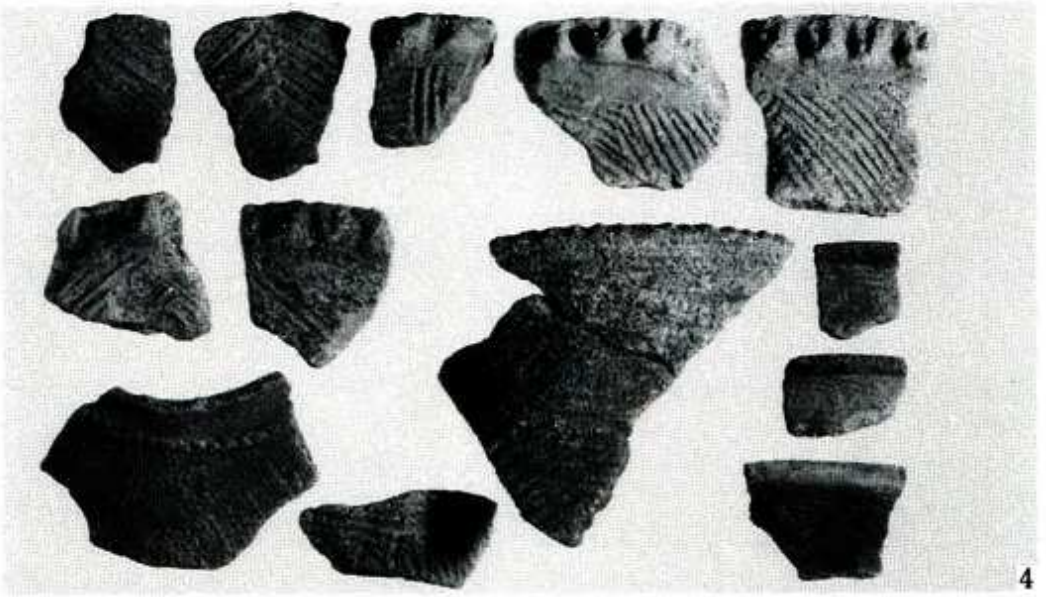
1・2：縄文土器、第4群・第3類土器、II類

3：縄文土器、第4群・第3類土器、III・IV類　4：縄文土器、第4群・第3類土器、V類


1

2


3


4

1：縄文土器、第4群・第3類土器、Ⅵ類　2：縄文土器、注口土器

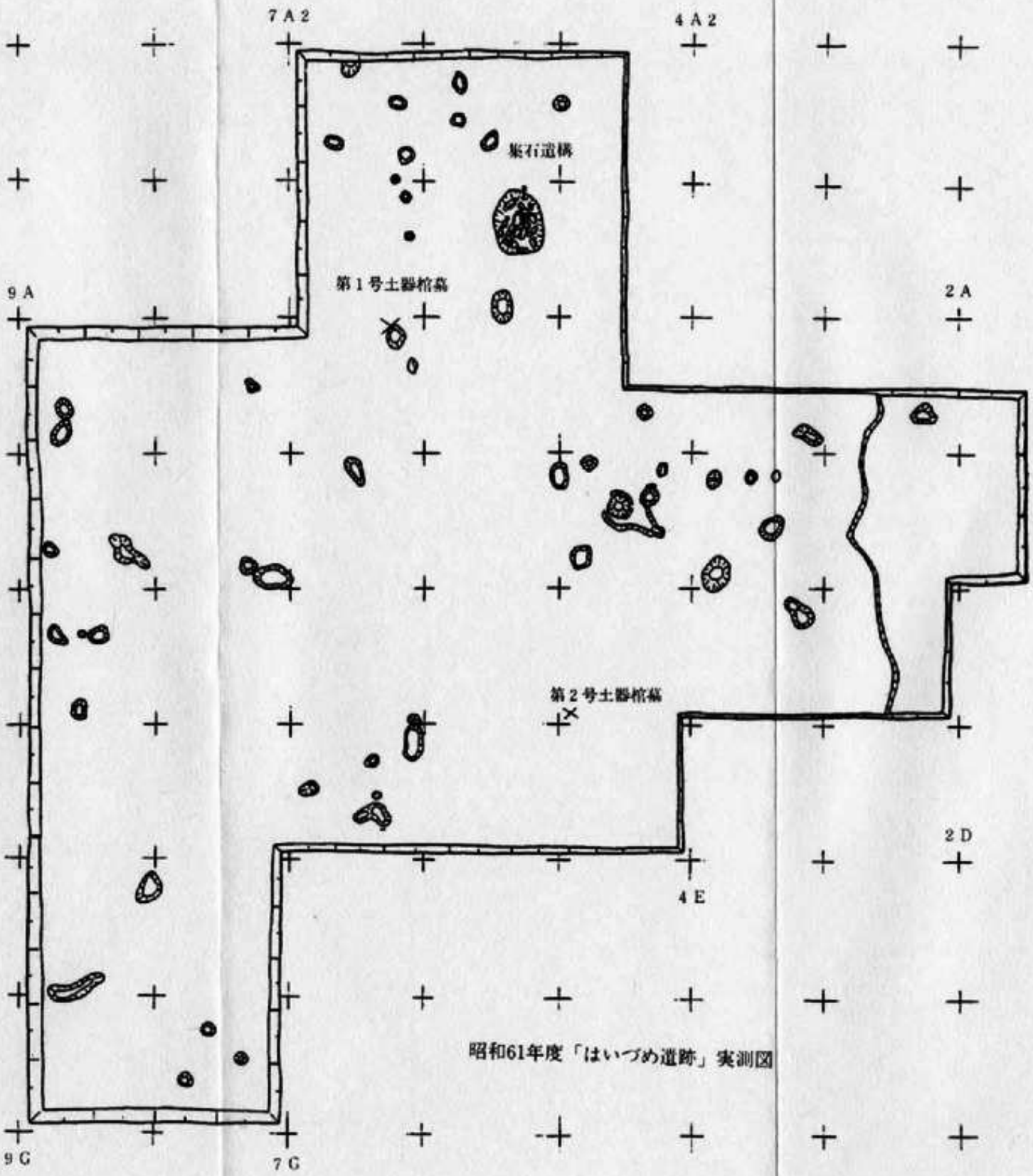
3：弥生土器、第1群土器　4：弥生土器、第2群土器

はいづめ遺跡

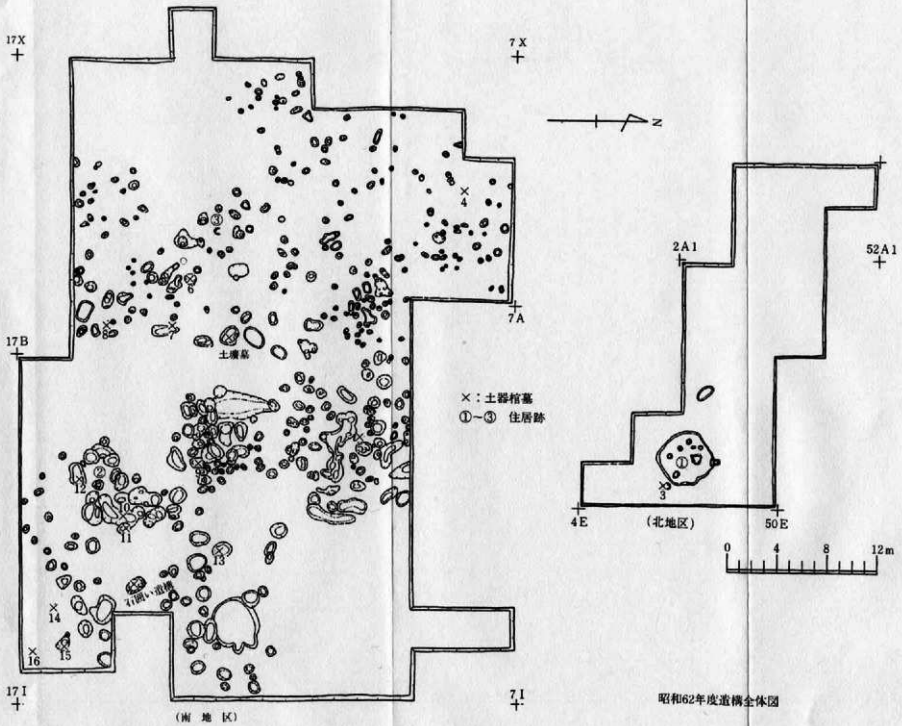
—— 徳山ダム水没地区
埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

平成元年３月30日　初版刊行
平成８年６月１日　再版刊行

発　行　岐阜市薮田１丁目１番地
岐阜県教育委員会



昭和61年度「はいづめ遺跡」実測図



昭和62年度遺構全体図